

ナル性癖ヲシテ高尙ナル情緒ノ監督ニ順ハシメ、外ヨリ發スル誘促ニ依ラズ寧ロ内ヨリ自ラ發セル志念ノ結果トシテ善行ヲ修ムルニ至ラシムルニ在リ。其目的ハ徹頭徹尾道德ノ一ニ歸ス、而シテ苟モ嚴密ニ道德ノ事義ニ合ハザル一切ノ憶度ハ、皆此目的ヲ妨害シ、學校ノ德風ヲ破ル者トシテ排斥セザル可カラズ。

障礙ト成レル憶度 〓 往時ニ在テハ或ハ教師ノ威嚴ヲ保維スルヲ

必要トシ、或ハ規矩ハ貴尊ヲ辨明スルヲ必要トシ、或ハ秩序ハ爲メニ秩序ヲ主持セシヲ必要トシテ、之ガ爲メ大ニ精力ヲ徒費シタリ。

然レモ若シ教師ト生徒トノ間ニ存スベキ關係ノ性質ヲ了解シ、管理法ニ關スル一切ノ計策ノ當否ハ全ク道德上ノ事理ニ照シテ裁決スルノ外無キ所以ヲ十分ニ理解スルモ、右ノ如キ憶度ハ皆忽チ消滅セントス。教師タル者一己一己ノ生徒ニ對シテ爲ス有ラントシ、或ハ學校ノ

全体ニ關スル計畫ヲ定メントスルニ際シテ、自ラ問フベキ所ノ者ハ、凡ソ他人ニ關係シテ爲ス有ラントスルニ際シテ道德上必ス問ハザル可カラザル所ノ者ト敢テ異ナルヲ無シ、即チ他無シ此行ハ之ニ依テ影響ヲ蒙ルル人々ノ幸福、若シクハ一般人ノ幸福ヲ資ケントスルヤ否ヤト云フ是レナリ。若シ肯定ヲ以テ此ノ問ニ答フルコトヲ得バ、則チ其行ハ正經ニシテ其結果有益ナリ、但シ預メ此行ノ繫ル所ヲ十分ニ領會シテ遺漏無カラシテ要スルノミ。若シ否定ヲ以テ之ニ答フベキヲ見バ、其行ハ正經ニ非ス、而シテ假令威嚴、若シクハ規矩、若シクハ秩序ノ之ヲ要スルアルモ、決シテ其レカ爲メニ正經ト成ルヲ無ク、又之ヲ實施スルノ經畫ヲ以テ正當ナリトスルヲ得サルヘキナリ。

余輩ハ此序ニ言ハントス、若シ教師ニ於テ全ク其意志ヲ道德上ノ目的ニ留メ、眞實ニ生徒ノ幸福ヲ増進センヲ願ヒ、且ツ教師タルノ地位及



ヒ處置ニ關係スル道德上ノ疑問ヲ解釋スルニ必要ナル智力ヲ有シ、平生此原理ヲ守テ須臾モ離レズ、一事一物ニ臨ム毎ニ、公正ト眞實トノ精  
心ヲ以テ取捨ヲ辨決セバ、自己ノ威嚴ハ求メズシテ備リ、規矩ハ求メズ  
シテ明ニ、秩序ハ求メズシテ全キヲ得、殊サラニ意力ヲ用非テ此等ノ目  
的ヲ達セントスルノ要無キニ至ルベシト。

願フヘキ改革 || 百折不撓ノ精神ヲ以テ一舉一止必ス善良ナル志

念ニ出テシメ、苟モ善良ナル結果ニ非サルヨリハ自ラ満足セサル道德  
上ノ觀念ヲ主法トシ、學校管理法ノ性質ニ關スル陳腐ノ觀念ト、教師タ  
ル者ハ格別ニ嚴重ナル地位ヲ占ムベシトスル舊弊ノ荒唐無稽ナル觀  
念トヲ削除スルトキハ、秩序ヲ保持スルノ方法ニ關スル從來ノ猛惡ナ  
ル想念消滅シ、勢力ノ主宰ニ易フルニ公道ノ主宰ヲ以テスルニ至ラン  
トス。

最モ高尚ナル道德ノ標準ニ照シテ必要ナリトスル教師ノ資格ハ、第一  
ニ一事一行ヲシテ生徒ニ實益アル者ヲラシメントスル信實ノ願情、第  
二ニ依テ以テ方策ヲシテ目的ニ適合セシムルヲ得ル所以ノ關係ノ  
知識、第三ニ其從フ所ノ事業ノ爲メニハ身命モ忘ル、ノ熱心、第四ニ求  
メスシテ外ニ表ハレテ生徒ノ心服ヲ受クルニ適シタル性質ノ固有ノ  
威勢コレナリ。彼レ只タ自ラ親切心ヲ抱ケルノミニ非ズ、他ヲシテ親  
切ヲ感セシメサル可カラズ、只タ公正ニ處置スルノミナラズ、公正ヲ建  
テ、王トシ、其極メテ善美ナル、求メズシテ天下ノ服從ヲ博スルニ適セ  
サラシメサル可カラズ。其實際ヤ禮節ニ合ヒテ自ラ生徒ノ禮讓ヲ盡  
ス所ト爲リ、其心情ヤ親切ニシテ自ラ生徒ノ親愛ヲ盡ス所ト爲リ、其處  
置ヤ公正ニシテ自ラ生徒ヲシテ公正ノ感ヲ以テ本原ノ念志ト爲サシ  
メ、其行儀ヤ寬裕温順ニシテ自ラ生徒ヲ感化シテ尊貴和雅ナラシメ、又



勤務ニ熱心シテ生徒ヲシテ熱心ヲ起サシメ、他ヲ愛シ、己ニ克チ以テ來生ヲ天國ニ得ントスル貴尊ナル奮發勉強ヲ勸メサルヘカラズ。

**禁制** 〓 不良ナル行狀ハ決シテ許容スヘキニ非ズ、教師ハ之ヲ見ル

毎ニ善ク其性質ヲ辨別シ、一々相當ノ方法ヲ以テ之ヲ處分セザル可カラズ。我意ニ任スルノ氣質ヲ見テハ活潑ナル義舉心ヲ獎勵シテ以テ之ヲ破ラサルヘカラズ、私欲ヲ見テハ他人ニ對スル交感心ヲ衝激シテ以テ之ヲ殺滅セサルベカラズ、無思想ノ習癖ヲ見テハ之ニ因ル過失ノ贖罪ヲ剛強ニ要求シテ以テ之ヲ治療セサルヘカラズ。教師又不良ナル行狀ハ道德上ノ無智ニ因テ發スルノ多キ、猶ホ道德心ノ賤劣ナルニ因テ發スルノ多キカ如クナルヲ領會シ、譴責刑罰ヨリモ寧ロ教育ヲ要スル場合ノ少ナカラサルヲ理會セサルヘカラズ。騷擾、暴行、並ニ公然禮節ヲ破ル等ノ事ハ他ノ策ノ悉ク無効ナルヲ見レバ、身軀上ノ方策

ヲ用非テナリトモ之ヲ禁制シ、機會ノ發スルヲ竣テ道德上ノ方策ヲ施シテ道德上ノ能力ヲ振起セサルヘカラズ。

**間接ノ道德上感化力** 〓 以上揭示シタル道德教育ノ實地施行法ハ

主トシテ偶發ノ部ニ屬セリ。其要ヲ言ヘバ教師タル者生徒ノ身心ヲ圍繞スルニ道德上ノ心情ヲ振起養成スルニ適シタル感化力、及ヒ効力物ヲ以テスヘシト云フニ在リ。然スルトキハ生徒覺ニス知ラズ道德上ノ情感ヲ吸入シテ消化スベシ。即チ彼等ノ道德上ノ本性ヲ發育セシムルニ適當セル者ヲ數フレバ、第一ニ父母親友ノ撫育ニ因テ振起スル親愛、第二ニ他人ノ無私慾ノ行爲ヲ見テ爲ス摸擬、第三ニ難澁及ヒ不幸ニ會フ者ヲ目撃スルニ發スル交感、及ヒ第四ニ自身ヲ他人ノ地位ニ置クト想像シテ以テ行爲ノ結果ヲ益、十分ニ察知スルヲ得シムル所以ノ經驗コレナリ。在學ノ日ニ於テ實行シ得タル道德上ノ行爲ハ結



品シテ原理ト成リ、堅固ナル氣質ト成リテ、爾來特殊ノ場合ニ望ムゴトニ行狀ヲ制督シテ道德ニ合セシムルノミナラズ、又遂ニハ性質ノ全体ニ浸透シ、道德上ノ行爲ヲシテ恰モ天性ノ如ク不知不覺ノ際ニ發セシムルニ至ラントス。

**怠慢ノ弊害** 〓 右ニ云フ如キ間接ノ道德教育ヲ緩慢ニ附スルトキハ、最貴至尊ノ性質ヲ養生スルニ於テ甚シキ妨害アリ。幼少ナル時ニ一旦我意、氣隨ノ常習ヲ生スルトキハ、生涯之ヲ十分ニ攘除スルコト殆ト全ク難キニ至ルヘシ。思想ノ將ニ開發セントシ、習慣ノ尙ホ未ダ成ラザルニ當リテハ、心性ヲ左右スルコト容易ナリト雖、曲折已ニ出テ、活力流行ノ經路既ニ定マルトキハ、強勢ナル計策ヲ用非、爲メニ多量ノ能力ヲ徒費スルニ非サリセバ變改ヲ加ヘンコト難シ。

時期ノ上ヨリ言ヘバ偶發即チノ道德教育ヲ先ニシ、正式即チノ道德教

育ヲ後ニシ、以テ道德ノ原理ヲ微理セントスルニ及テ直接ニ意識及ヒ經驗ニ懇ヘテ其破リ難キ所以ヲ確信セシムルノ材料トスルニ如カズ。思想及ヒ發動ノ自餘ノ衆部門ニ於テノ如ク、道德ノ修陳ニ關シテモ、技術ハ心ズ學說ノ前ニ出デザル可カラズ、則チ意識ノ時ニ開發セントスル幼年ニ於テ、知ラズ識ラズ發達シテ爾來實行シ來レル技術ヲ以テ直接ノ基據トシテ學說ノ開示スル所ノ哲學上ノ原理ヲ設定スルヲ以テ正當ノ順序トス。

**◎直接道德教育** 〓 間接ノ教育法ニ依テ生シタル道德ノ銘心ハ後ニ同シ事目ニ關スル直接ノ學業ヲ以テ之ヲ補ハントチ要ス。交感ヨリ發スル情緒ハ、之ヲ衝動スル事情ト、正當ニ之ヲ費消スル方法トニ關スル知識ヲ以テ漸次填充セザルベカラズ。道德上ノ作爲ニ關スル感



受性ハ德行ノ普關理法ノ知識ヲ以テ修補セザルベカラズ。道德ノ技術ハ局ヲ道理ノ學說ニ結ハザルベカラズ。

今ヤ道理ヲ教授スル事ニ於テモ、尙ホ他ノ諸學科ヲ教授スル事ニ關スル理法ト正ニ同一ノ理法ニ從ハザル可カラズ。先ツ第一ニ心意ヲシテ事實ヲ觀察シ、比較シ、分類スルヲ熟練セシメ、然ル後ニ此等ノ事實ニ依テ推度スルヲ教授スベキナリ。此推度ハ漸次普遍抽象ニ進ミテ遂ニハ道德ノ理法ノ最モ高大ナル者ヲ包括スルニ至ラシムヘシ。斯ク觀察ト經驗トニ由テ立テタル理法ハ、以テ新シキ經驗ニ臨ムノ引指ト爲スヲ得ベキナリ。

**格言及ヒ實行** 凡ソ格言ハ心意ニ影響シテ道德上ノ性質ヲ振起スルヲ甚タ輕少ナル者ナリ。勸世文、道德上ノ規則、意見等ノ復誦、並ニ生徒ノ呼テ説法ト云フ所ノ者ハ殆ト全ク效能無キヲ知ルヘシ。格

言トシテ述ベタル眞理ハ、通例甚タ汎博ナル者ナレバ、特殊具象ノ要求ニ願情ニ臨メバ全ク勢力ヲ失ヘリ。格言ニ依テ授ケントスル所ノ教旨ハ、人々ノ經驗ニ根據スル所無キ者ナルヲ以テ、心意ニ銘刊スルヲ甚ダ淺薄ナリ。サリトテ之ヲ復誦スルハ只タ其弊ヲ重ヌルニ過ギズ。最初格言ノ字句ヲ聞クトキハ、多少ノ意味ヲ感セザルニ非ザルモ、日ヲ經レバ空々タル式目ト成リ、恰モ連續セザル音聲ヲ并ヘタルト一般、全ク意味ヲ失ヘリ。且ツ生徒ハ心ニ之ヲ了解スルノ才能未タ有ラザル時ヨリ式目ヲ貴重セヨト強ラル、ヲ見テ却テ言辭ノミニ留心シテ言辭ヲ以テ表示スル所ノ思想ヲ輕忽ニスルノ氣習ヲ生ズヘシ、此氣習タル甚タシク道德並ニ知識ノ修良ヲ毒害スル者ナリ。道德上ノ格言ヲシテ生徒ノ十分ニ了解スル所ヲラシメンガ爲メニハ、先ツ其格言ニ於テ指示スル所ノ格段ナル眞理ニ對スル道德上ノ感受生ヲ振起シ、且ツ



或ル現實ナル義舉ニ於テ此感受性ヲ發露セシメザルベカラズ。

日常偶事ノ功用 || 前ニモ陳述セシ如ク、日常ノ偶事ハ以テ間接ノ

教訓ノ用ニ供スベキガ上ニ、又以テ直接ノ道德修業ノ料トモ爲スヲ得ベキ者ナリ。或ル事件近隣ニ於テ出來シ、或ハ生徒ノ平素熱心修讀スル新聞紙ニ載録スルアリトセンカ、教師之ヲ摘指シ、全級又ハ全校ノ生徒ヲシテ討議セシムベシ。此場合ニ關スル一切ノ事實ヲ網羅シ、相齟齬スル言辞ノ如キハ成ル可ク調停ヲ試ミ全体ヲシテ首尾連續セル一條ノ叙事タラシメテ、事實ノ關係ヲ詳ニセサルベカラズ。生徒ヲシテ此作用ヲ贊ケシムベシ。斯クシテ生徒ノ交感心ヲ衝動シ、此事變ニ關與セシ諸人ノ種々ノ舉動ト其志念ナリト推察スヘキ所ノ者ト、此等ノ舉動ニ依テ諸人ニ及ボセル結果トヲ取テ裁斷ヲ下サシムベシ。此策ニ出ツルトキハ、生徒道德上ノ點ヨリシテ各自ノ舉動ヲ視察スルノ

習慣ヲ得加フルニ三ツノ所得アルベシ、曰ク道德上ノ感覺ヲ醒起スルヲ、曰ク智力ヲ以テ正義ノ正義タル所以ヲ確認スルヲ、曰ク善業ヲ實行スルノ奮發心ヲ生ズルヲコレナリ。

又或ル時ハ學校ニ於テ起レル議論ヲ直チニ轉シテ以テ重大ナル道德上ノ推度ヲ爲サシムルノ機會トスルヲ得ベシ。即チ全校ノ生徒ヲ以テ裁廳ヲ組織シ証據ヲ舉ケテ斷決ヲ下サシムルヲ得ベキナリ。茲ニ學校若シクハ近隣ニ於テ起レル事變ヲ以テ演習ノ資トスルニ於テ充分ニ注意セサル可カラサル者アルハ他無シ、成ル可ク偏頗若シクハ怨恨ヲ生スルガ如キ事目、即チ校内ノ生徒ヲシテ黨ヲ分ケテ相互敵視セシムルニ至ルガ如キ事件ヲ避クヘキコトコレナリ。

文詞ノ功用 || 道德上ノ真理ヲ解明センガ爲メニハ、雜種ノ文詞上ノ拔萃ヲ以テ教科書ノ定式素讀ニ替フルヲ得ベシ。少シク心力ヲ



用非バ諸家ノ著述中ヨリシテ殆ンド各種ノ學校及ヒ特殊ノ場合ニ適當シタル文章ヲ拔抄セシテ容易ナルベシ。此等ノ演習ニ依テ得タル教訓ノ價格ハ此等ヲ討議スルニ依テ感スル興味ノ深淺ニ比例スル者ナリ。最モ高尚ナル意見ヲ述ヘタル文章ト雖モ、注釋又ハ評論ヲ加ヘズシテ輕々ニ看過セハ殆ド何等ノ所得モ無カラシ、斯クノ如キハ恰モ格言ヲ以テ道德ヲ教ヘントスルニ異ナラズ、思想ハ全ク本心ニ達セズシテ、只タ神經ノ反射作用ニ依リ言詞ヲ復誦スルノミニ止マルベシ。此等ノ文詞上ノ拔萃ハ、直接ニ道德ノ教訓ト成ルノ外ニ又生徒ヲシテ世界ノ最モ善良ナル著述ニ曉通シ、智力ノ範圍ヲ擴張シ、心意ニ充實スルニ貴尊ナル思想及ヒ心像ヲ以テヒシムルノ大功アリ。好尚モ亦自ラ文雅ニ嚮ヒ感覺及ヒ裁智ヲ導テ清淨高貴ナル者ヲ愛玩スルニ至ラシムベシ。

文詞ノ妄用

凡ソ智力及ヒ道德ノ成長ヲ害スル者、賤劣ニシテ情慾ニ奔ラントスル著作類ヨリ甚タシキハ無シ。此クノ如キ著作ニ耽溺スルトキハ、心意若シ夢惜ナル安逸ニ沈マザレバ必ズ熱症ノ不安ニ流レ、現實ニ在リ得ベカラザル事變ヲ喜ブノ念ヲ發シテ、到底人世通常ノ事ノ次第ヲ追テ以テ満足セシメ難キ病性ノ願情ヲ發セントス。此類ノ文章ヲ好ムノ情ハ、恰モ有毒ナル贅肉ノ成長ノ如ク、遂ニハ活力ノ總計ヲ併呑シ、凡ソ人ノ人タル所ニ於テ貴ブベキ所ノ者ヲ盡滅スベシ。毫モ道德上ノ感情ヲ醒起スルハ無クテ、心意ヲシテ一切諸種ノ道德上ノ制督ニ絶エザラシメ、遂ニハ全ク自督ノ能力ヲ滅却シ、一身ヲ以テ輕浮情操ノ向フ所ニ順ハシム。此恐ルベキ結果ヲ豫防セシカ爲メニ、教師ハ絶エス奮勵シテ、人類思想ノ大家ト稱スルニ足ル諸士ノ著述ヲ愛玩スルノ念ヲ養成セザルベカラズ。經驗ニ依テ之ヲ見ルニ、心意ノ



野鄙猥褻ナル事目ニ着セントスルヲ制止スル方法ノ有効ナル者ハ、反對ノ性質ヲ供エタル事目ヲ以テ之ニ填充スルノ策ヲ措テ亦有ラザルナリ。

歴史ノ用

歴史ノ講究ハ、之ヲシテ直接ニ道德教育ニ關係アル者タラシムルヲ得ベシ。即チ歴史ニ見エタル種々ノ人物ノ行爲ヲ其境遇ノ事情及ヒ關係ニ對照シテ周密ニ稽查シ、一切ノ事情ヲ參考シテ以テ斯ル行爲アルニ至リシ所以ノ志念及ヒ其行爲ニ因テ社會ニ及ボシタル影響ヲ推度スヘキナリ。又種々ノ人物ノ經歷ヲ其志念并ニ影響ニ關シテ對比較敵スベシ。人々ノ愛他若シクハ私利ノ性質ヨリシテ其國民若シクハ時世ニ及ボス所ノ結果ニ格段ノ注意ヲ施サ、ルテ得ズ。先ッ一個々々ノ人物ヲ稽查シ、次ニ進テ國是政略ノ國民ノ福祉ニ及ボセル影響及ヒ國民一般ノ性質并ニ經歷ノ文明ニ人世ニ及ボセ

ル結果ノ如何ニ論及スベシ。

又歴史ヲ授講スルノ際、其授講ノ法ヲシテ、國民ノ隆盛及ヒ國民ノ衰凋ノ、道德上ノ原因ニ繫ル所多キ所以ヲ証明スルニ適セシモノヲ難キニ非ス。即チ主義ノ得失ヲ論シ、一人一國ノ行狀ヨリ必然起ラサル無キ結果ヲ詳ニスベシ、又當今地球上ニ存在スル國民ノ自然ニ變遷シテ腕力ノ外ニ人ヲ制スル所以ノ者無カリシ時代ヨリ、漸次進歩シテ道德上及ヒ智力上ノ勢力日ニ益、實効ヲ加ヘントスル文明ノ域ニ至レル次第ヲ説明スベシ。

具象例件

凡ソ愛國ノ心ヲ獎勵スルノ効アル事ニシテ、我カ國民ノ先祖亞米利加ニ殖民シ今日ノ也ガ造化ト爭鬭シ、荒々タル原野ヲ轉シテ豊潤ナル農田ト成シ、彼等ノ公正ノ權利ヲ奪ハントシタル政略ニ屈服セズシテ寧口數年ノ激烈ナル戰爭ニ從事シタル比ノ艱難、辛苦、



犧牲ノ傳記ニ越ユル者ハ無シ。一國ノ自由ノ爲メニ憤戦スル英傑、一身ノ自由ノ爲メニ辛苦スル志士、良心ノ爲メニ艱難スル義人、及ヒ眞理ノ爲メニスル争鬪勝利ハ、必スイツモ深烈ナル情感ヲ惹起シ、私利ヲ忘レテ眞理ノ爲メニ奔走スル事ヲ熱心賞賛スルノ念ヲ生セザル無シ。此クノ如キ人物事蹟ヲ以テ尙ホ幼少ナル兒童ノ心意ニ銘刊スルハ、策ノ最モ得タル者ナリ。サル、フキリツプ、シドニーノ負傷シテ死ニ垂タリシトキ、傍ニ伏セル兵士ノ終焉ニ臨ミ同氏ノ手ニ持テル一杯ノ水ヲ羨ムヲ見テ「彼レノ所須我レノ所須ヨリモ大ナリ」ト言ヒツ、渴ヲ忍ンテ杯ヲ讓リタルナドハ、誰レニマレ其傳ヲ讀ミ其畫ヲ見ル者ノ心情ヲ高尚ニセズンバ非ザル道德上ノ一偉業ナリ。

歴史ノ講究ノ缺乏

——當時世上ニ於テ人ノ目シテ歴史ノ講究ナリト爲ス所ハ、道德上ノ點ヨリシテ殆ト何ノ價格モ無キ者多シ。歴史科

ニ於テ生徒ヲシテ本文ヲ如字的ニ暗記セシムルノ法ハ、直接ニ道德ノ進歩ニ反對スル結果ヲ生スヘキヲ、猶ホ其智力ノ進歩ニ反對スル結果ヲ生スルカ如キモノナリ。徒ラニ言詞ノミニ意ヲ注カシムルカ爲メニ、本旨ハ返テ第二段ニ置キ、或ハ全ク忽棄スルノ習慣ヲ生シ、道德ノ根據スル所タル關係ニ至リテハ更ニ意ヲ注クヲ無ク、終ニハ何事ニ就テモ關係ヲ輕視スルノ氣質ヲ生セントス。國民ノ年代記、戦争ノ細報、王統ノ變更等ハ之ヲ以テ高尚ナル眞理ヲ見得スル所以ノ事實ト爲シテコソ肝要ナレ、只ダ其儘記憶セシムルノミニテハ、心意ノ發育ヲ助ケ、實地ノ儀範ヲ示シ、有徳ノ行狀ヲ勸ムルニ於テ更ニ所得無キ者ナリ。購求ノ法ニシテ單ニ歴史ノ事實ニ曉通スルノミヲ以テ足レリトシ、事實ノ間ニ見ル可キ關係及ヒ旨趣ヲ憶度セントセザル者ノ如キハ、歴史ヲシテ最大價格アラシムル所以ノ元素ヲ悉ク缺キ、苟モ明智ニ合ヘル教



育ノ体系ニ於テハ實行スルニ足ラザル者ナリ。

道德理學

——科級稍、上進スルニ及テハ、實驗ト道德ノ因物的ノ講究

トニ依テ得タル歸納論及ヒ推度論ヲ結括シ、以テ道德ノ理學ト爲シテ  
 循心的ニ之ヲ教示スベシ。此章ノ初部ニ掲載シタルガ如キ道德ノ原  
 理ヲ周密ニ論辯シテ實例ヲ示スベシ。道德上ノ行爲ノ制限及ヒ道德  
 上ノ本分ノ範圍ヲ嚴密ニ確定セザルベカラズ。生徒ヲシテ所須、權利  
 本分ノ結果及ヒ其相系属スル次第ヲ了解セシメサルベカラズ。生徒  
 ナシテ道德上ノ裁斷ノ標準ニ熟通セシメ、以テ日常行爲ノ間ニ之ヲ使  
 用スル、恰モ心意ノ一種ノ習性ノ如キアラシメザルベカラズ、且ツ一事  
 一舉ト雖モ必ス先ツ其道德上ノ性質ヲ分解シテ後、始メテ之ヲ實行セ  
 シムベシ。生徒ヲシテ慈善ノ思念ハ苟モ人ノ人タル所以ノ性命ヲ完  
 クセント欲セバ到底缺ク可カラザル元素ノ一タル事ヲ感知シ、他人ノ

幸福ヲ憶度スルノ缺ク可カラザルコト猶ホ自己ノ幸福ニ注意スルノ  
 缺ク可カラザルガ如クナル所以ヲ見得シ、此世ニ人タルノ大目的ノ一  
 ハ吾人ノ行爲ヲ修整シテ人類ノ幸福ヲ増進セントノ望願ヲ成ル可ク  
 十分ニ充タスニ適當ナラシムルニ在ルヲ了解セシメザルベカラズ。  
 人類ノ本分ニ關シテ此ニ言フ如キ見解ヲ取ルトキハ、人々ノ幸福ト公  
 衆ノ幸福トヲ以テ一ニ致シ、其間ニ反對スルカ如キ者アリト見ユルハ  
 畢竟人世ノ關係ニ就キテノ知識ノ未熟不完全ナルト、斯ク不完全ナル  
 知識ニ依テ作爲スルトニ依テ出ツル者ナルコトヲ理會スルニ至ルヘ  
 シ。此見解ハ性命ト其應有ノ幸福トニ關スル關係ヲシテ廣濶尊大ヲ  
 加ヘシム、又道德ノ基本ヲシテ直チニ人類ノ心性ニ根據スル者タラシ  
 メ、道德上ノ理法ヲシテ新出ノ旨趣ヲ備ヘシム、委シク云ヘバ、道德ノ規  
 律ヲ以テ人類ノ外ニ存スル正權ヲ人類ノ間ニ迫行セントスルニ出ツ



ル者トセズ、本來人類ノ人類タル所以ノ一部ニシテ其幸福ニ必要ナル  
 ガ上ニ又其存在ノ爲メニスラモ缺ク可カラザル者トスルナリ。經驗  
 ナ廣ムルニ從ヒ、觀察上ノ事實ニ照シテ道德ノ規矩ニ順合スル事ノ彼  
 我ニ利有ル所以明白チ加ヘ、逐ニハ智力ニ於テモ自ラ求メテ順合チ勉  
 ムルニ如カスト悟了スルニ至ルヘキナリ。是ニ於テカ賢聖ノ格言並  
 ニ彼ノ金律前注スニ如キモ新出ノ意味ヲ得、爾來之ヲ目シテ遵奉スヘキ  
 ノ命令ト爲サズシテ、注意スヘキノ要訣ト爲スニ至ルベシ。此等ノ格  
 言規律、吾人ノ望願チ仰壓シ自由チ減縮スル專斷ノ指揮トシテ發スル  
 コト止ミ、轉シテ性命ヲ完全ニシ、一生ヲ隆渥ニスル所以ノ唯一ノ法策  
 タル有益關係ノ修述タリ啓示タルニ至ルヘシ。

◎社會ノ關係 〓 就中道德上ノ行爲ノ引指トシテ有用ナル知識ハ

社會ノ關係ニ關スル者コレナリ。人類ノ幸福チ増大スル者ノ何タル  
 チ知ラント欲セバ、必ス先ツ他人ニ涉與スル事物ニ就テハ如何ナル方  
 向チ取ルベキヤチ決セザルベカラズ。志念ハ最モ潔白ナリト雖モ、豫  
 メ此知識チ供ヘザレバ、重大ナル誤謬ニ陥リ易キ事ヲ以テ見レバ、社會  
 學チ講究スルコト必須ノ一事ト成レリ。教師此事目ニ熟通スルモ、生  
 徒チシテ之ニ關スル事誼ニ熱心セシムルコト又難キニ非ザルベシ。蓋  
 シ最初ニハ簡短ナル一般ノ作文チ毎周一回若シクハ二回ツ、命スル  
 ニテ事足ルベシ。此等ノ作文ニ於テハ社會上ノ疑問チ明晰ニ指示シ、  
 生徒チシテ成ル可ク十分ナル思想チ之ニ注カシムベシ、而シテ後教師  
 自ラ親密ニ生徒ト共ニ討議シ、生徒チシテ自ラ道德ノ原理ニ照シテ裁  
 決セノコトチ勉強セシムベシ。  
 此クノ如キ教育法チ施セバ得ル所ノ利益、一ニシテ足ラズ。生徒ノ爲



メニ日々ノ教場ノ課業ノ外ニ於テ思想ノ一新範圍ヲ開發シ、推理力ヲ誘促シテ社會ノ道德ニ關スル一切ノ關係ヲ觀察シ、各種ノ事實ヲ以テ一々其處ニ置キ、裁斷力ヲ教練シテ十分確定セル原理ニ從ヒ裁決ヲ下スヲ得セシメ、本分ノ標準ニ照シテ一切ノ行爲ヲ可否シ、道德ノ見解ニ訴ヘテ一切ノ疑問ヲ憶度スルノ必須ニ於テ道德ノ能力ヲ醒超スルニ至ルベシ。

**家族** 社會ノ表面ニ現ル、構造ハ煩雜ナリト雖モ、要スルニ皆親族ノ關係ニ根據セザルハ無シ。是故ニ爰ニ一條ノ疑問ヲ生ス、他無シ、夫タリ、婦タリ、父タリ、子タリ、兄タリ、弟タルノ本分ヲ如何ニ經理スルトキハ、家族一切ノ事件ニ關シテ精力ヲ浪費スル最モ僅少ニ、勞力及ヒ撫育ノ配分最モ公平ニ、人々自由ノ制限最モ緩和ニ、各自權利ノ保護最モ周密ニ、相互相益セントスルノ望願最モ強大ニ、兒童ノ養育最モ懇切ニ、

剛毅尊重ナル性質ヲ發育セシムルノ機械最モ完全ナルヲ得ヘキヤト云フ是レナリ。道德ノ普關理法ハ此等ノ疑問ヲ十分ニ答釋スルノ關鍵ヲ呈セリ、然リ而シテ教師ノ務ムベキ所ハ、此理法ヲ分解シテ、特殊ノ場合ニ適用スルノ路ヲ詳示シ、以テ其理法ノ精神ヲシテ生徒ノ心身ニ周透セシメ、道德ノ氣習ヲシテ深淵且ツ永久ナラシムルニ在リ。此序ニ云ハント欲スル事ハ他無シ、今此等ノ事ヲ綿密ニ討究スルトキハ古來東西ニ於テ道德家ノ子ヨリ親ニ對スル本分ヲ切論スルコト其當ヲ過キタルニ反シ、親ノ子ニ對スル本分ニ注意スルコト尙ホ未タ盡ササル所アルヲ發明スベシ、是レ他無シ、本分ヲ講スルノ書ハ親タル人ノ著作セシ所ナルヲ以テ、子ノ利ヲ保護スルコト未タ充分ナラザルニ因ルコトナリ。

**一般社會** 家族ニ尋テ攻究スベキ者ハ人世及ヒ社會一般ノ利害



コレナリ。其疑問ニ曰ク、吾人ト、同一社會ニ住ム吾人ノ同輩トノ間ニ存スル關係ハ何ゾ、而シテ此ノ關係アルノ故ニ吾人ノ上ニ生スル義務ハ何ゾ。吾人何ヲ以テ言論ヲ眞實ニシ、行爲ヲ正直ニシ、義務ヲ完了シ、契約ヲ履行スヘキナリヤ。賣主ト買主トノ關係、傭主ト被傭者トノ關係、勞力者ト資本主トノ關係等ニ繫ル疑問モ皆此部ニ屬ス。此等ノ事ニ關スル人類ノ道德ノ本性及ヒ知識發育スルトキハ、一方ニ於テハ資本主ノ非道ニ勞働者ヲ壓虐スルコト罷ミ、又一方ニ於テハ勞働者ノ凶惡ナル反逆ヲ企テ、資本主ヲ苦シムルコトモ行ハレ難クナルベシ。其故他無シ、彼我ノ關係ヲ見知スルトキハ、各自ノ幸福ト衆人ノ幸福トニ關シ親密相離レサル關係アル所以ヲ知り、公衆ノ善ヲ捨テ、獨リ一己ノ利ノミヲ計ルハ恰モ世界一統ノ道德上ノ勢力ヲシテ我カ身ニ敵對セシメントスルニ外ナラサルコトヲ悟ルヘケレバナリ。

此事目ノ誇ル處ハ法律ノ圍範トスル所ト合同セリ、而シテ法律ニシテ果シテ正義公道ト旨主チ一ニスル者ナラシニハ、是レ只タ道德ノ異名タルニ外ナラザルナリ。其實法律ノ據テ立ツ所以ノ者ハ道德上ノ關係ニ於テ之ヲ命スルニ在リテ、法律ノ人世ヲ益スル所以ノ者ハ、全ク道德上ノ原理ヲ統体スルカ故ナルノミ。

**國政** 政府ノ体面ヲ組成スル社會ノ編制モ、是レ亦人世ノ關係ノ一相ナリ、是ヲ以テ嚴密ニ道德ノ範圍ニ關屬セリ。人或ハ立法ノ事ヲ以テ全ク道德ニ干涉スル所無キモノナリト爲スト雖モ、余輩ノ所謂道德ナル者ノ定義ニ照シテ見ルトキハ、立法ハ道德ヲ措テ外ニ關與スル所ナキ者ナルヲ明白ナリ。政府ノ權力ニシテ正當ナラントスレバ、必ス被治者ノ同意ヨリ出テザルヲ得ス、故ニ人々ノ意志ヨリ出ツル所以ヨリ言ヘバ則チ政府ノ本分モ人々ノ本分ト符合セザルベカラズ、而シ



テ權利ヲ保護シ公益ヲ計ルヲ以テ其目的トセザルベカラズ。政府ノ社會ニ對スル關係、國政ヲ主理スル者ノ本分、政府ノ行爲ノ制限、及ヒ制定律ニ應用シテ其確實ヲ辨明スル所以ノ標準等ノ知識先ツ存スルニ非ザレバ、此等ノ疑問ニ關シテ明智ニ合ヘル道德上ノ行爲アラゾク難シ。公正ナル法律ヲ廢弛シ、必要ナル制限ニ違戾スルヨリ生スル者ハ、無政府ナリ、是レ道德ノ反對ナリ、之ニ反シテ不正ナル典律ニ服従スルハ自由ヲ滅却シテ道德ノ發育ヲ障止ス。故ニ政府一切ノ事業ハ道德ノ標準ニ照シテ之ヲ裁決セサルベカラザルヲ明白ナリ。

**實地ノ道德** 〓 既ニ心意ニ充タスニ社會ノ關係ニ關スル知識ヲ以テスルヲ得タル上ハ、前ニ因物的ニ開示シタル道德ノ理法ヲ、今ハ循心的ニ適用シテ將來ノ行狀、新奇ノ經驗ニ當ルノ導指ト爲スヲ得ベシ。即チ格段ナル場合ニ於テ作爲スル所、前ニハ試驗ノ体裁ニ出テシ

モ、今ハ熟慮ニ出テ、其結果ノ必ス有益ナルヲ十分ニ保証スベキナリ。道德ノ理法ニ依倚スルノ安全ナル、猶ホ引力律ニ依倚スルノ安全ナルガゴトクナルヲ保証スルニ至ルヲ期スベシ。

**學校ニ於テノ應用** 〓 學校ニ於テハ教師須ク道德ノ理法ヲ以テ成ル可ク數多ノ日常ノ遇事ニ廣濶且ツ駁雜ニ應用スルノ法ヲ示シ、以テ生徒ヲシテ其一切ノ行爲ノ道德上ノ關係ヲ稽查スルノ氣習ヲ生セシムベシ。身体及ヒ衣服ヲ清潔ニシ、教場ノ清淨及ヒ秩序ニ注意スルヲニハ如何ナル道德ノ原理ノ關係スルアリヤ。土足ノマ、ニテ教場若シクハ自宅ノ室内ニ入ルヲ、諸物ヲ其正當ノ場處ニ置クヲ、亦ハ不注意ヨリ器具ヲ破壊スルヲ等ハ道德ニ稱ハサル所アリヤ。學校ノ秩序ヲ紊ルヲニ關シ、道德ノ命スル所ハ何ゾ、就學時間ニ遊ブヲニ關スル者ハ何ゾ、不注意ニ關スル者ハ何ゾ、勉強ヲ怠ルヲニ係ル者ハ何ゾ、時間ヲ浪



費スル事ニ係ル者ハ何ゾ。又左ノ如キ疑問ヲ提出スルトキハ討論ノ範圍ヲ一層擴張スルヲ得ベシ、曰ク

遊戯ハ必要ナリヤ、又道德ノ理法ニ順應スルヤ。踏舞、玉遊、刈板遊、及ヒ其他ノ遊戯ハ如何。吾人ノ此等ノ遊戯ヲ好ミ若シクハ忌ムノ情ノ幾分ハ教育ノ薰陶ノ結果ニシテ、幾分ハ道德上ノ思慮ニ係ル者ナリヤ。

抽鬮、博奕、及ヒ競馬ニ關シ道德ノ言フ所ハ何ソ、亞兒箇爾製ノ酒類ヲ飲用スルヲ、及ヒ之ヲ製造シ販賣スルヲニ關シテ言フ所ハ何ゾ、煙草ヲ飲ムヲ、商業ニ於テ人ヲ欺クヲ、贗造スルヲ、販賣スル物品ノ陋質ヲ隱匿スルヲ等ニ關シテ言フ所ハ何ソ。

人々ノ自己ノ生計ヲ爲スノ義務アル所以ハ何ゾ。何故ニ人ハ他人ノ所得ヲ待テ生活スルヲ不可トスルヤ。人何故ニ費用ヲ節約スヘ

キニヤ。人ヲシテ勉勵シ將來ノ爲メニ備荒セシムルノ誘因ト成ル者ハ何ソ。幼者及ヒ成丁ヨリ老者ニ對スル本分ハ何ソ。

凡ソ此クノ如キ疑問ノ解答ハ、書物ニ就テ得ベキニ非ズ、又教師ノ臆斷ヲ以テ妄リニ決スベキニモ非ズ。斯ル演習ノ有益ナルト否トハ、全ク級生ヲシテ討論セシムルノ自由且ツ周密ナルト、生徒ヲシテ各一疑問ニ關シ採集セシムル事實ノ十分ナルト、此ノ如キ事實ニ依テ立テタル推度ノ正經ナルト、其推度ヲ叙述スルノ言辭ニ誤無キトニ依ル者トス、之ヲ要スルニ、教師ノ事業ハ主トシテ指揮スルニ在ルヘキヲ以テ、威權ヲ振テ裁決ヲ下サントスルノ色ヲ避ケザルベカラズ、何トナレバ生徒ヲ益スル所以ノ者ハ、決論ノ如何ニ在ルニ非ズシテ、寧ロ思想ヲ誘促ス、ルニ在ルナレバナリ。

道德教練ノ結果 || 家庭及ヒ學校ニ於テ斯クノ如キ教練ヲ施スノ



結果ハ第一ニ各自ノ生活ヲ隆渥、貴尊、高邁ニシ、正當ニ私利ヲ制督シテ  
志念ヲ人類幸福ノ憶度ニ基據セシメ、人世ノ關係及ヒ義務ヲ示シ、有益  
ナル事業ニ導クノ明智ヲ養成シ、室家ニ在テハ私慾ノ満足ヲシテ一般  
ノ利益ノ下ニ位セシメ、社會ニ在テハ人類ノ權利ヲ欽崇シ、人類ヲ益ス  
ルト否トヲ以テ貴賤ノ分ル、所トシ、國家ニ在テハ其基礎ヲ人々ノ潔  
白ニ開キ、其庇護ヲ最賤至弱者ニ及ボシ、衆人ノ發育ヲ最モ完全ニスル  
ノ機會ヲ興シ、正義公道ヲシテ人々ノ天性ヨリ成リ立ッ堅固ナル基礎  
ニ根據セシメ、以テ大師基降來ノ時ノ豫言ヲ現成スルニ在リ、曰ク「地球  
有ニ平和一人界有ニ慈心ニト

### 第十四章 一般之課程

◎緒言 教育事業ノ全体ヲ周密ニ稽查シ彰明スルノ便ヲ計リテ  
茲ニ科級ヲ設ケ教育統系ノ全体ヲ十分ニ發展スルノ機會ヲ得タル學  
校ニ於テ授クルタメ編成シタル課程ノ全途ヲ揭示ス。全途ヲ四等科  
ニ分ケ、各等科ニ三級ヲ置ク、乃チ平均四周年ニシテ全科級ヲ卒業スヘ  
キモノトス。一學年ヲ等分シテ三學期トス、蓋シ此國普通ノ習慣ニ據  
ルモノナリ。一學年ヲ分ケテ二學期或ハ四學期トスル學校ニ於テモ  
若シ此課程ヲ採用セント欲スルトキハ、只タ各級ノ課業ノ細點ヲ變更



セシテ要スルノミナレバ、教師容易ニ之ヲ計畫スルヲ得ヘシ。  
 此ニ叙列スル普通課程ノ詳細ヲ考查スルトキハ、科級ヲ立テザル學校  
 及ヒ地方ノ學校ニ於テ採用スヘキ課程ニ關シテモ、鑑ル所アルヘク、且  
 ツ無科級教育体系ノ顯著ナル缺典ヲ醫治センガ爲ニ用井ヘキ方法ニ  
 關シテモ悟ル所アルベシ。

**基本ノ原理** || 此課程ヲ編成スルニ際シ、以上數章ニ詳論シタル數

原理ニ照シテ課目ヲ撰定シ且ツ叙列シタリ、即チ左ニ再録スル所ノ如  
 シ。

- 第一〇 || 教育ノ目的ニ二重ノ儀アルヲ、即チ一方ニ於テハ一切ノ器  
 能又ヒ能力ノ十分ノ發育ヲ計リ、一方ニ於テハ平生ノ實業及ヒ日々  
 ノ職務ヲ完クスルタメ最モ重價アル知識ノ收得ヲ計ルヘキ事。
- 第二〇 || 學校課業ノ各部ニ於テ精密ニ各能力ノ成長及ヒ其活動ノ

相互關係スル次第ニ應シテ心意一切ノ能力ヲ教練スヘキ事。

第三〇 || 知覺上ノ諸能力ハ幼年ノ時最モ活潑ナル者ナル事、及ヒ知  
 覺上ノ知識ヲ以テ小學校一切ノ課業ノ基址ト爲スヘキ事。

第四〇 || 知覺上ノ諸能力ヲ發育セシムルタメ授クル實物課業ノ編  
 制ハ、之ニ依テ生徒ヲ導テ直チニ諸ノ理學ニ入ルノ門ニ達セシムル  
 ニ適シタル者ナルヘキ事。

第五〇 || 各級ノ諸學科ヲ配合スルノ法ハ、其各科ヲシテ自餘諸科ヲ  
 補修セシメ、以テ一方ニ於テハ發育ヲ調和シ、又一方ニ於テハ印象ヲ  
 深淵ニスルニ適シタル者ナルヘキ事。

第六〇 || 道理力及ヒ斷定力即チ心意ノ反省的能力ヲ助クルニ最モ  
 善ク適シタル者ハ、知覺ヲ經テ得タル事實ヲ以テ成レル廣大ナル基  
 本ニ出ツル推度コレナル事、及ヒ知覺力ノ教練ノ益、遠大且ツ周到ナ



ルニ從ヒ、反省力ノ成績モ益、重要且ツ貴尊ナルヘキ事。

第七〇 || 理學ヲ教授スル法ノ最モ宜シキヲ得タル者ハ、其發明ノ次第ヲ追ヒ、先ツ實物ヲ示シテ後ニ概括ニ涉リ、先ツ事實ヲ舉ケテ後ニ原理ニ進ムニ在ル事、及ヒ理學ヲ理解スルニ最モ善ク適當シタル順序ハ、人類ノ發育ヲ増進スルニモ無比ニ善ク適當シタル者ナル事。

第八〇 || 諸人日常ノ思想及ヒ職業ニ干涉スル所最モ深ク、且ツ一切尋常ノ事件ニ對スル行狀ヲ正クスルノ規律タルニ最モ善ク適當シタル諸學科ハ、又心意ノ鍛鍊ヲ催スタメニモ最モ善ク適當シタル者ナル事、及ヒ之ヲ轉シテ最モ普通ノ語ヲ以テ言ヘバ、實用最モ少ナキ諸學科ハ心意鍛鍊ノ上ノ價格モ亦最モ少ナキ者ナル事。

第九〇 || 思想ノ諸部門ノ間ニ自然ニシテ動カシ難キ關係在テ存ス、是レ其相從屬スル次第ノ依テ定マル所タル事、及ヒ此係屬ノ次第ハ

是レ即チ各部門ニ屬スル思想ヲ學校ノ課程ニ編入セントスルニ當テ其時期ト方法トヲ定ムル所以ノ標準タル事。

第十〇 || 發育一般ノ爲メニ設クル學科ノ全途ハ、各生徒將來ノ事業即チ活動ノ範圍ノ何タラントスルニ關係セズ、衆生徒ニ授クル所同一ナルヘキ事、及ヒ專業上ノ目的ニ準シテ學科ヲ變更スルハ高等ナル科級ニ至ルヲ候テ施スヘキノ策ナル事。

第十一〇 || 各科級ノ學科ハ其科級ニ屬スル生徒ノ發育ニ精密ニ適合シタル者ナルヘク、從テ取捨變更ヲ行フハ最モ狹隘ナル制限ノ内ニ於テノ外ハ大抵良策ニ非サル事。

第十二〇 || 各校ニ於テ習修セシムル學科ノ全体ハ、生徒ヲ導キテ思想ノ各部門ニ至ラシムルノ介助タリ、且ツ終ニ之ヲ誘ヒテ各般ノ事業ニ達セシムルニ適當シタル者ナルヘキ事。



◎一般ノ叙列法 〓 此ニ左記ノ課程ヲ編成スルニ當リ遵奉スル所ノ叙列法ノ一般ヲ述フレバ、五ヶ條ノ學科ヲ以テ全途ニ貫徹セシメ、其中二ヶ條ハ本元ニ位シ、餘ノ三ヶ條ハ倍貳ニ屬スルモノトス。本元ノ二ヶ條中ニ於テハ、外界ヲ教示スル「自然理學」ノ諸目ヲ以テ初頭ニ置ケリ、蓋シ此學ハ觀察ノ材料ヲ心意ニ給資シ、論理上ノ順序ニ關スル一切ノ觀念ノ由テ來タル所タル現象ノ繼起ノ次第ヲ示ス者ナレバナリ。次ニ人類及ヒ其事業ヲ討究スル「哲學」即チ「人文學」ノ諸目ヲ以テ第二ノ本元學科トシテ「自然理學」ヲ補修セシム、蓋シ此學ハ一方ニ於テハ思想ノ材料ヲ給資シ、又一方ニ於テハ最モ高等ナル思想ヲ演習スルノ地タルニ最モ善ク適當シタル範圍ヲ開ク者ナレハナリ。倍貳學科ノ三ヶ條ハ左ノ如シ。第一ハ「語學」ナリ、即チ自然理學ノ諸目及ヒ哲學上ノ思想ヲ保存シ明述スルニ貴價アル者トス。第二ハ「數學」

ナリ、即チ理學上ノ度量ヲ計算スルニ重價アル者トス。第三ハ「好尙學」ナリ、即チ理學上ノ比例、均齊、調和ヲ明示スルニ起リテ、斯美ヲ鑑識スルニ終ル者ナリ。

### 自然理學總釋

〓 自然理學ノ課目ハ人ヲシテ其境遇及ヒ境遇ニ應接シテ生存ヲ保存スル爲メニ遵奉セザル可カラザルノ要狀ニ曉通セシメ、人ニ給資スルニ各般ノ生産事業ノ基本ト爲ルヘキ實用ノ知識ヲ以テスル者ナリ。

此等ノ理學ヲ考究スルノ材料ハ、人間至ル處トシテ存在セザルハ無シ、而シテ之ヲ攻究スルトキハ、觀察ヲ親切ニシ且ツ精密ニスルノ氣習ヲ養成シ、終ニハ何ニ依ラズ覺官ノ認識作用ノ能ク及フ所ニ存スル者ヲ取テ考究セザレバ措マザルニ至ラシム。此方向ニ於テ盡クスノ攻究ハ心意ヲ引テ實物ノ境界ヲ超越シテ其表現スル所ノ思想ニ留着セシ



メ、現象ノ境界ヲ超越シテ之ヲ管理スル智力及ヒ理法ニ注目セシムルノ効アリ。

### 理學ノ科

|| 理學科ニ屬スル課目ヲ叙列スルニ當リテハ、憶度ス可

キ事ニケ條アリ、第一ハ諸課ノ繼續ノ次第ト、第二ハ其各一課中ノ諸目ノ繼續ノ次第トコレナリ。

諸ノ理學ノ繼續スル次第ニ關シテハ金石學、植物學、及ヒ動物學コソ無機界及ヒ有機界ニ存在スル物体ヲ講明スル者ナルノ故ニ第一ニ習修セシメテ要スルモノナルヤ昭々タリ。此三課ノ前後ノ次第ハ、難易ノ差等如何ト、攻究ノ材料ヲ得ルノ便宜如何ト、生徒ノ心中ニ醒起シ得ヘキ歎喜ノ情ノ如何トヲ斟酌シテ之ヲ定ムヘキモノトス。

物質ヲ物質トシテ講明スル此等ノ課業ノ次ニ置クヘキハ、物質ノ全体ヲ管理スル勢力ヲ講明スル者、即チ物理學ト物質ノ分子ヲ主宰スル勢

力ヲ講明スル者、即チ化學トナリ、而シテ最後ニ至テハ、以上ノ諸課ニ根據スル概括論ヲ開示スルニ課、即チ地質學ト星學トヲ授クヘシ。

地質學ノ如キモ、若シ之ヲ修ムルノ前ニ土石ノ結合ヲ明示スル所以ノ化學ト、古代ノ有機物ノ〔化石〕ト成テ土石中ニ留存スル所以ヲ解説スル植物學及ヒ動物學トノ知識アルニ非サリセバ、全ク理學上ノ價格ヲ有セサル臆想タルノ外無キナルベシ、又星學ノ如キモ、先ツ物理學ニ由來スル理法及ヒ原則ニ曉通スルニ非サリセバ、只タ領會シ難キノ迷走ナルベキノミ。

初等科ノ諸級ニ於テハ、物体ノ資質モシクハ事實ノ最モ顯著ナル者ノミヲ教示シ、稍、上達スルニ及テ漸次精密ナル討究ヲ施シ、又一般ノ分類法ヲ教示スベシ。

夫レ諸ノ理學ノ相互關係スル次第ハ極メテ緻密ナル者ニシテ、甲ノ一



科ノ初步ハ乙ノ一科ノ稍、高尙ナル處ニ於テ討究スル爲メニ必要ナル者タルヲ多ケレバ、孰レノ一科ヲモ結了スルニ至ラザルノ前ニ、先ツ各科ノ初步ノ因物的課業ヲ授クヘキモノトス。

上進セル科級ニ至リテハ、再ヒ各理學ノ次第ニ高尙ナル處ヲ授講シ、漸々討究ヲ細密ニシ、概括ヲ該兼ニス。

**哲學即チ人文學總釋** 〓 〔哲學〕即チ〔人文學〕ニ屬スル諸目ハ人類ノ智

カト道德トヲ供ヘタル有在タル所以ト、之ガ成蹟トヲ講明スル者ナリ。此學ハ注意ヲ外界ノ觀察ヨリ轉シテ心意ト心意ノ所業トノ研究ニ著セシム、乃チ生徒ヲシテ心意ノ作用ニ熟通セシメ、之ヲ導テ開明ノ種々ノ程度ニ位スル社會ニ立テル人ト人トノ間ノ關係ヲ管理スル理法ヲ憶度スルニ至ラシムルノ効アリ。

**哲學ノ科** 〓 哲學科ニ屬スル課目ヲ叙列スルニ當リテモ、理學科ニ

於テ遵奉スル所ニ同シキ一般ノ順序ヲ遵奉スルモノナリ。則チ此等ノ課目ニ固有スル難易ノ差等ト係屬ノ次第トヲ酌量シテ之ヲ排列シ且ツ漸次科級ヲ進テ上進スル毎ニ各課目中ノ漸次高尙ナル處ヲ表示スルナリ。

**地誌** 〓 初等科ニ在テ哲學ノ部ニ於テ取ラシムルノ第一歩ト做スヘキ者ハ、教室ト、雜種ノ物体ト、讀書トナリ。場處ニ關スル課業ヨリ漸次ニ進ミテ地誌ニ入ル、地誌ハ一方ニ於テ〔自然〕ヲ講明シナガラ、又一方ニ於テハ人類ニ關スル事物ヲ講明スル者タリ。其哲學ニ屬スル所以ニ就テ謂フトキハ、地誌ハ地球ノ居住者タル人類、人種、及ヒ人種ノ分別散布ノ事ヲ論スル者ナリ。則チ人類ヲ以テ有形勢力ノ發動ヲ被リ、又自ラ發動シテ有形界ノ狀態ヲ變更スルノ効力アル實在トシテ憶度スル者ナリ、又其活動ノ種々ノ範圍ニ於テスル人類ノ事業ヲ一般ニ叙述



スル者ナリ。

讀書ノ課業ハ漸次高等ニ上進スル者トス、乃チ生徒ヲ漸々誘導シテ終ニ文辭學ニ達セシメ、ソヲ計ルモノナリ。

**歴史** 地誌ニ次テ合衆國ノ歴史ノ一科ヲ置キ、我カ本國ノ過去ニ關スル事實ヲ開示シ、我カ國民ノ現時ノ事情アルニ至リシ所以ノ原因ノ略概ヲ明示ス。此等ノ事ヨリ推度スルトキハ、外界ノ事情及ヒ人類ノ行狀ノ、國民ノ運命ヲ畫定スルニ於テ有スル効力如何ニ關スル普關理法ヲ設定スルコト難キニ非ス。又此科ノ稍、高尚ナル處ニ達スルニ及テハ、萬國史ヲ同様ニ授講シ、人類ノ思想及ヒ行爲ノ一層該博ナル範圍ヨリ概括シテ、同様ノ理法ニ達セ、ソヲ務ム。

**文辭學** 文辭學ヲ以テ人類歴史ノ一部ト爲シ、人類ノ奮勵ノ一端ト做シテ、上等科ノ課目ニ加ヘ、因物的ニ授講ス、中學科ニ至ルニ及テハ、

〔英吉利文辭學〕及ヒ〔萬國文辭學〕ノ一科中ニ於テ其講明ヲ一層精密ニス。

**國政** 次ニ國政ノ一課ヲ置キ、人類ノ團結シテ社會ヲ結成シ、邦國ヲ編制スル次第、斯ル編制ヲ管理スル社會ノ規律、及ヒ事情相同シカラサルニ從ヒ種々相異ナル政體ノ成長セシ次第ヲ講明ス。此一課ヲ攻究スルノ効ハ、明智以テ國士タルノ本分ヲ完クスルニ必要ナル特殊ノ知識ヲ得ルニ在リ。稍、高尚ナル處ニ昇ルニ及テハ、道德學ヲ以テ之カ介助トス、又經濟學ノ科ニ於テモ、同事ヲ詳説ス、而シテ歴史ト社會ノ狀態トヲ基據トシテ、人類ノ幸福ヲ増進セントスル行爲ノ標準タルヘキ普關理法ヲ設定セントス。

**心理哲學** 此次ニ置クヘキ一般ノ課目ハ心理學コレナリ、是レ注意ヲ思想ノ目的ノ上ヨリ傳シテ直チニ思想ノ本自<sup>ソレミツカ</sup>及其健康ニ且ツ克壯ニ作爲スル所以ノ要狀ノ上ニ着セシムルモノナリ。此學ハ心意



ノ諸器能ヲ分解シテ各器能ノ本性及ヒ制限ヲ詳悉シ、思想ノ種々ノ條系ヲ殘ラス搜索シテ、正經ナル斷定ニ達スルノ方法ヲ明示シ、諸能力ノ發育ノ順序ヲ開陳シテ心意成長ノ各程度ニ必要ナル培養物ヲ叙述ス。此課ノ稍、高尙ナル處ニ達スルニ及テハ、論理學ヲ授ケ、此ニ於テ再ヒ同事目ヲ憶度シテ歸納及ヒ演釋推理法ニ於ケル心意ノ特殊ノ作用ヲ明示ス。

**徳道哲學**

—— 道德哲學ニ於テハ内省内心反反ノ課業ヲ敷衍シ、一己ノ心意ノ範圍ヲ出テ、其心意ノ他ノ心意ニ對シテ保持スル一切ノ關係ヲ包含セシム、此學ハ權利ノ所須ヨリ流出スル次第、本分ノ權利ヨリ流出スル次第ヲ詳示シ、又人類幸福ノ増進ヲ以テ各行爲ノ德匪德及ヒ固有價格ヲ判斷スルノ標準トスル所以ヲ詳示ス。

**語學科總釋**

—— 語學ハ理學及ヒ哲學ノ思想ヲ保存シ修述スル所以

ノ方便タル言語ヲ講明スル者ナリ。言語ハ思想ニ比スレハ下位ニ立ツト雖モ、亦到底思想ト離別シ難キ者ナリ、而シテ各科ノ知識ノ攻究ニ於テハ言語ノ研究ニ時間及ヒ注意ノ殆ト半分、若シクハ正シク半分ヲ要スヘク、且ツ用非ヘキモノトス。

語學ノ研究ニ於テ目的トスル所ハ、口說、作文ノ二法ニ於テ思想ノ修述ヲ細密且ツ容易ニスルニ在リ。斯ク語學ニ熟達シ、構成其宜シキヲ得タル句節ニ排列シタル最良言語ヲ以テ各般ノ思想ヲ修述スルヲ得ルハ、人類ノ能力ノ尤モ重大ナル要素ノ一タルノミナラズ、又以テ知識ノ淺深ヲ精密ニ檢討スルニ足ルモノナリ。

口說、作文ノ孰レニ於テモ、言語ノ用方ノ精巧ハ、先ツ修述セント欲スル所ノ思想ヲ明晰ニ理解シ、且ツ常ニ最モ有効ナル方法ニ於テ之ヲ修述セント勉ムルヲ專一トスルノ教練ニ依テ得ヘキモノナリ。各科ノ



課業及ヒ學校各般ノ演習ハ、必ス皆生徒ノ言語ヲ利用スルノ能力ヲ助  
クルニ適シタル者ナラシメザルベカラズ。教師ノ事業ハ生徒ヲ誘導  
シテ言語ノ取捨及ヒ排列ヲ善良ニセシメ、且ツ修述ノ未タ明晰ナラザ  
ル處ヲ摘指シテ改良ヲ勉メシムルニ在リ。

言語ハ思想ヲ修述スルノ方策ナレバ、之ヲ教練スルノ法ハ、須ク實用ノ  
際ニ成ル可ク偶然ニ出ツヘキニテ、本元ノ注意ハ修述セントスル思想  
ノ上ニ留着セシメザルベカラズ。理學トシテ言語ノ彙類及ヒ沿革ヲ  
説クハ、既ニ哲學ノ科中ニ属スルコトナルヲ以テ高尙ナル科級ニ讓ル。

語學ノ科 || 語學通途ノ叙列ヲシテ左ノ數目ヲ包括セシム、曰ク口  
説并ニ作文ニ於テノ言語ノ用方ノ日々演習及ヒ最モ精緻ナル熟練、曰  
ク讀方、綴字、及ヒ筆法ノ藝術上ノ巨細、曰ク言詞ノ分類、曰ク句節論ノ規  
則ニ包藏スル所ノ構綴ノ理法コレナリ。

口説ニ於テノ用方 || 口説ニ於テノ言語ノ用法ヲ小學科ニ於テ授  
クルニハ、第一ニ完備セル章句ヲ以テ答辨センコトヲ要スル問題ト、第  
二ニ口頭ノ名狀ヲ要スル課業ト、第三ニ教師演説シ生徒再説スル小話  
ト、第四ニ生徒ヲシテ演説セシムル新發ノ偶事トヲ以テス。生徒ノ詞  
林ヲ擴張スルノ法ハ、其心意ニ新奇ノ觀念ノ啓發スル有ル毎ニ、之ヲ修  
述スル所以ノ新詞ヲ教示シ、思想ト修述ト相俱ニ進歩セシムルニ在リ。  
此等ノ口説演習ヲ數年間繼續シ、漸次變轉シテ事目上ノ復誦ニ換ヘ、此  
体裁ヲ以テ學校課程ノ全体ニ貫徹セシム。事目上ノ復誦トハ特殊ノ事  
復誦セシムルヲ云フ。  
教科書ノ言詞ヲ暗記シテ復誦セシムルノ法ハ、決シテ取ルヘキニ非ズ。  
作文ニ於テノ用方 || 作文ニ於テノ言語ノ用方ハ、直チニ物体ヨリ  
得タル演習ニシテ、單ニ一個ノ事實ノミチ完全ナル章句ニ陳述シタル



者ヲ授クルニ起リ、次ニ二個乃至三個以上ノ事實ヲ說述シタル者ニ移リ、遂ニハ連續セル說話トシテ名狀ノ全体ヲ敘述シタル者ニ至ル。此等ノ名狀ニ次クニハ、偶事ノ叙紀、前日ノ課業ノ再說、及ヒ定規ノ小學課業ノ事目中ノ少ナクトモ一箇ヲ日々書寫セシムルヲ以テス。

高尙ナル等級ニ至ルニ及テハ、此等ノ書寫演習ニ供スルニ、博物學課ニ於テシタル新奇ノ討究ノ結果、書籍ノ講究ニ依テ得タル歴史并ニ哲學上ノ略說、及ヒ最後ニ至リテハ生徒ノ自ラ爲セシ考察并ニ思想ノ結果ヲ含蓄スル論文ヲ以テス。

特別ニ言語ノミヲ習練スル各種ノ課業ニ於テ採ルベキ順序ハ、生徒ヲシテ第一ニ題目ニ關スル一切ノ事實ヲ採集シ、第二ニ此等ヲ論理ニ合ヘル順序ニ排列シ、第三ニ熟思熟考シタル說話トシテ此等ヲ修述セシムルニ在リ。

定規語學課ノ作文課業ノ題トスル事目ハ、須ク當時研究スル或ル學科ト親密ニ關係スル者、若シクハ後日ノ課業ノ爲メニ要用ナル者、若シクハ既ニ結了シタル研究ヲ整頓シ補成スルノ効アル者タルヘシ。先ツ作文ノ準備トシテ教場ニ於テ斯ル題ニ就キテ十分ニ討論セシメ、以テ思想ノ序列ノ整頓ヲ前ニシ、修述ノ經紀ヲ後ニスルノ原理ヲ實際ニ迫行スベシ。

斯クノ如ク初學ノ事目ヲ題トスル作文ノ演習ハ、後ニ至リ思想ヲ論理的ニ叙列スルノ引指ト爲リ、平生連續ヲ整サズ、順序ヲ修メズシテ表現スル思想ノ間ニ一定ノ關係ノ存在スルヲ証明シ、哲理上ノ觀念伴生ノ作用ニ依テ其思想ヲ一層永久ニ記憶ニ固着セシムルノ効アリ。

現○今○之○歴○史○ト云フ一題ヲ舉ケテ、生徒ヲシテ當時ノ社會ニ最ク深ク影響スル疑問及ヒ事變ニ關シ明智アラシメ、之ヲ計ル。即チ研究ヲ生



徒ノ郷里ノ近隣ヨリ起シテ州ニ及ヒ州ヨリ國民ニ及ヒ遂ニハ世界ノ諸大國ニ於テ國家ノ爲メニ重要ナリトスル一切ノ疑問ニ涉ラシム。中等科及ヒ上等科ノ諸級ニ涉リテハ、人類ノ職業ノ主要ナル者ヲ以テ作文演習ノ基本トス。此研究ハ生徒ヲ誘ヒテ諸科ノ工業ノ細故ニ關スル知識ヲ得、工業ノ分類法及ヒ其緊要ノ度ノ比較ヲ憶度セシムルノ爲メニス。哲理上ノ要領ニ於テハ、各科ノ工業ノ人類ノ所須及ヒ願望ヨリ發生セシ次第、并ニ外部ノ事情ニ因テ大ニ各科特異ノ啓發ニ影響シタル次第ヲ詳示ス。

尙ホ高尙ナル科級ニ於テ、生徒既ニ理學ノ階梯及ヒ歴史ノ諸科ニ曉通シ、且ツ多少心意ノ作用ニモ明達スルノ機會ヲ得タルノ後ハ、更ニ論文ノ題ニ供スルニ、建築、繪畫、彫刻、音樂、詩歌、等ヲ包括スル技術ノ原理ト沿革トヲ以テス。最後ニ至リテハ、哲學及ヒ其沿革ト、古代并ニ近世ノ種

々相異ナル哲學統系ノ特質トヲ攻修セシム。

言語ノ藝術上ノ細故、即チ讀方、綴字、花字用方、及ヒ句讀ハ、小學上等科ノ全体ニ涉リテ、科級ヲ進ヒ漸々ニ高尙ナル處ヲ授ク。

**文法及ヒ修辭學** || 言語ヲ理學トシテ攻究セシムルハ、第九級ニ

於テス、即チ此時ニ至ルニ及テハ、生徒既ニ文法ノ原理ヲ了解スルニ十分ナル智力發達ノ度ニ達シタルモノトスレバナリ。次ノ級ニ至リテハ、修辭學ヲ授ケ、最後ニ至リテ言語ノ解剖ヲ演習セシム。

解剖ノ演習ニ於テハ、生徒ヲシテ言詞ノ構成及ヒ國語ノ生長ニ關スル近世ノ原語學者ノ攻究ノ結果ニ通ヒシム。自國ノ言語ヲ綿密ニ攻究スルキハ、之ニ依テ第一ニ英語ヲ組成スル種々ノ國語ニ由來スル語源ヲ知リ、英語ハ元ト微遜語羅甸語佛語等ノ雜、第二ニ通例世人カ外國語ヲ研究スルニ依テ得ヘキ者ト做ス所タル言、語ノ用方ヲ精密ニスルノ



才ヲ得第三ニ實際ノ事業ニ於テ著大ナル價格ヲ有シ、且ツ語學ノ研究ヲ繼續スルニ於テ裨益鮮ナカラザル言語解剖ノ力ヲ備フベシ。此類ノ研究ハ以テ古典語ノ教育ノ十分ナル者ニ換フルニ足ラズトスルモ、尙ホ且ツ斯ル攻究ノ爲メニ極メテ有益ナル準備ト爲リ、且ツ浮輕ナル古典ノ研究ニ比スレバ實際ノ價直ハ却テ大ナルヘシ。

**數學總釋** || 數學ノ諸科ハ、理學上ノ事物ヲ計量スル所以ノ者ナリ。之ヲ修ムレバ、分量上一切ノ關係ハ得テ知ル可キナリ。數學ノ者タル、元來具象理學ノ諸科ニ因由シ、從テ其諸科ニ從屬ストイヘヒ、尙ホ且ツ此等ノ理學ニ曉通センガ爲メニ缺ク可カラサル者タリ、故ニ學校事業ノ始ヨリ終ニ至ルマテ、常ニ數學ヲシテ理學ノ諸科ト正密ニ併行セシメザル可カラザルナリ。

數學ノ研究ヲシテ勤學ニ供スヘキ一切ノ時間ヲ專占セシメ、或ハ未タ

其根據スル所タル諸科理學、及ヒ之ヲ開示スルノ介助ヲ爲スニ因テ數學ヲシテ價格アラシムル者タル諸科理學ヲ修メサル前ニ、獨リ數學ノミ高尙ナル處ヲ授クルカ如キハ策ノ得タル者ニ非ス。

**數學ノ科** || 初等科ノ諸級ニ於テハ、始メ實物ニ依テ數ノ初步ヲ教ヘ、算術ノ原本ノ運算法ニ熟通スルニ至ルマデ數量ノ單純ナル結合ヲ十分ニ習修セシム。初等科ニ於テノ實地演習ハ、主トシテ既ニ研究ヲ卒ヘタル所ノ事目ニ屬スル者ニ採リ、或ハ又當時研究スル他ノ諸科ノ課業ヲ証明スルノ効アル者ヲラシム。

小學課程ノ全途ニ涉リテ、實例ヲ以テ媒介トシテ時々教授スル數學ノ理法ト、同持ニ教授スル諸ノ具象理學トヲシテ常ニ併行順應セシムルノ主義ヲ、成ル可ク充分ニ履行セザル可カラズ。

通常ノ實地算術ニ熟通スル事ニ因テ得ヘキ算術ノ鍛鍊ハ、以テ此事ニ



關スル教育ヲ完全ニスルニ足ルモノトス、是ヲ以テ所謂高等算術ナル者ニ於テ開示スルコト往々流行スル算數ノ妙用ハ悉ク之ヲ省ク。數量ヲ實地ノ問題ニ應用スルノ業ニシテ、世ニ稱シテ心算ト謂フ所ニ屬スル推理作用ヲ包含スル者ハ、之ヲ上等科ノ最後ノ二期ニ讓ル、蓋シ此時ニ至レバ、生徒既ニ其能力ヲ過當ニ勞セスシテ斯ル事業ニ絕ユルニ十分ナル發育ノ度ニ達スルモノト做スヲ以テナリ。斯クノ如キ演習ヲ初等科及ヒ中等科ニ置クノ法ハ、有害ナリ、蓋シ通例此年齡ニ在ル者ニ於テハ、未タ斯ル使用ニ堪ユヘキ成熟ノ度ニ達セサル器能ヲ強テ衝動セントスルカ上ニ、他ノ方向ニ使用セバ利得一層著大ナルヘキ光陰ヲ填塞シテ、正當ナル時期ニ至リテ授クル場合ニ於テヨリモ夥多ノ日月ヲ要スヘケレハナリ。中等科ニ於テハ、代數、幾何、及ヒ三角術ノ本然ノ原理ヲ周密ニ學習セシ

メ、各一步ヲ解明スルニ、日々ノ實驗ト理學ノ成績トヲ心中ニ於テ連結セシムルニ適シタル實例ヲ以テス。幾何及ヒ代數ノ原理ヲ實地測量ニ、面積方ニ、重學ニ、星學ニ應用シテ、此等ノ理學ノ階梯ヲ彰明スルニ足ルノ効アラシム。

**好尚學總釋** 完備シテ哲理ニ合ヘル教育ノ体系ニ於テハ、嗜好ヲ修練シテ、斯美ト其活用トヲ鑑識シ、以テ美ノ觀念ヲ現實形樣ノ間ニ現成スルヲ得シムルノ重要ナル、智心器能ヲ修練シテ、斯真ヲ鑑識セシメ、道德器能ヲ修練シテ、斯善ヲ鑑識セシムルノ重大ナルニ讓ラザルモノトス。斯美ニ達スル事ハ、之ヲ以テ格段ナル方向ニ於テノ特殊ノ發育ナリトセンヨリモ、寧ロ萬般ノ事業ノ至局ナリトスベキニ似タリ。

**好尚學ノ科** 行儀ニ關スル好尚ノ修練ハ、一般ノ禮節、態度ノ從容及ヒ音聲ノ閑雅ニ注意シ、野鄙粗暴ノ行狀ヲ制止シ、常ニ他人ノ身位ヲ



尊敬セントスルノ氣習ヲ養生スル事ヲ以テ主旨トス。

又身軀及ヒ衣服ヲ清潔ニシ、衣服ノ体裁ヲ治メテ身軀ニ適合シ一般ノ功用ニ順應セシメ、ノヲニ注意シ、衣服ノ染色、身軀ノ裝飾ニ注意シ、教場ノ器具ノ保護及ヒ排列ニ注意シ、吾人日々ノ豫樂ニ必要ナル物品ノ適合及ヒ調和ニ注意スルニ依リテモ、好尚ノ修練ノ由テ入ル所ノ路ヲ得ベシ、此等ハ皆人力ノ能ク及フ所ノ者ナリ。花卉ヲ使用スル、及ヒ其他之ニ類スル簡便ナル飾裝法ニシテ衆人ノ資力ノ能ク及フ所ニ在ル者ハ、皆以テ有功ノ介助ト爲スベシ。

文詞學

純然タル文辭學上ノ各般ノ攻究ニ於テモ、絶エズ右ト同一ノ目的ニ達セントスヘシ。生徒ヲ導テ貴尊ナル思想、及ヒ事業ノ美ヲ見得セシメ、詩歌及ヒ文章ノ大家ノ筆力ヲ以テ此クノ如キ思想及ヒ行爲ヲ修述シタル文詞ノ形樣ノ美ヲ鑑識セシムベキナリ。

畫學

手ヲ教練シテ以テ意志ノ命令ヲ忠實且ツ敏捷ニ履行セシムルノ一事ハ、教育ノ目的中ノ尤モ肝要ナル者ノ一ニ居レリ。此ニ取ル所ノ課程編成法ニ於テハ、習字及ヒ畫學ノ演習ヲ以テ斯ク手ヲ教練スルノ方策ト爲セリ。

習字ニ於テハ生徒ヲシテ各一字母ノ正密ナル形樣ト位置トニ熟通セシメ、而シテ後疾速ニ且ツ讀下シ易ク書寫スルノ能ヲ得ルニ十分ナル習練ヲ勉メシム。

畫學ニ價格アル所以ノ者ハ、之ニ依テ第一ニ形樣ノ觀念ノ表示ヲ正密ニシ、第二ニ手并ニ眼ヲ教練シ、第三ニ技術ノ修業ノ高尚ナル處ヲ補成スルニ在リ。畫學演習ノ叙列方ハ、同時ニ研究スル他ノ諸科ト契合セシメ、以テ一方ニ於テハ畫學ヲシテ理學ノ補助タラシメ、又一方ニ於テハ理學ヲシテ畫學ノ補助タラシメ、ノヲ計ル。



生徒ヲ導指シテ直接ニ實物ヲ臨摹セシメ、又近易ノ形様ヲ色々ニ結合セシメテ、工夫畫學ノ基本トスベシ。  
 又憶度ヲ畫學ノ實際上ノ價格ニ及ホシ、其演習ヲシテ殆ト各般ノ理學并ニ工藝ニ跨陟セシム。凡ソ畫學ニ依テ得タル熟練ハ、各種ノ職業ニ於テ日々有用ナルコト、自餘一切ノ學校課業ニ依テ得タル所ニ勝ルモノトス。教師ニ取リテハ、其生徒ニ教示センコトヲ要スヘキ大抵ノ課業ヲ彰明スルノ方策トシテ實ニ無比ノ價格アリ。

**音樂** 〓 唱歌ヲ以テ好尙修練ノ一課トシテ學校ノ各等科ニ於テ授ク可シ。初等科ニ於テ授クル唱歌演習ハ、第一ニ生徒ノ心性ヲ喜ハシ、第二ニ漸次音樂ノ嗜好ヲ修練シ、第三ニ適宜ノ音樂ノ鍛鍊ヲ資助シ、第四ニ學校一般ノ調和ヲ保合スルニ適シタル旋ヲ以テ成立スベシ。後ノ諸等科ニ於テモ、音樂ノ藝術ヲ繼續シ、且ツ純全ニ因物的ナル數條ノ

課業ヲ以テ音樂ノ理學ヲ提出教示スヘシ。苟モ普通學校ノ教育ニシテ唱歌ノ藝術并ニ音樂ノ理學ノ階梯ヲ包含セザル者ハ、未タ以テ完全ト爲ス可カラサルナリ。

**躰操** 〓 躰操演習ノ身躰ノ健康、智心ノ克壯ヲ增進スルニ於テ價格アルコトハ、夙ニ世ノ許ス所ナリ、然レトモ尙ホ是ノ上ニ好尙ノ修練ニ關シテモ最モ緊要ノ者タルコトヲ知ラザル可カラサルナリ。演習ヲ駁雜ニスルニ依テ、筋骨ノ發育ヲ和諧シ、之ヲシテ直到ニ意志ノ命令ニ應スルニ適當セシム。演習ノ性質ヲシテ律度ニ稱ハシムルニ因テ運動ノ律度ヲ正シクス、是レ動行并ニ容儀ノ從容ヲ來タスニ於テ最モ缺ク可カラザル原因ノ一ナリ。



小學初等科

一般ノ説明 || 初等科ヲ組成スル三級ノ課目ノ叙列法左ノ如シ。

- 第一。|| 演習ハ悉ク因物法ニ出ツ、蓋シ知覺ノ諸能力ヲ教練シ、心意ニ蓄藏スルニ將來ノ爲メニ最モ須要ナル知識ヲ以テセンガ爲メナリ
  - 第二。|| 成ル可ク生徒ヲシテ其研究スル所ノ物品ニ接觸セシメ、  
一ヲ要用トス、蓋シ筋骨ノ教練ヲシテ知覺ヲ補助セシメ、印象ヲシテ一層深淵且ツ永久ナラシメンガ爲メナリ。
  - 第三。|| 演習ノ種類ヲ甚タ駁雜ニス、則チ間斷無ク注意ヲ醒起シ、純音ニ因テ疲倦ヲ生スルヲ避ケンガ爲メナリ。
- 各般ノ演習ヲ指揮スルニ當リ、教師須ク目的トスル所ヲ明白ニ畫定シ、

此目的ヲ達センガ爲メニ必要ナルヘキ準備ハ預メ之ヲ爲スヘシ。後ニ授クル所ヲシテ、必ス前ニ授ケタル所ヨリモ一層進歩シタル者ナラシメザル可カラズ、若シ此點ニ於テ盡サ、ル所アレバ、當日ノ課業ハ無効ニ歸シタルモノト謂フベシ。

素讀演習ハ、端緒ヲ單語ニ開クノ法ヲ取ルモ或ハ又句節ニ開クノ法ヲ取ルモ可ナリ。先ツ第一ニ觀念則チ言詞ノ所又ハ思想則チ句節ノ所ヲ開示シ、生徒喜テ之ヲ心ニ留ムルニ至ルヲ俟テ、其觀念其思想ヲ表示スル所以ノ言詞句節ヲ授クルヲ善シトス。即チ生徒ノ注意ヲシテ主トシテ實有ノ知識ヲ爲セル者ノ上ニ著セシメオキ、其間偶然ニ求メスシテ字母ノ名稱及ヒ音訓ヲ習得セシメ、ノ計ルヘキナリ。句節讀法ニ於テハ、誦讀ニ供スル句節ヲシテ、必ス生徒ノ十分ニ理會スル所ノ思想ヲ表示スル者ナラシメ、且ツ誦讀ノ法ヲシテ同一句節ヲ口



ニ言フトキト、更ニ異ナルヲ無カラシム可キナリ。讀本ニ載スル言詞ノ音訓ヲ以テ恰モ平生之ヲ口ニ言フトキト異ナルモノ、如ク爲スヲ許スノ法ハ、決シテ取ル可キニ非ズ。教師タル者、善ク此事ニ注意セバ、則チ世人ノ往々目シテ學校教育ニ已ミ難キノ弊ナリトスル牽長ニシテ自然ニ戻レル純音誦讀法ヲ防止スルヲ得ヘシ。

綴字課業ハ生徒ノ平生使用スル言詞ト、生徒ニ開示セントスル新觀念ヲ表示スルニ必要ナル新言詞トヲ包含スル者ナルニシ。

平生生徒ノ躬自ラ使用スル所ニ比スレハ遙ニ高尙ナル類ノ言詞ヲ學習セシムルハ策ノ得タル者ニ非ズ、何トナレバ若シ斯ク用非ル光陰ヲ他ノ方ニ用非ラシニハ利益一層大ナルヲアル可キガ上ニ、注意ヲ觀念ヨリ轉シテ言詞ノ上ニ著セシムルノ弊アリ、單ニ專斷記憶ノミニ懃フルニ因テ把住力ヲ過當ニ勞スルノ恐アリ、全ク無用ニ属スル類ノ知

識ヲ以テ心意ニ充實スルノ患アリ、剩サヘ條理ニ合ハタル方法ヲ以テ必須ノ綴字方ヲ習得スルノ路ニ於テ重大ナル障礙ヲ爲セバナリ。

小學初等科ニ属スル種々ノ學科ハ之ヲ左ノ數目ニ分ツ、曰ク「自然理學」曰ク「語學」曰ク「數學」曰ク「好尙學」コレナリ。「自然學科」ノ部ニ於テ研究セシムル者ハ、生徒ヲ導テ諸科ノ理學ニ入ラシムルニ適シタル實物教育ノ實ニ相關係スル所有ル者ナリ。哲學即チ人文學ニ属スル者ヲ授クルタメ別ニ課目ヲ立テス、悉ク之ヲ理學ト語學トノ中ニ合併ス。

兒童ノ自發遊戲ヲ許容シ且ツ獎勵スルノ外ニ、定規運動ノ一課ヲ設ケテ當科ノ最初ヨリ之ヲ實施シ、其収尾ニ至ルマテ曾テ間斷無カラシムヘシ。此等ノ運動ハ或ハ音律ニ合ヒ、或ハ誦數ニ從ヘル齊整ナル躰操上ノ動移ノ体裁ニ出テシムルヲ善シトス、然ルトキハ此業ヲシテ愉快ナル休憩タラシメ、之ニ因テ習學、復誦ノ疲勞ヲ修補シ、銳氣ヲ回復スル



ヲ得ヘシ。此法ハ、娛樂ヲ與フルノ外ニ遊戯ヲ轉シテ筋骨ノ運用ヲ充分ニスルノ一助タリ、且ツ軀軀ノ動止ヲシテ從容、易學ナラシムル者タルノ効アリ、從テ一舉ニシテ身體修練ト好尚修練トノ双方ヲ資助スルノ實アルヘシ。

各地ノ科級ヲ立テザル學校及ヒ科級ヲ立ツル學校ノ初等科ニ於テハ、必ス左ノ用具ヲ備フヘシ、即チ讀書ニ用弗ル掛圖、建築ヲ摸スルニ用弗ル木片、級中ノ各生徒ニ一個ツ、ヲ貸與スヘキ「インチ」洋「フット」洋及ヒ「ヤルド」洋木尺及ヒ堅牢ナル組紐ヲ以テ製シタル「ロッド」尺目十六「フット」洋「ロッド」洋「ギル」洋「ポイント」洋「クウォルト」洋「ガルロン」及ヒ「ベック」洋共ニ量機、并ニ此等トモニ用弗ル砂ヲ容レオク箱一個、天秤一個、并ニ「アポシユボア」洋「量」洋「ロイ」洋量金及ヒ「アポシカリ」洋量藥ノ諸位ヲ示ス馬法數個、十二個ノ部分ヨリ成リ立ツ方尺一個但シ各部ノ厚一寸及ヒ幾何學上定規面形及ヒ

體形ノ雛形ヲ容ル、ノ箱一個コレナリ。此等ハ皆體形及ヒ廣袤ニ關スル限定ナル實地上ノ觀念ヲ生徒ニ授クルニ必要ナル者トス。今斯ル裝置ヲ完備セントスルニ於テモ費ス所、十「弗」ヲ越エサルベシ、而モ此等ヲ使用スルニ因テ省約スルヲ得ヘキ光陰ノ價格ハ幾倍スルヲ知ラサルナリ。

### 第一級

#### 第一學期即チ秋期

##### 自然理學科

植物ノ課業——「葉」即チ形狀、構造、名稱。植物課業ニ於テハ教師先ツ葉ノ一般ノ形狀ヲ指示シ、而シテ後其主要ナル諸部分ヲ指示ス。此等



ノ部分ノ名稱ヲ教ヘ、生徒ヲシテ此等ノ名稱ヲ他ノ葉ノ諸部分ニ應用セシム。次ニ葉ノ邊端及ヒ筋經ヲ指示スヘシ。斯クテ葉ニ關スル種々ノ觀念漸次啓發スルニ從ヒ、生徒ヲ指揮シテ此等ノ觀念ヲ彰明スルニ足ル標品ヲ採擇セシム、而シテ尋常ノ葉ハ悉ク皆之ヲ稽查シ名狀シ盡クシテ漏ス所無キニ至ルマテ此課業ヲ繼續スベシ。

動物ノ課業 || 人體ノ諸部分、即チ胴體、上肢兩腕、下肢雙脚、頭、頸、手、足、眼、耳、鼻等。手ト足トヲ比較ス。犬、猫ヲ取り、兩者ノ諸部分ヲ比較ス。

場處ノ課業 || 机上及ヒ室內ニ在ル諸物体ノ場處並ニ相對ノ位地ハ何々ノ右、何々ノ前、又ハ横ナドイフヲ相對ノ位地トイフ也以上ヲ塗板ニ圖寫ス。

### 語學科

口說演習 || 毎日一個ツ、近易ノ物体ヲ取テ稽查、名狀シ、其部分、名稱、數量ヲ言述ス。

讀法 || 掛圖及ヒ塗板ヲ以テ言詞單語及ヒ句節ヲ誦讀ス。

綴字 || 其レト無ク偶然ニ字母我國ノいろは又ノ名稱ヲ教フ。

作文 || 當日ノ課業ニ見エタル言詞ヲ悉ク石盤ニ楷書ス。

### 數學科

体形ノ課業 || 平面、平面ノ種類、平面ノ區分、即チ表面、邊端、隅角。點及ヒ線ト云フ名目ヲ開示シ、應用ス。

尺量ノ課業 || 尺量ヲ表ス一般ノ名目ヲ開示ス、即チ大及ヒ小、長及ヒ短、廣及ヒ狹、厚及ヒ薄、深及ヒ淺、高及ヒ低。

數量ノ課業 || 計數方、實物ヲ以テ十以下ノ數ヲ加算及ヒ減算ニ依テ結合ス。

### 好尚學科

畫學 || 工夫畫學ニ着手シ、木片ヲ用テ之ヲ授ク、二線、三線、四線、五線ノ



結合。  
唱歌 || 日々出席ノ衆生徒ヲシテ唱歌ヲ演習セシム。音樂ハ兒童ヲシテ容易ニ記憶シ得テ吟唱スルヲ喜フニ至ラシムルニ適シタル簡單ナル旋律ニ合ヘル者ヲ起ル數音ノ音ヨリ成リ立ツ者ヲ善シトス。隊伍進行ニ通用スヘキ種々ノ音調ヲ教ヘ、躰操ノ演習ニ添ヘテ唱歌セシム。

### 第二學期即チ冬期

#### 自然理學

動物ノ課業 || 犬及ヒ猫ヲ温習ス。牛及ヒ馬ヲ名狀シ、比較ス。食草類及ヒ食肉類トイフ名目ヲ分別シ、應用ス。  
彩光ノ課業 || 原色即チ青、黃、赤ヲ開示シ、應用ス。

場處ノ課業 || 方角ヲ開示ス。左右、前後、上下。室ノ諸部分、即チ壁、天井、牀板。此等ノ部分ノ方角。方角ノ諸點、即チ東、西、南、北、東北、東南、西南、西北。主點及ヒ半主點トイフ名目ヲ教示シ、應用ス。

#### 語學科

口授演習 || 物体ノ名狀、即チ其諸部分及ヒ部分ノ數ノ名狀ヲ日々繼續ス。生徒ヲシテ連續セル說話トシテ名狀ノ要領ヲ述ヘシム。生徒ノ自由會話ヲ獎勵ス。  
讀方 || 掛圖及ヒ塗板ニ依テスル言詞及ヒ句節ノ誦讀ヲ繼續ス。第一一讀本ニ着手ス。  
綴字 || 掛圖又ハ書物ニ依テ讀方ニ供セシ所ヲ擬寫スルニ依テ綴字ヲ修メシム。始メテ新語ヲ提出シ、使用スルゴトニ必ス十分ニ之ヲ學習セシム。



習字〇〇〇 讀方ノ課業ニ見エタル言語ヲ石盤ニ楷書セシム。

數學科

體形ノ課業〇〇〇 諸線即チ直線、曲線、縱線、橫線、斜線。諸角即チ直角、尖角、

鈍角。

尺量ノ課業〇〇〇 尺量ヲ表示スル名目ヲ温習ス。「イノチ尺及ヒ「フート」

尺ヲ提出シ、實用ス。生徒ヲシテ兩者相對ノ大小ヲ發明セシム「即チ  
ト尺ハ、イノチ尺ノ十二倍ニ等  
シトイフヲ發明スルヲ云フ

此課業ニ於テハ先ツ「イノチ尺」ヲ級中各名ノ生徒ニ附與シ、教師生徒  
ニ命シテ善ク熟視セシメタルノ後、之ヲ収メテ眼ノ及ハサル所ニ藏  
置ス、サテ生徒ヲシテ豫メ備置スル紙線ノ中ヨリ長サ其尺ニ均シト  
思フ分ヲ切リトラシメ、倍テ再ヒ前ノ尺ヲ持チ出タシテ之ト紙片ト  
ヲ比較セシム。次ニ又生徒ヲシテ長サ其尺ニ等シト思フ線ヲ引カ

シムベシ、而シテ其線稍、精細ニ其尺ニ符合シ、其尺ノ長サノ觀念ノ稍、  
限定ナル者ヲ得ルニ及テハ、則チ之ニ教フルニ「イノチ」ト云フ名稱ヲ  
以スベシ。

又「イノチ尺」ヲ十二個合スレバ以テ「フート」ノ觀念ヲ開示スルニ足ル  
ベシ、然ル後「フート」ト云フ名稱ヲ教ヘテ各生徒ニ附與スルニ「フート」  
尺ヲ以テスベシ。之ト同一ノ次第ヲ追テ「ヤルド」及ヒ「ロツド」ノ觀念  
ヲモ開示シテ其名稱ヲ授クルコトヲ得ヘシ。然ル上ハ、全級ノ生徒  
ニ附與スルニ「ヤルド尺」及ヒ「ロツド尺」ヲ以テシ、之ヲ以テ教場ノ内外  
ニ在ル品物ヲ實地ニ尺量スルノ業ニ熟練セシムヘシ。  
數量ノ課業〇〇〇 十以下ノ數ヲ乘法及ヒ除法ヲ以テ結合スルヲ實物  
ニ依テ教フ。

好尚學科



書學〇〇 工夫書學ヲ繼續ス、十個以下ノ線ノ結合。十個以下ノ線ヲ應用シテ近易ノ物体ノ輪廓ヲ圖スルヲ教フ。  
唱歌〇〇 唱歌ノ日々演習ヲ繼續シ新奇ノ音調ヲ教フ。

### 第三學期即チ春期

#### 自然理學科

植物ノ課業〇〇 幹、枝、根、及ヒ皮ヲ稽查シ、名狀ス。相異ナル種類ヲ比較シ分類ス。

動物ノ課業〇〇 羊及ヒ其他ノ家畜ヲ名狀シ、前ノ二學期ニ於テ研究シタル動物ト比較ス。兔、灰鼠、及ヒ鼠ヲ稽查シ、比較ス。齧齒類ト云フ名目ヲ開示ス。

動物ノ課業ヲ教授スルノ作用ヲ言ヘバ、第一ニ現物ヲ以テ級生ニ示

スチ善トス。少シク注意ヲ用非ザレハ犬、猫ハ言フニ及バズ、或ハ兔ナドヲ得ノヲ難キニ非サルヘシ。若シ此動物ヲ教場ニ提出シ難キ場合アラバ、生徒ヲシテ其在リト知ル處ニ行キテ觀察ヲ遂ケシムヘシ、又斯クノ如クスル事モ難キ場合ニハ、圖書ニ依ルヘシ。例ヘハ牛馬等ノ如ク教場ニ提出シ難キ動物ニ關スル課業ヲ授クルトキハ、教師翌日生徒ニ應答ヒシムヘキ問題ヲ出ダシオキ、之ヲ獎勵シテ觀察ヲ施シ、且ツ觀察シテ得タル所ヲ名狀スルヲ勉メシムヘシ。  
場處ノ課業〇〇 室ノ種々ノ部分ノ位地ヲ温習セシム。室内ニ在ル諸物体ノ場處及ヒ位地ヲ指示シ、教室及ヒ其内ニ在ル諸品物ノ圖ヲ塗板ニ書ス。

#### 語學科

口說演習〇〇 物体ノ名狀ヲ日々繼續ス。物体ノ諸部分ノ位地及ヒ功



用ヲ開示シ名狀ス。生徒ヲシテ其自ラ目撃セシ偶事ヲ話語セシム。

教師先ツ奇談ヲ陳述シ、生徒ヲシテ再述セシム。

綴字〇〇 一切ノ新單語ヲ始メテ提出スルタビゴトニ稽查シ且ツ綴ラ

シム。

作文〇〇 石盤ニ言詞ヲ書寫スルヲ繼續ス。印刷文字楷書ニ代ヘテ

漸次筆書文字草書ヲ提出ス。始メ單一ノ事實ニ依リ次ニ數條ノ事

實ヲ結合シタル物体ノ名狀(即チ敘事)ヲ書寫セシム。

### 數學科

体形ノ課業〇〇 平面ヲ復習ス。諸三角ヲ開示シ、構造シ、分類シ、命名ス、

即チ直角三角、尖角三角、鈍角。

尺量ノ課業〇〇 「インチ」尺及ヒ「フット」尺ヲ復習ス、又「ヤルド」尺及ヒ「ロツ

ド」尺ヲ開示シ、實地課業ニ使用ス。此事ヲ辨理スルノ方法ハ前學期

ノ課業ニ關シテ既ニ名狀シタシ所ニ準フ。生徒躬自ラ此等ノ尺量  
ヲ用テ椅子、机、及ヒ其他ノ器財用具ノ長短并ニ教場ノ豎横ヲ計量ス  
ルヲ練習セシム。此課業ヲ現實ニ施行セバ、一方ニ於テハ愉快ナ  
ル事業ヲ爲シ、又一方ニ於テハ廣袤及ヒ遠近ノ觀念ヲ深ク心意ニ銘

刊シテ永ク消絶セサラシムベシ。

數量ノ課業〇〇 十以下ノ數ノ諸結合法ヲ温習ス。數學ノ用方。百以

下ノ數ヲ列記ス。

### 好尚學科

書學〇〇 直線ヲ用テ工夫書學ヲ繼續ス。前學期ノ体形課業ニ於テ開

示シタル諸角ヲ温習シ、分類シ、以テ原本結合(三角、四角、五角、六角、七角、八角、九角、十角、十一角、十二角、十三角、十四角、十五角、十六角、十七角、十八角、十九角、二十角)ヲ製スルヲ如キ

ヲイノ基本ト爲ス。

唱歌〇〇 唱歌ノ日々演習ヲ繼續ス。每期授業ヲ始ムルトキ、先ツ唱歌



ヲ授ケ、其後トイヘニ衆生徒懈倦シテ課業ニ留心スルコトヲ難ニスル  
ノ色見ユル毎ニ唱歌ヲ授クルヲ善シトス。

### 第三級

#### 第一學期即チ秋期

##### 自然理學科

植物ノ課業——庭園菜草、即チ其名稱、形樣、功用。各種菜草ノ食物ニ供  
スヘキ部分、例ヘバ大根及ヒ葱<sup>ネギ</sup>ノ根ノ如キ、馬鈴薯等ノ藕ノ如キ、芹菜、  
及ヒ大黃等ノ莖ノ如キ、莧菜<sup>アザミ</sup>ミツパンダ及ヒ蕪菁等ノ葉ノ如キ、漿菜<sup>イチゴ</sup>等  
ノ菓實ノ如キ、穀物等ノ種又ハ粒ノ如キコレナリ。此一學期中ノ日  
々ノ演習ニ供フルニハ、只タ庭園ニ生スル通常ノ菜草ヲ悉ク稽查ス

ルノミニテ事足レリ。現物ヲ目前ニ置クトキハ以テ生徒ノ歡喜ヲ  
促スニ足ルベシ。

動物ノ課業——鷄、七面鳥、鶩、鴨、及ヒ其他生徒ノ熟知スル鳥類。各類ヲ  
名狀シ、自餘ノ鳥類ト比較ス。鳥ト哺乳動物トヲ比較シ、類似點及ヒ  
差異點ヲ指示ス。

場處ノ課業——方角ノ演習ヲ繼續シ、敷衍ス。現物ニツキ長短大小ヲ  
計量ス。配法ヲ<sup>十分</sup>分メテ<sup>一</sup>、<sup>五十分</sup>分ノ<sup>一</sup>等ノ割合ノ觀念ヲ開示ス。一定  
ノ配法ヲ以テ教場ノ圖面ヲ塗板ニ畫ス。

##### 語學科

口說演習——物体ノ名狀ヲ繼續シ、特ニ其性質ヲ詳示ス。物体ヲ稽查  
シテ發見シタル觀念、即チ發香、薰香、柔軟、多竅、包織、易碎、易枉、彈力等ヲ  
教示ス。此等ノ性質ノ名稱ヲ開示シ使用ス。奇談ヲ再說ス。偶事



ヲ演舌ス。教師音訓、言詞ノ用方、文章ノ構造ニ係ル誤錯ヲ指斥シ、生徒之ヲ改正ス。

讀方〇〇 第二讀本ニ着手ス。一切ノ課業ニ於ケル誦讀ノ法ヲシテ快活ナラシメ、且ツ發聲ヲ自然ニセシム。

生徒ノ注意ヲ絶エズ制シテ、言詞ノ自体ニ着セスシテ、寧ロ其表示スル所ノ思想ノ上ニ着セシムベシ。機械的ナル純音誦讀方ヲ許容スヘカラズ。

綴字〇〇 新出ノ言詞ヲ一々綴ラシムルヲ從前ノ如クス。

教師注意シテ初發ヨリ誤錯ナキ綴字方ヲ模倣セシメ、決シテ生徒ヲシテ謬妄ナル綴字ヲ目撃セシムヘカラズ、若シ一度之ヲ目撃シテ腦髓ニ銘刊スルトキハ、後ニ排除スルヲ甚難キモノナリ。

作文〇〇 前ニ口説シタル簡單ナル物体ノ名狀ヲ完全ニ書寫セシム。

第一學年中ハ生徒ヲシテ印版文字ヲ臨摸セシムルヲ善シトス、即チ其形様ヲ心中ニ銘刊スルヲシテ一層速迅ナラシメンガタメナリ。同年末期ニ至ルニ及テハ、掛圖ヲ用井、或ハ塗板ノ上ニ書シテ羅馬文字ト筆書文字トヲ併ヘ示スヘシ、然スレバ生徒自然ニ筆書態ヲ採用スルヲ覺ユヘキナリ。第二學年ノ初ヨリハ筆書文字ノミヲ作文并ニ其他ノ用ニ供セシムヘシ。

### 數學科

體形ノ課業〇〇 諸直角形ヲ開示シ、構造シ、分類シ、命名ス。并形方形、不等邊併行方形、不等邊方形ヲ開示ス。

尺量ノ課業〇〇 諸量斗、即チ「ギル」量、「ポイント」量、「クウルト」量、及ヒ「ガルロ」量ヲ提出シテ、砂又ハ其他之ニ類スル物ヲ實地計量セシム。生徒ヲシテ諸量斗ノ相對ノ大小ヲ自ラ發見セシム。



數○量○ノ○課○業○ || 五以下ノ數ノ加算表及ヒ減算表。百以下ノ十一法。  
加標、減標及ヒ均標ノ用法。

### 好尚學科

書○學○ || 工夫書學ヲ繼續ス。三角形ヲ復習シテ新結合ノ基本トス。  
線及ヒ三角形ヲ以テ近易ノ物体ノ輪廓ヲ表現ス。  
唱○歌○ || 日々簡單ナル唱歌ヲ授クルト從前ノ如クス。躰操ニ合セテ  
唱歌セシム。新奇ノ音調ヲ教フ。

### 第二學期則テ冬期

### 自然理學科

動○物○ノ○課○業○ || 近易ノ諸動物ノ復習。圖畫ヲ以テ同課業ヲ繼續ス。  
獅子、虎、象、シアラ、鹿、熊、猿ヲ教示ス。諸哺乳動物ノ普關分類法。生徒  
ノ既ニ知ル所ノ動物ニ就テ自ラ目撃セシ所ヲ以テ此分類法ノ基本

トスベシ。生徒既ニ觀察ヲ施シテ得タル猫ノ知識ト、圖書ノ補助ト  
アルトキハ、之ニ依テ獅子及ヒ虎ノ形樣、大小、特質ヲ了解セシムル  
容易ナルベシ。

光○彩○ノ○課○業○ || 原色ヲ復習ス。諸亞色即チ綠色、橙色、紫色ヲ開示シ、適  
用ス。原色ヲ結合シテ亞色ヲ生スル次第ヲ説明ス。各校ニ於テ色  
圖ヲ備置スヘキノミナラス、教師須ク水彩繪具ヲ講求シ、之ヲ以テ原  
色ヲ混合シテ亞色ヲ生スルヲ實地ニ教示スヘシ。生徒ヲシテ躬  
自ラ此事ヲ爲サシムベシ。  
場○處○ノ○課○業○ || 教場ノ周圍ニ位スル諸物ニ就テ場處及ヒ相對ノ位置  
ヲ研究ス。戶外ニ於テ遠近ヲ測重シ、配法ヲ以テ塗板上ニ圖面ヲ製  
ス。

### 語學科



口○說○演○習○ || 性質ニ關スル物体ノ名狀ヲ繼續ス。易燃性、易鎔性、可着  
火性、透明、透光、不透明等ノ性質ヲ發明セシメ應用セシム。  
讀○方○ || 第二讀本ヲ繼續ス。前學期ニ於テ注意シタル所ト同一ノ諸  
點ニ注意シ、殊ニ生徒ヲシテ不良ナル讀方ニ陥ラシメサルヲニ深ク  
留心スヘシ。

綴○字○ || 一切ノ新出ノ言詞ヲ一々綴ラシムルヲ從前ノ如クス。  
作○文○ || 物体ノ名狀ヲ書寫セシムルヲ繼續シ、敷衍ス。偶事ヲ演舌  
シ、奇話ヲ再說シテ演習ノ參差ヲ計ル。

### 數學科

體○形○ノ○課○業○ || 諸直線形ノ溫習、分類、命名。多角形ヲ因物的ニ開示シ、  
分類シ、命名ス。幼稚園ノ小豆課業ヲ此ニモ舉行スルトキハ利益ア  
ルヘシ。

尺○量○ノ○課○業○ || 量斗ニ關スル授業ヲ繼續ス。「ベック」量、「プスセル」量、「パ  
ーレル」量ヲ教示シ、併セテ實地ニ應用セシム。  
數○量○ノ○課○業○ || 十以下ノ加算表及ヒ減算表、并ニ百以下ノ十一法。量  
斗上ノ數ヲ加算及ヒ減算ノ例トシ、之ニ據テ實地演習ヲ舉行ス。

### 好尚學科

書○學○ || 工夫書學ヲ繼續ス。直角形ノ諸種ヲ結合ス。此等ニ類スル  
形ヲ備ヘタル近易物体ノ輪廓ヲ畫ス。  
唱○歌○ || 日々ノ簡單ナル音調ノ唱歌ヲ繼續ス。新規ノ音調ヲ教フ。

### 第三學期即チ春期

#### 自然理學科

植○物○ノ○課○業○ || 植物ノ種子、形狀、成長ノ方法、功用、分類。種子ノ名狀ヲ



以テ語學課業ノ基本トス。  
動物ノ課業——蛙ヲ稽查シ、定義ス。兩棲類及ヒ兩棲的ト云フ名目ヲ  
開示シ、應用ス。魚類ヲ稽查シ及ヒ名狀ス。此等ノ動物ノ諸部分ヲ、  
前ニ研究セシ諸動物ノ諸部分ト比較ス。  
場處ノ課業——學校ノ周圍ニ在ル品物ノ測量及ヒ製圖ヲ繼續ス。各  
生徒ノ自宅ヨリ校舍ニ到ルノ沿路ヲ名狀シ製圖セシム。

語學科

口○說課業——性質ニ關シテノ物体ノ名狀ヲ繼續ス。糊着性、固着性、吸  
收性、永存性、收縮性及ヒ其他之ニ類スル稱号ヲ以テ表示スル觀念ヲ  
開示シ應用ス。物体ヲ、動物、植物、礦物ニ分類スルヲ演舌セシム。  
生徒ヲシテ再說セシムル所ヲシテ成ル可ク一定ノ事目ニ屬スル者  
ヲラシム。

讀○方——第二讀本ヲ結了ス。母音及ヒ清音ニ關スル特別ノ練習。  
綴○字——一切新出ノ言詞ヲ一々綴ラシムルヲ從前ノ如クス。  
作○文——物体ノ名狀。書寫ヲ繼續ス。動物及ヒ植物ノ課業ヲ以テ作  
文課業ノ基本トス。文字ノ形狀、大小、斷續ニ特別ノ注意ヲ加フ。句  
節ノ初メニ花文字ヲ用井ルヲ教フ

數學科

體○形ノ課業——直線ヲ以テ邊トスル不定規圖形。以前ノ課業ノ溫習。  
體形ノ結合ヲ修メシメテ傍ラ畫學課ノ用ニ供ス。  
尺○量ノ課業——測量家ノ鎖尺ヲ提出シ、使用ス。鎖尺ノ區分及ヒ其已  
ニ學ヒ得タル尺量ニ對スル關係ヲ説明シテ實地ニ應用ス。  
數○量ノ課業——加算表及ヒ減算表ヲ結了シ、溫習ス。尺量ノ課業ニ於  
テ計量セシ所ヲ以テ加算及ヒ減算ノ演習ノ基本ト爲スモ可ナリ。



好尙學科

書學 || 角度、三角形及ヒ四邊形ヲ用テスル工夫書學。記憶ニ依テ圖形ヲ再現ス。近易ノ物体ノ輪廓ヲ圖畫セシム。  
唱歌 || 日々ノ唱歌演習ヲ繼續ス。相貌ニ圖スル特別ノ練習。

第三級

第一學期即チ秋期

自然理學科

植物ノ課業 || 小麥、稗麥、燕麥、大麥、黃蜀葵、馬鈴薯及ヒ其他食料トスヘキ内國ノ植物ヲ稽查シ、名狀ス。其他ノ有用ナル近易ノ植物ヲ稽查シ、名狀ス。

動物ノ課業 || 蜥蜴及蛇ヲ稽查シ、名狀ス。鱈魚及ヒ王蟒ノ如キ大ナル爬虫類ヲ圖面ニ依テ名狀ス。其構造及ヒ常習ヲ説明ス。  
地誌 || 繪圖ヲ用テ村邑モシクハ學區ヲ研究セシム。市街、主要ナル建築及ヒ其他歡喜ノ情ヲ促スニ足ル物体ノ所在。製圖ニ用非ル假約文字ヲ提出使用ス。

語學科

口說演習 || 物体ノ名狀ヲ繼續ス。物体ヲ固形体、流動體、又ハ瓦斯體ニ分類ス。酸味、甘味、辛味、鹽味、香味、好香等ノ性質ヲ開示シ應用ス。  
讀方 || 第三讀本ニ着手ス。子音及ヒ清音ニ特別ノ注意ヲ加フ。  
綴字 || 音及ヒ文字ニ依テ讀本ニ見エタル單語及ヒ新出ノ言詞ヲ綴ラシム。音綴ト字綴ト異ニスルハ英語ノ字母ノ語中無音ノ字母ヲ指名ス。



作文〇〇 毎日少ナクトモ一篇ノ作文ヲ書寫セシム。近易ノ事目ニ就キ討議シ、然ル後諸觀念ヲ結合シテ書寫セシム。書寫課業ノ体裁、花文字ノ用方、及ヒ句讀ノ用方ニ注意ヲ加フヘシ。臨時課業ヲ提出ス。

數學科

体裁ノ課業〇〇 曲線ヲ邊トスル、体形、圓形、卵形、橢圓形等ヲ稽查シ名狀ス。書學課ノ傍ラ此等ノ体形ヲ開示ス。

重量ノ課業〇〇 天秤ヲ使用ス。「アボザッポア」常量ノ「チノス」及ヒ「ボノド」

量ヲ提出シ、重量ヲ計ルヲ實地ニ就キ練習セシム。

數量ノ課業〇〇 五以下ノ乘算表ヲ編成ス。重量ノ課業ニ於テ演習スル所ヲ以テ乘法ノ實例トス。乘標ヲ提出シ、使用ス。

好尚學科

書學〇〇 工夫書學ヲ繼續ス。曲線ヲ開示シ、分類シ、及ヒ結合ノ基本ト

シテ使用ス。物体ノ輪廓ヲ畫ス。記憶ニ依テ圖形ヲ寫出ス。唱歌〇〇 唱歌ヲ繼續ス。毎月少ナクトモ二個ノ新音調ヲ教フ。樂譜ヲ提出ス。

第二學期即チ冬期

自然理學科

動物ノ課業〇〇 鳥類ヲ温習シ、繪畫ヲ以テ此課業ヲ繼續ス。鷹、鷲、鶴、駝鳥、鷓鴣等ヲ示ス。鳥類ノ構造奇異ナル者、即チ沼鳥、涉鳥、抓鳥等。

光彩ノ課業〇〇 以前ノ課業ノ温習。第三色ヲ提出シ、應用ス。生徒ヲシテ教師ノ指揮ニ從ヒ水彩畫具ヲ使用シ、調合セシム。

地誌〇〇 自然ノ區分。丘、山、溪、原、泉、河、谷、半島、地峽、濱岸、池、湖、等ヲ因物的ニ示ス。一ノ丘ト一ノ溪トヲ觀察スルルハ、之ニ依テ以上枚舉スル



各様ノ自然區分ノ觀念ヲ生スルヲ得ベシ、而シテ此クノ如キ觀察  
ヲ施サシメタルノ後ニ非サレバ、決シテ此等ノ名目ヲ包含スル地誌  
上ノ課業ヲ授クヘキニ非ズ。既ニ此クノ如キ觀察ヲ施サシメタル  
ノ後ハ生徒ヲ導テ略ホ正經ナル定義ヲ立テシムルヲ容易ナリ。

語學科

口說演習 || 性質ニ關スル物体ノ名狀ヲ繼續ス。物体ヲ天成及ヒ人  
造ノ二部門ニ分類ス。可銘性、不可銘性、發音性、反射性、等ノ性質ヲ開  
示シ、應用ス。

讀方 || 第三讀本ヲ繼續ス。雜種讀書ニ着手ス。

綴字 || 近易ノ言詞ヲ綴リ、及ヒ新出言詞ヲ始メテ使用スル毎ニ綴ラ  
シムルヲ從前ノ如シ。書籍モシクハ塗板ニ記載スル單語ヲ正シク  
書寫セシメ、生徒不正ノ綴字法ニ薰染スルノ隙無カラシム。

作文 || 日々一章ツ、書寫セシムルノ法ヲ繼續ス。思想ヲ陳述スル  
ノ順序ニ特別ノ注意ヲ加フ。臨時課業ヲ繼續シ且ツ敷衍ス。

數學科

体形ノ課業 || 實物ヲ用テ幾何學ノ諸固形体ヲ示ス。圓形、球形、三角  
鏡形、圓柱形等。孰レノ學校ニ於テモ必ス幾何學上ノ固形体ノ各種  
ヲ標示スル木片ノ一箱ヲ備置スヘシ、即チ生徒ヲシテ此等ノ体形ニ  
熟通セシメ且ツ其心中ニ於テ永ク此等ノ体形ト其名稱トヲ聯合セ  
シメンガ爲メナリ。生徒ヲシテ此等ノ名稱ヲ其指示スル所ノ体

ニ類似スル自然ノ物体及ヒ人造ノ物体ニ應用セシムヘシ。  
重量ノ課業 || 「チンス」重及ヒ「ポンド」重ヲ温習ス。「グナトル」「ハンドレ  
ツド、ウエイト」「トン」等ノ名目ヲ提出シ應用ス。

數量ノ課業 || 十二至ル迄ノ乗算表ヲ編成ス。專ラ重量ノ課業ニ於



テ經驗スル所ヲ以テ乘算ノ實地演習ニ供ス。

### 好尙學科

書學〇〇〇〇 曲線角ヲ開示ス。曲線及ヒ角度ヲ用テスル工夫書學。此等  
ヲ曲線ノ輪廓ヲ有スル物体ニ應用ス。暗記ニ依テ圖形ヲ畫ス。  
唱歌〇〇〇〇 唱歌ノ毎日演習ヲ繼續ス。新規ノ音調ヲ教フ。樂譜ノ演習  
ヲ繼續ス。

### 第三學期即チ春期

#### 自然理學科

植物ノ課業〇〇〇〇 以前ノ課業ヲ温習ス。植物ノ一般ノ形狀、木類―灌  
木類―草類。芽萌及ヒ其漸次發育スル次第ヲ稽查シ、比較シ、分類ス。  
葉、其形狀、構造及ヒ名稱。

動物ノ課業〇〇〇〇 以前ノ課業ノ一般ノ温習。有脊動物ト云フ名稱ヲ開  
示シ、應用ス。有脊動物ノ數類屬―哺乳動物類、鳥類、爬虫類及ヒ魚類  
ヲ比較シ、各類屬ノ生徒ノ既ニ知ル標品ヲ列記ス。

地誌〇〇〇〇 都會、即チ所在ノ丘―溪―河―池―道―鐵道―村邑。生徒ノ  
曾テ到リシ隣村及ヒ此ニ至ルノ沿路。都會ノ繪圖ヲ編成シ、講究ス、  
又生徒ヲシテ之ヲ塗板及ヒ石盤ニ畫セシム。

#### 語學科

口說演習〇〇〇〇 構造ヲ功用ニ適當セシムルコトニ關シテ物体ヲ憶度ス。  
石筆、石盤、書物、椅子、机、卓、手桶等。名狀及ヒ敘述ノ演習ヲ繼續ス。  
讀方〇〇〇〇 第三讀本ヲ繼續ス。發音ノ原素ヲ母音子音ヲ分シ、類シ、温習ス。  
綴字〇〇〇〇 熟知スル言詞、及ヒ新出ノ言詞ヲ綴ラシムルコト前ノ如シ。  
作文〇〇〇〇 日々名狀、敘述、及ヒ再說ヲ書寫セシム。即席課業ヲ繼續ス。



數學科

體形ノ課業——諸種體形ノ温習及ヒ分類。尺量即チ堅幅及ヒ厚ヲ開示シ、線形、面形、固形等ノ名目ヲ開示シ應用ス。  
價格ノ課業——合衆國通貨ノ種々ノ記号ヲ因物的ニ揭示ス。合衆國ノ剛貨。  
數量ノ課業——乘算表ヲ完了シ復習ス。乘法ノ雜種演習、但シ首トシテ重量ノ記号ヲ基本トスル者。

好尚學科

書學——曲線ヲ以テスル工夫書學ヲ繼續ス。曲線ヲ應用シテ、葉、花草、虫等ノ輪廓ヲ描寫ス。書學ノ課業ヲ以テ博物學科中既ニ履踐セシ課業ノ復習ニ當ツ。  
唱歌——日々ノ唱歌ヲ繼續シ、新音調ヲ學習セシメ、樂譜ノ演習ヲ繼續ス。

小學中等科

一般明說

——小學中等科ニ屬スル三級ノ課業ハ大抵因物法ニ據ルモノトス、其初等科ノ課程ト異ナル所ハ範圍一層廣濶ナルト、事實一層詳細ナルト、人文學ニ涉ル事目ヲ包含スル漸ク多キトニ在リ。  
語學ノ課業ニ於テハ、修述ノ法ヲシテ成ル可ク廣大ナル思想ニ根據スルモノヲラシメントテ務ム、且ツ此ニ採擇スル方法ニ依ルトキハ、本元記憶ヲ思想ヨリ轉シテ修述ノ上ニ着セシムルノ患少ナカルベシ。  
凡ソ言語ヲ用井ルノ精巧ハ思想ノ釋然タルト、修述ノ熟練トニ因テ來タルモノナリ。

口說ノ演習ヲ特ニ首要ノ地位ニ置キ、之ニ依テ生徒ヲ導テ種々ノ觀察



及ヒ討究ノ範圍ニ入ラシメノヲ計ル。各生徒ヲシテ其思想ニ下タスニ成ル可ク十分ナル効力ヲ有セル言語ヲ以テスルノ能力ヲ得シメノヲ計ル。

讀書科ニ於テハ、讀本ノミニ依頼スル教練ノ純音ヲ破ラシタメ、數多ノ雜種事目ヲ誦讀セシム、且ツ之カ排布ノ次第ヲシテ生徒ヲ引テ直チニ思想ノ高大ナル範圍ニ達スルニ便ナラシム。且ツ又誦讀ニ供スル事目ノ種類ヲ精選シテ、心意ニ填充スルニ善良ナル心像ト高邁ナル情操トヲ以テスルニ適當セシメ、務メテ風儀ヲ紊ルニ至ルヘキ詩文ヲ窮覽セントスルノ意向ヲ驅除ス。

特別ノ作文課業ニ於テハ、三級トモニ涉リテ工業上ノ事目ヲ以テ基本トス、即チ此類ノ事目ハ、第一ニ有益ノ知識ヲ給資シ、第二ニ大ニ諸ノ自然理學ノ缺ヲ補フノ効アリ、第三ニ一切ノ作文事業ニ於テ成功ヲ期セ

ノカタメ必要トスル三段ノ作用、即チ觀念ノ積集、排列、修述ヲ完全ニスルタメニ十分ナル範圍ヲ開ケバナリ。

第六級ニ於テハ、漸次ニ注意力ヲ物質ノ上ヨリ轉シテ物質ヲ管理スル勢力ノ上ニ着セシメ、先ツ原因ノ尋究ヨリ起テ、直チニ哲學ニ進入スルノ引指ト爲ラシメノヲ計ル。

中等科ニ属スル學科ノ一般ノ分解ニハ、好尙學上ノ修練ヲ特殊ノ課目トシテ置カズ、是レ蓋シ此修練ヲ度外ニ置クヘキガ故ニ非ス、畢竟施スヘキ方法ノ巨細ハ、採ル所ノ統系ノ如何ニ從テ大ニ異ナル所アルニ因リ、一定ノ分解ヲ以テ推ス可カラザレバナリ。

書學ハ中等科ノ初ヨリ終ニ至ルマテ毎日之ヲ授業スベシ。主トシテ生徒ニ習得セシメノヲ務ムヘキ諸點ハ、一ニ鉛筆ヲ用使スルノ手續、二ニ實物ノ攻究及ヒ描寫ニ因ル觀察能力ノ發育、及ヒ三ニ元素ヲ結合



シ實地ニ就テ新匠圖ヲ規作スルニ必要ナル想像力ヲ修練コレナリ。此等ノ目的ヲ達センカ爲メ、先ツ生徒ヲシテ成圖ヲ臨摸セシメ、之ニ依テ美術ノ原理ニ從ヒ「自然」及ヒ人工ノ形様ヲ寫シ、或ハ記憶ニ依テ圖ヲ案シ、或ハ口授ニ準テ圖ヲ畫シ、或ハ實物ニ依テ圖ヲ製シ、或ハ自ラ新奇ノ結合ヲ工夫スル等ノ技倆ヲ鍊ラシムヘシ。音樂モ亦中等科全体ニ涉レル毎日ノ課業ノ一ニ居ルベシ。全級ノ生徒ヲシテ毎日數分時間ツ、幾度モ唱歌セシムルヲ善シトス。每學期中ニ三箇乃至六箇ノ新音調ヲ學習セシムヘシ、且ツ音樂ヲ誦讀スルノ術ニ關シテモ漸々高等ナル課業ヲ授クヘシ。體操課業ヲ繼續シテ毎日數度之ヲ演習セシメ、每度五分時間乃至十分時間ニ至ルヲ善シトス。時々新奇ナル體操方ヲ教ヘ、以テ生徒ヲシテ歡喜ノ情ヲ失ハサラシムヘシ、且ツ斯クスレバ筋骨ノ教練ヲ色々駁雜

ニスルノ効モアルベシ。大抵ノ學校ニ於テハ通氣ノ備ヘ殆ト全ク無キヲ常トス、是ヲ以テ各學時午前第一學時トシ、午後第二學時トス、第一時間ノ終ニ於テ躰操ヲ演習セシメ、第二時間ノ終ニ於テ休息セシムルトキハ、每一時間ニ一回ツ、窓戶ヲ扉クヲ得テ、新鮮大氣ヲ十分ニ給資シナガラ、冷風ニ因テ生徒ノ健康ヲ害スルノ患ヲ除クヲ得ベシ。

### 第四級

#### 第一學期即チ秋期

##### 自然理學科

植物ノ課業 — 葉ヲ復習シ、分類ス。植物成長ノ理法ヲ稽查シ、名狀ス。常綠木、落葉木、外長植物、內長植物等ノ名目ヲ開示シ、實地ニ應用ス。



動物ノ課業 || 虫類ノ研究、蠅—蚊—蜂—甲虫—此等ノ一般ノ形狀及ヒ部分。關節動物トイフ名目ヲ開示シ、應用ス。

地誌 || 天氣即チ大氣ノ狀態、暑寒—乾濕—爽氣及ヒ不爽氣。大氣ニ關シテ用ヰル溫度、潤氣、及ヒ健康ト云フ名目ヲ開示ス。氣候ニ影響スル事情ノ最モ著明ナル者ヲ因物的ニ指示ス。風嵐、其一般ノ方向及ヒ影響。

語學科

口說演習 || 植物、動物、及ヒ地理ノ課業ヲ事目ノ順ニ排列シ、復誦シ、以テ口說演習ノ首要ナル材料ト爲ス。各課業ニ於テ思想ヲ精密ニシ修述ヲ明瞭且ツ平易ニセシムルニ殊サラ注意スベシ。  
讀書 || 第三讀本ヲ繼續ス。一週間、ニ一回若シクハ二回ツ、生徒ヲシテ書籍又ハ新聞ニ載スル所ノ說話ヲ採擇シ、素讀セシム。情緒又

ハ思想ヲ表示スルノ面色相貌ニ特別ノ注意ヲ加フ。思想ヲ正當ニ

演舌スルノ結果トシテ曲聲及ヒ讀勢ノ事ヲ示ス。  
インフレクション エンハシス

綴字 || 一切新出語ヲ始メテ用ヰルニ十分ニ習熟セシム。科語ハ教師之ヲ明瞭ニ塗板ニ書寫シ、生徒ヲシテ摸寫セシム。

習字 || 毎時定規演習ノ中ノ一課ヲ撰テ十分ニ書寫セシメ、其事目ヲ十分ニ説明スルヲ及ヒ其種々ノ部分ヲ正當ニ排列セシムルニ特別ノ注意ヲ加フ。人類ノ職業ヲ以テ特別ノ書寫課業ノ基礎トス。農業、禾穀培養—農作スル禾穀ノ種類—必要ナル勞作—地ヲ鋤ク—苗ヲ植ユル—種ヲ播ク—耕耘—鋤田—收納—異種禾穀ヲ收納スル作法—掌園—作法—產物。

數學科

尺量ノ課業 || 方寸「イン」方尺「フー」方步「ヤル」ヲ因物的ニ教示シ、應用







高尙ニスルニ適シタル説讀ヲ採擇シ、級生ヲシテ之ヲ誦讀セシム。  
生徒ニ教ヘテ學識アル人ノ事ヲ述ブルノ体裁ニ各自多少ノ特異ナル所アルヲ觀察セシム。

綴字〇〇 綴字ノ演習ハ用アルニ當テ新奇ニ提出スル言詞ノミニ限ルヘシ。毎日一個乃至二個ノ新詞ヲ習得セシメ、以テ生徒ノ詞林ヲ除々ニ而モ確實ニ増大センコトヲ計ル。言詞ヲ提出スルニ先キ立チテ先ツ其表示スル所ノ觀念ヲ開示シ、此觀念ニ因テ件ノ言詞ノ意味ヲ説キ起スノ順序ヲ踐ムヘシ、此法ハ初ノヨリ罔然タル口説上ノ定義ヲ授クルニ勝レリ。教師生徒ノ果シテ新出言語ノ意味ヲ十分理解セシヤ否ヤヲ究定セント欲セバ、須ク之ニ命シテ件ノ言詞ヲ以テ思想ヲ修述セシムヘシ。

作文〇〇 當日ノ定規日業中ノ一ヲ完全ニ書寫サシムルノ法ヲ繼續ス。

職業ノ特別研究ヲ繼續ス。果實生産ノ業。果實ノ種類、即チ林檎―梨―桃―葡萄―櫻實―梅―草莓―ナス―莓―黒莓等。家畜及ヒ其生産物、即チ馬―牛―半―豚―鶏―七面鳥―鷺鳥―鶯等―牛肉―羊肉―科肉―鶏肉―牛酪―乾酪―毛。動物ヲ飼養スルニ緊要ナル事狀ノ或ル者ヲ教フ。

### 數 學 科

形〇〇 課業〇〇 正則方角形ヲ尺量シ、面積ヲ計算スルノ法ヲ以テ算術上ノ演習ノ基本トス。方形―斜方形―不等邊斜方形―長方形―二邊平行業形―三角形―五角―八角

重〇〇 課業〇〇 アポシカリイ量ノ「グレイン」量「スクールブル」量「ドラクム」量「オンス」及ヒ「ポンド」ヲ提出シ應用ス。算術ノ演習ニ使用スル化數法。算術〇〇 十以上ノ除算法。首トシテ体形及ヒ重量ニ基據スル乘法及



ヒ除法ノ演習ヲ授ク。

### 第三學期即チ春期

#### 自然理學科

植物ノ課業 — 木ノ幹皮根枝及ヒ葉ヲ稽查シテ特ニ其効用及ヒ相互ノ關係ニ注意セシム。

樹液ノ流動及ヒ其効用。草木ノ睡眠及ヒ凋衰。

動物ノ課業 — 海盤車マコノクラヲ稽查シ名狀ス。之ニ類スル他ノ動物トイヘ

標品ヲ得ル毎ニ研究セシム。射形動物トイフ名目ヲ提出シテ其實例ヲ示ス。動物一般并ニ之ヲ射形動物、軟肉動物、關節動物、有脊動物ノ四科ニ區分スルコトノ溫習。

地誌 — 郡ヲ繼續ス。順序ヲ正シテ一切ノ都會ヲ地圖ニ布置シ、之カ

名稱及ヒ相對ノ位地ヲ十分ニ學習セシム。氣候、產物。人民及ヒ其職業。學區、都會、村邑、市府、郡ノ役員及ヒ各自ノ職務。國政ヲ因物的ニ開示スルノ端緒ヲ開ク。例件役員ヲ選舉スル者ハ誰ソ、地方ノ被委任者即チ委員ノ職分ハ何ソ。都會又ハ市府ノ收稅官及ヒ定稅官ノ職務ハ何ソ、捕吏又ハ巡查ノ職分ハ何ソ、保安官ノ職分ハ何ソ、郡役所ノ役員ハ何々ツ、郡裁判ニ長タル者ハ誰ソ、該裁判ノ効用ハ何ソ、此外ニ郡裁判ニ屬スル役員ハ誰々ソ、郡ニ屬スル建築ハ何々ソ、其各一ノ効用ハ何ソ。

#### 語學科

口說演習 — 諸科ニ屬スル事目ノ口說ヲ繼續ス。各生徒ヲシテ每週一回ツ、新奇ニ工夫シテ定規課業ノ外ニ出ツル物体ヲ名狀セシム。讀方 — 第三讀本ヲ結了ス。雜種ノ文章ヲ採擇シテ誦讀セシムルコト



ヲ繼續ス。生徒ヲシテ歡喜ノ情ヲ發セシメ且ツ高尙ナル氣象ヲ生  
セシムルニ適當シタル材料ヲ包含スル文章ヲ採擇セシムルニ特別ニ  
注意ス。

綴字〇〇 新出言詞ヲ綴ルノ演習ヲ繼續ス。句節中ニ之ヲ用非ルニ依  
テ言詞ノ意味ヲ確知セシム。

作文〇〇 學校ノ定規課業ノ一ヲ日々書寫セシム。職業ノ研究ヲ以テ  
書寫演習ノ基本トスルヲ繼續ス。磨粉職、即チ麪粉—穀粉—「カナ  
イユ」糖—割麥粉—燕麥澱—澱粉—穀糊等。麵包職、即チ其製法及  
ヒ產出。肉、即チ晒糖—鹽藏—燻乾等。牛酪及ヒ乾酪職、即チ其製造  
ノ作法。罐詰牛乳。菓實職、即チ其晒糖法及ヒ保存法、晒乾—砂糖漬  
醃漬—保存。

### 數學科

形體ノ課業〇〇 直線形ノ尺量法ヲ繼續ス。測量家ノ面積尺ノ稱号ヲ  
表示シテ例件ヲ掲ク。  
價格ノ課業〇〇 英國紙幣ノ記号ヲ因物的ニ教ヘテ實例ヲ示ス。化數  
法ヲ以テ算術習練ノ基本トス。  
算術〇〇 乘算表及ヒ加算法ヲ溫習ス。記數法及ヒ讀數法ヲ溫習シ數  
術ヲ  
衍ス。

### 第五級

#### 第一學期即チ秋期

#### 自然理學科

植物ノ課業〇〇 樹木、槭樹—山手樺—槿樹—櫻—シカモール、蕁麻—花—櫻



— 楡 — 槐 — へムロック — 柏 — 松 — スプルス 等。樹木ノ特異形狀。樹木ノ分類、即チ林樹 — 菓樹 — 陰樹 — 裝樹 — 木材ニ適當シタル樹木等。〔土着植物〕〔外來植物〕ト云フ名目ヲ開示シ、應用ス。

動物ノ課業 — 動物ノ食物。食物ノ種類、及ヒ之ヲ得ルノ路ハ如何。種々相異ナル氣候ニ於テ最モ盛多ナル食物。動物ノ氣候及ヒ食物ニ適應スルヲ。

地誌 — 〔州〕其境界、表面、丘、山、川、湖、氣候、產物、動物。生徒ヲシテ一定ノ配法ニ從テ塗板及ヒ紙片ノ上ニ〔州〕ノ輪廓ヲ畫セシム。種々相異ナル境界ノ長短、及ヒ種々ノ方向ニ於テ〔州〕ヲ橫斷シテ一ノ點ヨリ他ノ點ニ達スル距離ニ關スル演習。生徒ヲシテ天然ノ區分即チ山川等ヲ依ル區分即チ山川等ヲイテ悉ク書入レシモ。地圖既ニ成就スレバ之ニ就テ問題ヲ發シテ攻究ヲ盡サシム。凡ソ地誌ニ關スル課業ニシテ有効ナルハ、製圖

ノ右ニ出ツル者無シトス。製圖ハ生徒ノ心中ニ確實ナル心像ヲ起シ、此ニ於テ場處ノ相對ノ位地ヲ確定スルヲ他ノ事業ニ因テ得難キモノアリ。初メハ粗荒ナル境界線ヲ畫スルヨリ起テ漸々微細精密ニ進マシム可シ。

### 語 學 科

口說課業 — 諸學科ニ屬スル事目ヲ以テスル口說演習ヲ繼續ス。各生徒ヲシテ每週一回ツ、林叢ニ生スル植物又ハ蟲類ヲ觀察シ名狀セシム。

讀方 — 第四讀本ニ着手ス、生徒ヲシテ歴史又ハ人ノ傳ノ要略ヲ誦讀セシム。教師當日生徒ヲシテ誦讀セシメントスル事項ヲ十分ニ開示シ、或ハ適宜ノ問題ヲ發シテ説明ヲ盡クスベシ。生徒ヲシテ詩編ヲ拔萃シ、教場ニ於テ誦讀セシム。



綴字〇〇 綴字ノ演習ハ首トシテ種々ノ學科ニ關シテ習得セシムル必要ナル新出言詞ノミニ據ル。語尾ノeノ字ニ關スル規則ヲ教ヘテ實地ニ習練セシム。

作文〇〇 毎日一編ツ、定規作文ヲ書寫セシム。職業ノ研究ヲ以テ繕寫作文課業ノ基本ト爲スヲ繼續ス。衣服ノ製造ニ供スル物質。綿布、麻布、毛織、絹布。綿布―種類―培養法―摘取、除種、包裝。苧及ヒ麻―培養法―刈入、被枯、破碎、打麻、梳麻。毛織―產出法及ヒ調製法。絹布―桑、蠶、飼養法、繭、取扱法、卷取法。

筆法〇〇 筆法ヲ以テ特別ノ一課トシテ授ル事ハ此級ニ於テ始ムルテ適當トス。是レヨリ先キ教師往々生徒ノ筆法ノ謬誤ヲ非難、矯正シテ偶然母字ノ形樣及ヒ書方ノ大概ヲ習得セシメタルモノト假定ス。生徒ノ員數少ナキ學校ニ於テハ斯クノ如キ習練ノミニテ十分ナル

ベシ、何トナレバ教師タル者各生徒ノ書法ニ注意シテ、讀下シ易ク、且ツ温雅ナラシメシムルヲ計ルノ餘暇アルベケレバナリ、但シ此二事ノ外ニ書法教育ノ目的ト爲スヘキ所ノ者ハ有ラズ。然リト雖モ、稍、廣大ナル學校ニ於テハ特別ニ筆法ノ一課ヲ設クルノ必要ナリ、而シテ此學期ヨリ第一習字本ニ着手セシムレバ、利益少ナカラズ、爾後第二、第三、以下順チ進テ授ケ、科級ノ進歩ニ準シテ習字ノ演習ヲ漸々高尙ニスベシ。

### 數學科

尺〇〇ノ課業〇〇 尺量ノ稱號ヲ結了ス、即チ「フアーロング」「マイル」「リ」  
「グ」「リ」「グ」ト做ス等ヲ授ケ。生徒ヲシテ自ラ表ヲ製作セシム。加  
數法ヲ以テ算術上ノ演習ノ基本トス。  
算術〇〇 綿長ナル除法ノ特別練習。本然ノ規則ノ温習并ニ其實地應



用。

第二學期即々冬期

自然理學科

生理〇〇〇 消化。消化機、即チ―齒牙―門齒―凸頭齒―臼齒―齒牙ノ攝  
 生―食道―胃臟―反芻動物ノ諸胃臟―胃臟ノ發作―胃臟ニ於テ食  
 物ノ經過スル變化。肉食動物ヲ其齒牙ニ依テ分類ス、即チ―破碎ス  
 ル齒牙ヲ供ヘタル破齒類―搥碎スル齒牙ヲ備ヘタル臼齒類―齧咬  
 スル齒牙ヲ備ヘタル齧齒類―齒牙ヲ備ヘザル無齒類。  
 彩色ノ課業〇〇〇 微色ト雕色トヲ開示シ、其主ナル者ニ名ヲ命シテ近易  
 ノ物体ニ應用ス。  
 地誌〇〇〇 州ヲ繼續ス。郡ノ名稱并ニ位置―人民―職業。主要ナル市

府―其所在―其位置ヲ畫定セシ所以ノ事物―各市府ノ人民ノ主要  
 ナル職業。「州」ノ政治、州政ノ課局―州吏―州縣―「主府」―州獄―州立  
 救濟院―州會議員ノ撰舉―生徒ヲシテ地圖ヲ制作研究セシム

語學科

口〇〇〇 說演習 〇〇〇 諸學科ニ屬スル事目ノ口說ヲ繼續ス。每週一回ツ、生  
 徒ヲシテ其觀察シタル所ニ依テ霜、雪、氷、又ハ其結果ヲ名狀セシム。  
 讀〇〇〇 方 〇〇〇 第四讀本ヲ繼續ス。歴史及ヒ人ノ傳ノ要略ヲ繼續ス。温雅  
 ナル詩篇ノ拔萃ヲ記憶ニ委シテ時々誦吟セシム。  
 綴〇〇〇 字 〇〇〇 新出言詞ノ綴字ヲ繼續ス。實例ニ依テ ie 及ヒ ei ノ用方ニ係  
 ル規則ヲ開示シ、應用ス。  
 作〇〇〇 文 〇〇〇 每日一箇ツ、定規作文ヲ書寫セシム。職業ノ研究ヲ繼續ス。  
 綿及ヒ毛ヲ以テ反物ヲ製造スル職業、即チ―摘取―梳毛―紡績―複



絲—綉—絢—織方—染方—毛織ノ裁方—剪方—仕上<sup>シ</sup>—印花布ノ摺方。  
紙職、磨碎—注水—延<sup>テ</sup>片葉ト作ス事—乾ス事—仕上。

### 數學科

廣<sup>○</sup>袤<sup>○</sup>ノ<sup>○</sup>課<sup>○</sup>業<sup>○</sup> || 方尺ノ稱號ヲ因物的ニ授教シ、實例ヲ舉ケ、應用ヲ示ス。  
方<sup>○</sup> [イ<sup>○</sup>ン<sup>○</sup>チ<sup>○</sup>] 及<sup>○</sup> ヒ<sup>○</sup> 方<sup>○</sup> [フ<sup>○</sup>ィ<sup>○</sup>ト<sup>○</sup>] ヲ表示スル木片ヲ取用シ、生徒ヲシテ此等ノ  
尺量ノ確然ナル觀念ヲ得シメ<sup>○</sup>フ<sup>○</sup>ト<sup>○</sup> 計ル。二<sup>○</sup>フ<sup>○</sup>ィ<sup>○</sup>ト<sup>○</sup> 角、二<sup>○</sup>イ<sup>○</sup>ン<sup>○</sup>チ<sup>○</sup> 厚  
ノ木板十二枚ヲ備フル<sup>○</sup>ハ、以テ方<sup>○</sup> [フ<sup>○</sup>ィ<sup>○</sup>ト<sup>○</sup>] ヲ表示スルニ便利ナル<sup>○</sup>シ。  
又此<sup>○</sup>ク<sup>○</sup>ノ如キ木板中ノ一枚ヲ取テ十二條ニ分畫シ、各條二<sup>○</sup>イ<sup>○</sup>ン<sup>○</sup>チ<sup>○</sup>  
角、二<sup>○</sup>フ<sup>○</sup>ィ<sup>○</sup>ト<sup>○</sup> [長ナラシメ、又其中ノ一條ヲ取テ十二分セハ、其各一分  
ハ一方<sup>○</sup> [イ<sup>○</sup>ン<sup>○</sup>チ<sup>○</sup>] ヲ爲ス<sup>○</sup>ヘシ。

算<sup>○</sup>術<sup>○</sup> || 偶數—因數法—最大法數—本元律則ニ關スル習練。

### 第三學期即々春期

#### 自然理學科

植<sup>○</sup>物<sup>○</sup>ノ<sup>○</sup>課<sup>○</sup>業<sup>○</sup> || 食用ニ供スル植物ノ部分、即チ—根—莖—葉—花—實  
—髓—汁。此基本ニ據ル尋常植物ノ分類法。食糧ニ供シ、或ハ食物  
ノ調製ニ用<sup>○</sup>ル<sup>○</sup>普<sup>○</sup>通<sup>○</sup>ノ<sup>○</sup>物<sup>○</sup>品<sup>○</sup>、即チ—沙穀米—桃椰米—海苔—米—肉  
桂—肉豆蔻—黃蜀葵—珠芽—芥—胡椒—砂糖草—織樹<sup>西<sup>○</sup>洋<sup>○</sup>諸<sup>○</sup>國<sup>○</sup> 糖<sup>○</sup> ナ<sup>○</sup>ル<sup>○</sup> 物<sup>○</sup> ア<sup>○</sup>リ</sup>  
—大根等。

生<sup>○</sup>理<sup>○</sup> || 血液、即チ—成分—製産—循環。心臟—動派—靜派—毛細管。  
毛細管ニ於テ血液ノ經過スル變化。

地<sup>○</sup>誌<sup>○</sup> || [州]ノ課業一般ノ温習。近隣諸州ノ要略、大小及ヒ相對ノ位置。  
合衆國諸州ノ名稱并ニ聯合<sup>聯<sup>○</sup>合<sup>○</sup>ト<sup>○</sup>ハ<sup>○</sup>北<sup>○</sup>方<sup>○</sup> 諸<sup>○</sup>州<sup>○</sup> 等<sup>○</sup>ノ<sup>○</sup>分<sup>○</sup>別<sup>○</sup>ヲ<sup>○</sup>云<sup>○</sup>東<sup>○</sup>產<sup>○</sup>物<sup>○</sup>ヲ<sup>○</sup>異<sup>○</sup>ニ<sup>○</sup>ス<sup>○</sup>ル<sup>○</sup>五</sup>  
地邦、即チ—草地方—麥地方—穀及ヒ煙草地方—米及ヒ綿地方—砂



糖地方。地球ノ全体ニ關スル事物、即チ一形狀及ヒ大小一水陸ノ分別。大陸及ヒ陸ノ大區分、其類似點及ヒ差違點。大洋、其區分及ヒ分支。教育此點ニ達スルヲ期シテ地球儀ヲ提出シ、各課業ニ關シテ之ヲ使用スベシ。

語學科

口說演習 || 語學科ニ屬スル事目ノ口說ヲ繼續ス。生徒各名ヲシテ每週一回ツ、植物ノ成長ニ關シテ試驗ヲ施シ其得ル所ノ事實ヲ報告セシム。

讀方 || 第四讀本ヲ繼續ス。新聞紙ヨリ當日ノ新聞ヲ誦讀セシム。生徒ニ教ヘテ教場ニ於テ誦讀スルタメ教師ノ指命スル事項ニ關スル論說ヲ搜索セシム。

綴字 || 新出言詞ヲ綴ラシムルヲ綴讀ス。shノ音ニ關スル習慣ヲ

教ヘ之ヲ表示スルタメ用井ル母字ノ如何及ヒ其是レ又ハ彼レヲ用井ル場合ノ差同。

作文 || 毎日一編ツ、定規作文ヲ演習セシム。職業ノ研究ヲ繼續ス。既ニ注目シタル物産ヲ變シテ特殊ノ物産ト爲ス。毛布職、衣服一「フランクット」一毛氈等。綿布及ヒ麻布、卓掛ノ麻布一寢臺用ノ麻布一窓掛等。革物類、本靴及ヒ半靴一馬具一皮櫃一皮帶一鞭韃一皮衣等。紙類、書翰一印刷紙一包袱紙一圖引紙等。自餘ノ物産、糸類一組絲類一繩類一蓆類一毛皮類一帽子類。

數學科

形狀及ヒ尺量ノ課業 || 當學年中ニ履踐セシ事業ノ總体ノ温習。算術 || 最小等數。既ニ授教セシ規則ノ總体ノ温習及ヒ練習。



第六級

第一學期即チ秋期

自然理學科

植物ノ課業〇〇〇〇 食物ヨリ外ノ用ニ供スル植物。木材類、樫—松—胡桃—櫻—栗—「ヘムロック」—「榿」—杉—花利木—「マホガニー」等。織素類、棉—苧—麻—「馬尼羅」—「シユト」。藥材類、「シノコナ」—「大黃」—「龍舌草」等。染草類、藍—茜草—蘇木—黃顏料草—「臙脂綿」等。嗜好物類、茶、咖啡—加々亞—「馬提」。魔醉藥類、煙草—「芽芹」—「ハシーシ」等。器具用品類、竹—椰子ノ葉—草類—掃木々々—山芹華「セルイ」—省藤—「キルク」—「柳」—象牙木等。裝飾物類、陰隱草類—形樣艶美ナル草木又ハ美麗ナル花若

シクハ葉チ有スル草木。

生理〇〇〇〇 呼吸機關、即チ氣管—氣管肢—肺臟。空氣ト生活トノ關係。

新鮮空氣ノ緊要。穢汚ノ根原。動物ノ氣息—呼吸—燃燒—不流池

沼—腐敗セル動物質—腐敗セル食物。魚類及ヒ其他ノ下等動物ノ

呼吸。

勢力ノ課業〇〇〇〇 大氣、即チ風—風力—微風—大風—颶風—暴風—龍上

水—砂嵐—風車—帆舞船。引力、即チ壓躰ノ方向—鉛垂—重量—物

體ノ重量ノ比較—固形体ノ重量—流動體ノ重量—瓦斯體ノ重量—

水平面—流液平面—種々輕重チ異ニスル流液ノ位置。

地誌〇〇〇〇 南亞米利加略圖チ製ス—位置—形狀—邊境—山脈—高原—

原野—川河—氣候—產物—礦物—動物

語學科



口說演習 || 諸科ニ屬スル事目ノ口說ヲ繼續ス。每週一回ツ、一課ノ授業ニ屬スル種々ノ課業ヲ結合シ連續セル演舌ノ体裁ヲ以テ之ヲ授ク。

讀方 || 第四讀本ノ續キ。例ヘバニヤガラ瀑、マンモス洞、ヨセマイト

溪、エルローストンノ熱泉等ノ如キ天然ノ景色ヲ撰ビ生徒ヲシテ其

紀事ヲ教場ニ於テ朗讀セシムベシ。

綴字 || 新書言詞ノ綴方ヲ繼續ス。aノ長音ヲ表現スル爲メ用井ル

種々ノ母字及ヒ母字ノ結合ニ注意セシムベシ。

作文 || 毎日一編ツ、定規作文ヲ書寫セシム。職業ノ研究ヲ繼續ス。

家屋建築。材料、即チ木材―板類―石―瓦。材料ノ調製、即チ斷去―

剥皮―鋸截―筏法―切石―製瓦。作用―大工職、左官職、積瓦職等。

### 數學科

廣袤ノ課業 || 佛國メートル統系ノ線尺。稱号及ヒ之ト通例用井ル  
尺量ノ稱号トノ比較。  
算術 || 分數。本然ノ原理ヲ因物的ニ教示ス。分數ノ種類。甲種ノ  
分數ヲ乙種ニ化スル法。除法ノ關係ヨリ起ル規則。

### 第二學期即チ冬期

#### 博物學科

生理 || 動物ノ体温―如何シテ發生スルヤ―如何シテ保存スルヤ―  
体温ヲ生スル食物―動物ハ如何シテ寒氣ヲ防禦スルヤ。動物ノ食  
物及ヒ氣候ニ對スル關係。人工ヲ以テ暑氣及ヒ寒氣ヲ防禦スル法。  
衣服ヲシテ氣候ニ適應セシムルコト、氣候異ナルニ依テ着用スル衣  
服異ナルコト―衣服ノ種々ノ異類ノ用法―材料―染色。溫度ノ急變



—急變ノ結果。溫度ニ關スル衛生理法。  
彩光ノ課業。—彩光ノ限定比例。太陽七光。對色。彩光ノ調和。彩光課業全体ノ復習。

勢力ノ課業。—溫熱ノ空氣ニ及ホス結果、溫氣ト冷氣トノ重量ノ比較—大氣平稱ノ錯動—大氣ノ循環—風陣—烟筒—烟—通氣。瓦斯ノ重量—浮泡—輕氣球—瓦斯ノ散布。

地誌。—南亞米利加ヲ繼續ス。諸國—人民—人種—奇異ノ風俗及ヒ習慣—人智—工業—國々ノ輸出—政府—宗教—人民ノ社會ノ有様—美術及ヒ内地修良ノ事業。市府—大小ノ比較—位置如何—何ニ因テ各市府ノ位置ヲ畫定セシヤ—何ヲ以テ有名ナリヤ。

語學科

口說演習。—事目ヲ分テスル復誦ヲ繼續ス。復誦ヲ結合シテ辨論ノ

体裁ヲ爲サシムル演習ヲ每週一回ツ、繼續ス。時々詩篇及ヒ文章ノ復誦ヲ以テ口說ノ演習ヲ參差スルモ可ナリ、但シ其詩文ハ生徒ヲ喜ハシムルニ足ルモノナラソコヲ要ス。

讀方。—第四讀本ヲ繼續ス。生徒ヲシテ人類ノ奇異ナル住居若シクハ異常ナル器具ノ紀事ヲ選擇シテ教場ニ於テ朗讀セシム。

綴字。—新奇ナル言詞ノ綴方ヲ繼續ス。e 及ヒ i、長音ヲ表示スル種々ノ字母及ヒ結合ニ注意ス。

作文。—每日一篇ツ、定規作文ヲ書寫セシム。職業ヲ繼續ス。木細工業—指物職—橋大工職—家根板職—籠職等。石工業、建築用ノ石—道路ノ傍ニ敷ク石—石碑—學校用及ヒ屋根葺用ノ石盤—石筆。家具—石灰—漆灰—壁土—鹽。

數學科



植物物錄式

種	類	本基ノ類分
	木木 喬灌草	質性ノ莖
	木木 盤葉 常落	存保ノ葉
	類類 着來 土外	土 國
	類類 長長 外内	法ノ長生
	類類 花花 有無	無有ノ花

尺○量○ノ○課○業○  
 〔メートル〕統系ヲ繼續ス。量器。〔メートル〕統系ノ稱号  
 ト通例用ル尺度トノ比較。  
 算術<sup>○</sup> 分數ヲ繼續ス。化數法ノ習練。心算分解ニ依テ設定シタル  
 方法及ヒ規則。分數ノ加法及ヒ減法。

第三學期即チ春期

自然理學科

植物ノ課業<sup>○</sup> 花ノ有無ニ關シテ植物ヲ稽查ス。有花植物及ヒ無花  
 植物ナル名目ヲ提出シ應用ス。左ノ如キ書式ニ順シテ植物ヲ列記  
 ス。



生○理○ || 人工防寒法ヲ繼續ス。住居―採温ノ工夫―洞窟及ヒ地下房  
室―得失。家屋ヲ温ムル法―庫龔―煖爐―温氣―蒸氣―通氣―衛  
生理法。

勢○力○ノ○課○業○ || 水力―水流レテ水平ニ歸スルノ趨向―流水ノ勢力―  
水車。水ノ壓力―熱ノ水ニ及ホス結果。蒸發―大氣中ニ在ル水ノ  
分量―風ニ因ル濕氣ノ循環―凝結―霧―雲―霞―雨―雪。  
地○誌○ || 北亞米利加洲ノ略圖ヲ製ス―位置―形狀―邊境―山丘―高  
原―平野―川河―湖水―氣候―產物―動物―礦物。

語 學 科

口○說○演○習○ || 事目ヲ分ケテスル復誦ヲ繼續ス。每週一回ツ、復誦ヲ  
結○合○シ○テ○辨○論○ノ○体○裁○ヲ○爲○サ○シ○ム○ル○演○習○ヲ○繼○續○ス○。  
讀○方○ || 第四讀本ヲ結了ス。生徒ヲシテ諸國ノ奇異ナル習慣ノ敘事

ヲ探擇シ教場ニ於テ朗讀セシム。

綴○方○ || 新出言詞ノ綴方ヲ繼續ス。oughノ種々ノ發音ニ注意ス。

作○文○ || 毎日一篇ツ、定規作文ヲ書寫セシム。職業ヲ繼續ス。鐵工。

作○法○ || 採鐵―冶金―鑄鑄―除術―鈍鍛―オルリング。產物、鑄鐵

―鍊鐵―錄鐵―鋼。特種所產鐵ヲ鑄テ煖爐、皿、車輪ト爲ス法―鐵  
ヲ卷テ釜板ニ釜ヲ製シ或ハ自他ノ用ニ供スル者ヲイフ。鐵道線鐵等  
ト爲ス法―鐵ヲ練テ釘、螺、鍵、鑰ト爲ス。

數 學 科

重○量○ノ○課○業○ || メートル系統ヲ繼續ス。重量ノ稱号。[アボデユボア]  
常○統○系○ノ○稱○号○ト○比○較○ス○。メートル系統ノ復習。

算○術○ || 分數ヲ結了ス。乘法及ヒ除法。熟練ノ爲メニスル雜例。



### 小學高等科

一般ノ説明 高等科ニ於テハ授業稍、深ク分解ニ涉リ、且ツ漸ク進  
 デ推理力ノ運用ヲ要スル課目ヲ包括ス。  
 理學科ニ於テハ、第七級ヲ以テ物理學ノ因物科ヲ結了スルモノトス。  
 此科ニ於テ特ニ目的トスル所ハ、原因ノ範圍内ニ於テ討尋推理スルノ  
 機會ヲ生徒ニ與ヘ、又生徒ニ給資スルニ勢力ニ關スル初步ノ知識ヲ以  
 テシテ、進テ他ノ學科ヲ理會スルノ補助トシ、且ツ彼等ヲシテ中學科ニ  
 至ルニ及テ同一ノ學科ヲ一層精密ニ講究スルニ堪エシムルニ在リ。  
 生理學ヲ繼續シ、第八級ヲ以テ之ヲ結了ス。蓋シ此學ヲ故サラ綿密ニ  
 教示セントセズ、只タ動物上ノ課業ニ次テ之ヲ研究セシメ、以テ學生ヲ

シテ動物ノ生活、諸種動物ノ相互關係、人体ノ構造、人體ノ主要ナル部分  
 ノ官能、及ヒ健康ヲ確保センガ爲メ、遵奉スベキ理法ニ關スル一般ノ知  
 識ヲ得シメ、ノヲ計ルモノナリ。此研究ハ將ニ退校シテ實際ノ業務  
 ニ就カントスル者ニ取リテ無比ニ緊要ナリ、且ツ尙ホ在學セントスル  
 者ニ取リテモ進テ稍、廣大ナル専門ノ課業ヲ修メ、ノガ爲メニ甚タ有益  
 ナル準備ト爲レリ。  
 植物學ノ課業ハ各級ノ春期中ニ每週二回ツ、之ヲ授ク、蓋シ春ハ花ヲ  
 採集シテ攻究スル爲メ、最モ便利ナル時候タルヲ以テナリ。斯ク措置  
 スルキハ生徒常ニ植物ニ留心スルノ念ヲ養ヒ、彼等ヲシテ中學科ニ至  
 ルニ及テ高尚ナル課業ヲ取ルニ適當ナラシムルヲ得ヘシ。  
 地誌學ヲ繼續シ結了ス。地誌ノ演習ハ自然及ヒ國政地誌ノ事實並ニ  
 天文地誌ノ事實及ヒ原理ヲ包括スルモノトス。礦物學ノ一端ニ關ス



ル課業ヲ授ケ、學生ヲシテ鑛物界ノ事實ヲ觀察スルノ氣習ヲ得シメ、且ツ後ニ至リ地質學ヲ修ムルノ準備ト爲ス。

語學科ニ於テハ下ノ諸級ニ在テ施行セシ如ク特別ニ口說演習ト稱スル者ヲ置カズ、蓋シ目下研究スル課目ニ關スル誦讀及ビ教場ノ討論ハ以テ此類ノ練習ヲ爲サシムルニ十分ナリトスレバナリ、第七級以後ノ讀方ハ全ク英米ノ有名ナル著作家ノ著者中ヨリ精選シタル文詞ノ抜抄ヨリ成立スルモノトス。此ニ指名スル所ノ諸家ノ如キハ、生徒ヲシテ成ル可ク多岐ニ涉リテ深ク文辭ヲ伺ハシメ、之ヲ導テ文辭ノ種々ノ範圍ニ至ラシメ、ノヲ目的トシテ選擇シタルモノナリ。

此類ノ演習ニ關シテ成功ヲ期セント欲セバ必ス先ツ此等ノ諸家ノ著書ヲ供用スルノ路ヲ開カザルベカラズ。公立學校文庫ノ設アルキハ、往々斯クノ如キ文庫ニ於テ見ル如キ無益無用ノ書籍ニ替ヘテ此等ヲ

得ノ一極ノニ易シ。者シ適當ノ書籍ヲ購求スルノ備無キキハ、生徒各ヲシテ小ナクトモ一卷ツ、ヲ買得セシメ、ノヲ難キニ非ナルベシ、之ニ加フルニ教師ノ自ラ給資スルニ絶ユル所ヲ以テスレバ、所須ノ世數ノ大半ヲ供用スルヲ得ルニ至ルベシ。

生徒ヲシテ下文ニ指名スル著述家中ヨリ教師ノ指揮教諭ニ依テ拔萃ヲ爲サシメ、教場ニ於テ之ヲ朗讀シ討議セシメテ、一般ノ文態ト著者ノ精神トヲ十分ニ理解セシムベシ。稍、下等ニ置クベキ著述家ニ至リテハ、教師ノ隨意ニ、他ノ著述家ヲ以テ之ニ替フルモ不可無シ、然リト雖モ世人ノ許シテ人智ノ率先ト做ス所ノ諸家ニ至リテハ、決シテ忽棄スベキニ非ザルナリ。稍、深ク哲學ニ涉與スル著述家ノ如キハ、姑ク之ヲ省キ、中學校ノ文詞科ノ高尙ナル程度ニ讓リテ其著述ヲ講究セシム。

作文ニ關シテハ第七級及ヒ第八級ニ在テ、尙ホ人類ノ職業ヲ繼續シテ



每週二回ツ、ノ作文課業ノ基本トス。此等ノ論文ノ材料ハ自宅ノ近傍ノ人々ノ職業ヲ觀察シ、或ハ引用書ニ付テ之ヲ搜索セシムベシ。各學校ハ必ズ善良ナル百學節府ヲ一部ツ、備ヘザルベカラズ。第九級ニ至リテハ、目下研究スル學科ノ一般ヲ以テ作文演習ノ料トスルニ十分ナルモノトス。

若シ下ノ諸級ニ於テ此一課業ヲ十分誠忠ニ實行シ、毎日少ナクトモ一章ノ作文ヲ書寫セシムルキハ、生徒其思想ヲ字句ニ表示スルコトニ熟練シテ、作文ナル語ヲ聞クモ敢テ恐怖セザルニ至ラン、且ツ往々諸方ノ學校ニ於テ施行スル如ク、每週若シクハ二週ニ一回ツ、別ニ作文ヲ書寫セシムルノ要モ無カルベシ、又公衆ノ縱覽ニ供フル爲メ故サテ修辭上ノ演習ヲ授クルニ及バス。生徒ヲシテ斯ク日々書寫課業ニ就カシムルキハ、此類ノ勉勵ヲ單ニ公衆參觀ノ時期ノミニ限ルノ場合ニ於テヨ

リモ遙ニ繁多ナル事目ニ涉タラシメ、且ツ思想并ニ修述ニ關シテ遙ニ十分ニ此等ノ事目ヲ講究セシムルコトヲ得ベシ。教師ハ只ダ級生ノ論文中ヨリ其善良ナル者ヲ撰擇スベキノミ、且ツ生徒ヲ催促シテ常ニ十分ノ力ヲ竭サシメント勉ムル事ナレハ、此等ノ作文ハ即チ生徒ノ力量ノ最高點ヲ証示スルモノタルベシ、何ソ必ズシモ公衆ノ參觀ヲ嫉タンヤ。此方策ハ道德上ノ結果ニ於テモ善ク其目的トスヘキ所ニ符合スル者ナリ。何トナレバ、是レ素ヨリ外見ヲ飾ルコトヲ以テ目的トセズ、從テ之ニ因レバ生徒ヲ誘フテ實力ヨリモ寧ロ外貌ヲ主トセシムルニ至ルノ難無ケレバナリ。

全校ノ試験、又ハ公衆ノ參觀ニ供セントスル時ニ臨テハ、口說演習ヲシテ重モニ興深キ事目ニ關スル誦讀ト討論トヲ以テ成立スル者ナラシムベシ。時々此等ニ換フルニ素讀及ヒ雄辨法ヲ以テスルモ可ナリ、蓋



シ世上雄辨法ノ一事ヲ貴重スルコト大ニ當テ越ユルト謂ツベシ。夫レ一切ノ口説課業ニ於テ目的トスル所ハ生徒ヲシテ最モ有効ナル秩序ヲ追テ思想ヲ修述シ、且ツ辯説シ、或ハ辯説ノ爲メ起立シナガラ題目ニ就キ思維スルハ能力及ヒ精工ヲ得シムルニ在リ。此精工ハ一定ノ事目ニ關スル所ヲ明晰ニシテ首尾連結セル辯論ノ体裁ヲ以テ復誦スルノ熟練ヨリ來ルノ外無キ者トス、而シテ雄辯法、即チ他人ノ述ヘ置キタル所ヲ其マ、口演スルノ法ハ、此業ニ於テ益スル所極メテ少ナシ。サリトテ英米ノ最モ優等ナル著述家等ガ最モ佳美ナル体裁ヲ以テ開示シ置キタル最モ高尚ナル思想ヲ以テ記憶ニ委シ、或ハ誦讀スルノ業モ、亦自ラ一種ノ價格無キニ非ズ決シテ忽棄スベキニ非ザルナリ。

第九級ニ於テハ英文典ヲ特別ノ課業トシテ授クルコトニ着手シ、且ツ結了ス。生徒ヲシテ既ニ數年ノ間絶エズ言語ノ用法ニ熟練セシノタル

コトナレバ、文法ヲ研究セシムルニ用弁ル時期甚ダ多カラズト雜モ、又以此形式上ノ研究ヲ結了スルニ足レリトス。此科ノ各級ニ於テハ正式綴字法ヲ省ケリ、蓋シ新出ノ言詞ヲ習得スルト、日々ノ書寫演習トハ以テ此類ノ練習ヲ十分ニスルノ料タルニ足レバナリ。英語綴字法ニ關スル些少ノ規則ヲ漸次提出シ且ツ種種ノ根元ノ音便ヲ現ハスニ用弁ル字母及ヒ字母ノ結合ニ注意セシムベシ。

畫學ハ高等科ノ始ヨリ終リニ至ルマデ繼續シ、自然及ビ假作ノ形樣ヲ結合シテ原造ノ圖案ト爲ス演習ノ漸々高尚ナル者ヲ授クベシ、又藝術上ノ標識ヲ得ルノ關鍵ト爲ルヘキ圖案ノ模寫及ヒ直チニ實物ヲ臨模スルノ課業ヲ授ク。第九級ニ於テハ遠近經營法ノ原理ヲ因物的ニ提出シ應用スベシ。

唱歌ノ演習モ此科ノ全期ニ涉リテ毎日繼續スベシ。毎月少ナクトモ



二個ノ新音調ヲ學習セシム、而シテ生徒高等科ヲ卒ヘテ中學校ニ入ルニ及デハ既ニ如何ナル音樂ニテモ簡單ナル者ハ容易ニ之ヲ目讀スルヲ得ルニ至ラシムベシ。

日々体操學ノ自在演習ヲ繼續シ、例ヘバ球竿、輕棍棒、木環、木製啞鈴、及ヒ穀物ヲ充テタル小囊ノ如キ輕便ナル機械ヲ漸次提出スベシ。此練習ニ於テ目的トスル諸點ハ、健康ヲ促進シ、筋骨ヲ鍛練シテ精密且ツ準度ニ稱ヘル運動ニ絶エシメ、身体ノ均稱ヲ保持シ、從容ニシテ彈力アル運動ヲ修練スルニ在リ。下ノ諸級ニ於テノ如ク、時宜ヲ計リテ、体操ニ從事セシムルノ時ヲ以テ一時間ニ少ナクトモ一回ツ、教場ノ通氣ヲ十分ニスベシ。

### 第七級

#### 第一學期即チ秋期

##### 理學科

勢力ノ課業 || 粘着性 | 凝聚性 | 凝聚力ノ度 | 實例 | 毛細管引力 | 其性質及ヒ結果。運動 | 惰性 | 運動ノ原因 | 運動ノ結果 | 運動ノ方向 | 單一勢力ニ因ル運動ノ方向 | 數箇勢力ニ因ル運動ノ方向 | 複動合力運動 | 運動ノ急突障止ノ結果 | 摩擦力 | 圓道運動。離中力及ヒ求中力。

鐵物ノ課業 || 當學期中每週二回ツ、金屬及ヒ其形象並ニ資質ノ課業ヲ授ク。鐵、銅、亞鉛、臬客爾、金及ヒ銀ヲ稽查シ、且ツ性質ヲ比較ス。



水銀及ヒ安質<sup>シロメ</sup>母尼ヲ同様ニ稽查ス。  
 地誌<sup>トシチセニ</sup>——北亞米利加洲ヲ結了ス。—國政上ノ區分—政府—人民—由來—人種—性質—人智—工業—住居—食物—衣服—人民ノ氣候及ヒ其他ノ自然ノ事情ニ適應スルノ有様。市府—位置如何—其現ニ位スル所ニ在ルノ理由如何—自然ノ利益—人工ノ資助—大小ノ比較—主要ナル工業。

語學科

讀方<sup>○</sup>——第五讀本ニ着手ス。文辭學ノ講究ニ入ルノ引指ト成ルベキ演習ニ着手ス。シヤコヅ、アボット、デイックケンス、ブライヤント及ヒロングフエルロウノ拔萃ヲ教場ニ於テ朗讀ス。此等ノ文詞家ノ著書中ヨリ生徒ヲシテ其文態及ヒ精神ノ大概ヲ伺ハシムルニ足ル拔萃ヲ朗讀セシム。諸家ノ略傳ヲ教示シテ、各家ノ著述中ノ著明ナル

者ヲ列記ス。

作文<sup>○</sup>——人類ノ職業ノ研究ヲ繼續シ、之ヲ以テ作文課業ノ基本トス。玻璃及ヒ陶器製造—陶器ノ異類—用井ル所ノ材料—製法—玻璃器—板玻璃—玻璃鏡。練瓦—洋針<sup>トメバウ</sup>—縫針—時計ノ製造。印刷—活字植付—摺立。其他或ハ近隣ニ在リ、或ハ其紀事ヲ得ルヲ易キ類ノ製造事業。一週中ノ他ノ三日ノ作文ハ當時研究スル所ノ理學及ヒ文辭學ニ關スル者タル可シ。

數學科

算術<sup>○</sup>——小數ニ着手シテ之ヲ結了ス。小數ノ命辭ハ通常ノ記數法ヲ小數點ノ右ニ演ヘタル者ナルヲ証明ス。小數ノ運算。小數ニ合衆國通質及ヒメートル統系ノ尺量并ニ重量ニ應用ス。



第二學期即々冬期

理學科

勢カノ課業——温熱—温熱傳達ノ法—射出—導達—温熱ノ物体即チ固形体、流動体、及ヒ瓦斯体ニ及ボス結果—温熱ノ導體—不導體—温熱ヲ水ニ應用スル—蒸發—蒸發氣—蒸氣—熱沸。寒冷—寒冷ノ防禦—氷—氷結ノ結果—雪—氣候及ヒ植物ノ上ニ及ボス結果。

礦物ノ課業——每週二回ツ、普通ノ礦物ニ關スル課業ヲ授ク、青石—灰石—沙石—盤石。學校ノ近傍ニ在ル石屬ノ主要ナル者ヲ稽查シ比較ス。生徒ヲシテ種々ノ石屬ノ大概ヲ辨知セシムルニ十分ナル注意ヲ此課業ニ施スベシ。

地誌——歐羅巴洲—略圖ヲ製ス—位置—形狀—邊境—高底—山丘—高原—平野—一般ノ斜面—水流—川河—湖水—氣候—產物—動物

—礦物—諸ノ邦國ノ位置—國々ノ表面、氣候及ヒ產物ノ比較。

語學科

讀方——第五讀本ヲ繼續ス。文辭學ノ演習ヲ繼續ス。ウイッチェル、ロウエル、ルイサ、アルコット及ヒアルビングノ拔萃ヲ朗讀ス。但シ此等ノ拔萃ヲシテ生徒ノ容易ニ理解スルニ絶ユヘク、且ツ歡喜ノ情ヲ起スニ適シタル者ヲラシム可シ。此等ノ文章家ノ略傳及ヒ其著述ノ目錄ヲ編成ス。

作文——人類ノ職業ヲ繼續ス。所謂貿易、即チ賣買。學校ノ近傍ヨリ賣リ出タス物品。農家ノ販賣スル物品—誰ニ販賣スルヤ—如何ニ運漕スルヤ。職業ニ從事スル者ノ名稱—荷賣商—店賣商—大商買。物貨運搬ノ法—人ノ脊ニテスル運搬—馬—牛—百露駱駝—駱駝—象等ニ積テスル運搬—荷車—鐵道車—運河船ニ積テスル運搬—湖



水、河流及ヒ海洋ノ帆舞船並ニ蒸氣船ニ積テスル運搬。巨大ナル通商即チ所謂交易。

數學科

算術〇〇 記号數料ヲ重量、尺量、等ノ稱號ニ着手ス。前ニ因物的ニ教示セシ重量、尺量及ヒ價格ノ表ヲ製シテ之ヲ復習シ且ツ數衍ス。上昇化數法及ヒ下降化數法。化數法ニ關係スル心意作用ヲ明晰ニ表示シ、之ニ順シテ解釋ヲ爲ス。此等ノ作用ヨリ出ツル規則。

第三學期即チ春期

理學科

勢カノ課業〇〇 引カ—引カノ中心—平稱—靜定ノ理法—大氣ノ重量—唧筒—晴雨計—間歌泉—噴出泉—掘鑿井。空氣ノ壓力—海洋平

面ノ氣壓—山峯ノ絶頂ノ氣壓—深遠礦穴ニ於テノ氣壓。雷光電鳴—越歷—如何シテ發生スルヤ—如何シテ導達スルヤ。

礦物ノ課業〇〇 每週二回ツ、礦物ノ課業ヲ授ク。學校ノ近傍ノ石屬及ヒ地壘。小石砂粘土—由テ出ツル所ノ如何—地層—如何シテ生

セシモノナリ。

植物學〇〇 每週一回ツ、植物上ノ課業ヲ授ク。冬月ニ際シ芽萌チ庇

護スル方如何。春ニ於テノ木汗ノ流行。芽萌ノ漸次ニ開展シテ完全ナル葉及ヒ花ト成ルコトニ關スル觀察。

地誌〇〇 歐羅巴洲ヲ結了ス—國政上ノ區分—政府—人民—由來—人種—性質—風俗—人智—工業—相異ナル國民ノ比較—人民ノ住居、食物、衣服—氣候及ヒ自然ノ形勢ニ適應スル事—國々ノ輸出品。市府—位置如何—天然ノ利益—人工ノ資助—相對ノ大小—主要ナル



特質—工業。

語學科

讀方〇〇 第五讀本ニ着手ス。文辭學上ノ演習ヲ繼續ス。ハルレツク、  
ツロウブリツヂ、ウヰリス、ベヤード、テイロルノ拔萃ヲ誦讀ス。此諸  
家ノ略傳ヲ示シ、其主要ナル著述ノ目錄ヲ製ス。文章家ヲ分類シテ  
詩人、小説家、及ヒ歴史家ト爲ス。

作〇〇 人類ノ職業ヲ繼續ス。交易—亞米利加ノ主要ナル諸港—輸  
出品—其種類—何レノ國ニ輸出スルヤ。主要ナル輸入品—何レノ  
國ヨリ輸入スルヤ—茶—伽俳—砂糖—香物—椰子—燕脂蟲紅—蘇  
木—マホガニー—紅木—梟橙—檸檬—芭蕉菓—乾葡萄—無花菓—  
大棗—馬尼羅—米—及物類—毛織類—玻璃器—陶器—苧布—麻織  
類—精製木綿—時計—小緣—象牙—黑檀—皮類—柔革—陶器類等。

右ノ外ノ作文ハ歐羅巴洲ノ地誌、目下研究スル礦物、及ヒ當時修讀ス  
ル著者ノ文詞ニ關係スル者ナルベシ。僅々數課ノ事目ノミニ專ラ  
注意ヲ向ケ、諸科ノ課業ヲシテ一點ニ歸着スルノ趣アラシムルトキ  
ハ、進歩ノ速ナルコト一時ニ數多ノ學科ニ注意ヲ散スルノ場合ニ十倍  
スベシ。

數學科

算術〇〇 記號數量ヲ結了ス。加法、減法、乘法、除法。單純數量並ニ記號  
數量ノ運算ヲ包括スル一般ノ規則ヲ設定ス。

第八級



第一學期即チ秋期

理學科

生理學〇〇 骨即チ成分―構造―職分―種々ノ骨ノ稽查―其形狀―其効用ニ適應セルヲ―突起―關節。韌帶即チ構造―効用。筋骨即チ構造―効用―接着―筋骨ノ諸種。筋骨及ヒ骨骼ノ運用ニ關スル重學上ノ原理。手及ヒ足ノ特別研究。種々ノ動物ノ前肢及ヒ後肢ノ極端ノ解剖及ヒ生理上ノ比較。

植物學〇〇 一週間ニ一回ツ、菓實及ヒ種子ノ課業ヲ授ク。種子ノ彙類―如何ニ保護セラル、カ。如何ニ配布セラル、カ。萌發ニ必要ナル部分。傳播ノ他ノ諸方。

地誌〇〇 亞細亞ヲ結了ス、略圖ヲ製ス―位置―形樣―邊境―高低―山丘―高原―平野―水流―川河―湖水―氣候―產物―動物―金屬

―政治上ノ區分。諸國ノ輸出品―人民―人種―性質―風俗―人智。市府―位置如何―相對ノ大小―位置ノ利益―何ヲ以テ著明ナルカ―古代ノ都會。

語學科

讀方〇〇 教師及ヒ生徒ノ撰擇ニ係ル文詞ノミヲ誦讀ノ資トスベシ。

ヘレン、ハント(エチ、エチ)、トーマス、ヒュース(トム、ブラチン) 名戲 チイ、グチヤナン、リイド及ヒロスブラチンノ著述ノ拔萃ヲ誦讀セシム。畧傳ヲ綴リ、主要ナル著書ノ目錄ヲ作ル。

作文〇〇 人類ノ職業ヲ繼續ス。獵狩―即チ狩獵スル動物ノ種類―食物ニ供ス可キ者―皮ヲ採ル可キ者―骨ヲ用ル可キ者等―人ヲ害スル者―狩獵ニ用ル武器、棒、鎗、弓、矢、及ヒ鎊砲―狩獵ニ用ル動物、犬、豹、猿、獺、鷹等―獅子獵―虎獵、象獵等。陷阱―陷阱ノ種類―陷阱







作文〇——捕魚及ヒ魚獵——捕魚ノ方法、釣針、大網、係蹄、——通例捕擒スル魚ノ種類——遊戲ノ爲メニスル捕魚——魚ヲ得ンガ爲メニスル捕魚。多口魚ノ獵——鯖獵——メノハデン獵——鯨獵——鯨ノ種類——如何シテ捕擒スルカ——用ニ供スベキ鯨ノ部分——魚油ノ爲メニ捕擒スル他ノ魚類。此事目ノ一般、及ヒ之ニ類スル他ノ事目ニ關シテ最モ貴重スベキ知識ハ雜誌類ニ就テ得ルニ如カズ。平日斯ル事目ニ關スル雜報ヲ得ル毎ニ之ヲ保存シ置キテ、須要ニ備フベシ。生徒モ此類ノ事目ヲ喜フニ至ルヒハ、實際上ノ知識ヲ得ントシテ自ラ活眼ヲ開テ雜報ヲ索探スルナルベシ、然ルトキハ自然ニ何ニ依ラズ目ニ觸ル、所ノ事ヲ修讀シ稽查スルノ習慣ヲ生スベシ。此學期中ノ他ノ作文ハ題ヲ生理學及ヒ文辭學ニ採ルベシ。

數學科

算術〇——利息。四元素、即チ母金、歩合、百分算、期月。期日ノ利息ニ對スル關係。單利法、年利法、重利法。手形ノ利息。攤拂。合衆國ノ法庭規則。

第三學期即チ春期

理學科

生理學〇——皮膚、其構造、及ヒ官能。汲收及ヒ排泄。神經統系、——腦髓——構造——背髓——一般ノ神經——發動神經——受感神經——各神經ノ作用。特殊感覺ノ神經——觸覺——味覺——嗅覺——聽覺——視覺。神經ノ衛生法——勞動——休息——睡眠——保養ノ必須。生理學ノ復習。殖物學〇——花ノ構造及ヒ部分ニ關スル課業ヲ一週間ニ二回ツ、授ク。地誌〇——合衆國ノ特別研究。諸州ノ局部、一州ノ聯合。相異ナル諸區



分ノ特ニ善ク相異ナル工業ニ適當スル事。主要ナル市府ノ位置。其斯ル位置ヲ占ムル理由如何—各市府ノ天成及ヒ人造ノ利益。天然ノ街道。諸區分ノ間ノ旅行ノ順路。想像ニテ旅行ヲ爲ス。

### 語學科

讀方—文詞學上ノ演習ヲ繼續ス。パンクロフト、プレスコット及ヒブレットバートノ著述ノ拔萃。零傳及ヒ著述ノ目錄ヲ作ル。論說スル所ノ事目ノ種類ニ從テ著述家ヲ分類ス。同一部門ニ屬スル諸家ヲ比較ス。例—バ詩人部ニ屬スルブライアント、トロングフェル、ロートヲ比較スルノ類ナリ。

作文—人類ノ職業ヲ繼續ス。特種ノ職業—即チ銀行取引—鐵道列車ノ管理—測量—土木工學。専門職、即チ說法師—醫師—法師—教師—成效ヲ期スルニ必要ナル準備。

此學期ノ中ノ他ノ作文ハ生理學、植物學及ヒ文詞學ヲ題トスベシ。

### 數學科

算術—百分算ヲ種々ノ商業上ノ作用ニ應用ス—銀行取引—割引取引—仲買取引—株式取引—兩替取引—仕拂ノ平均等。

## 第九級

### 第一學期即チ秋期

#### 理學及ヒ哲學科

自然誌—現今發動スル勢力ニシテ、地球ノ表面ニ變化ヲ生スル者ノ憶度—水ノ流行ニ因テ岩石ヲ破碎シ、土砂ヲ集堆スル—海洋ノ波濤ニ依テ岩石ヲ洞鑿シ、片碎ヲ整圓シ、土砂及ヒ小石ノ提防ヲ築ク



一 | 海洋ノ流通 | 風ニ依テ土砂ヲ吹キ送ル | 霜ニ依テ岩石ヲ破  
 碎スル | 氷原ニ依テ岩石ヲ轉置スル | 火山及ヒ地震ニ依テ激  
 烈ナル噴出及ヒ突起ヲ生スル | 突起及ヒ低落ノ遅々タル動移 |  
 植物ニ依テ表面ノ性質ヲ變スル | 動物ニ依テ珊瑚島ヲ生スル |  
 | 及ヒ其他之ニ類スル |  
 世界ノ山丘ノ諸大脈及ヒ其斜腹ニ依テ大陸ヲ構成スル | 大陸ノ  
 輪廓及ヒ高低。水流及ヒ川河ノ諸脈。  
 歴史 | 合衆國ノ歴史。土民時代ノ亞米利加。築丘人種、アゼテック  
 人種、インデヤン人種、風俗、習慣、職業、政府等。西班牙人、英吉利人、佛蘭  
 西人及ヒ和蘭人ノ爲セシ發見。通商上ノ遠征。職業 | 西班牙人 |  
 佛蘭西人 | 英吉利人 | 和蘭陀人 | 瑞典人 | 噠馬人。種々ノ居留人  
 ノ意志。居留地政府。インデヤン人トノ戰爭。内亂。革命時代ニ

至ルマテノ工業、人智、及ヒ技術ノ一般ノ進歩。

語學科

讀方 | 詞學上ノ演習ヲ繼續ス。ウオルタル、スコット、ゼ、ジイ、サツク  
 ス、モトレイ、及ヒホウソルンノ拔萃ノ誦讀。略傳及ヒ著述ノ目錄ヲ  
 造ル。

作文 | 當學期中ノ課業ニ關係スル事目ヲ題トシテ日々作文ヲ書寫  
 セシム。左ニ舉グル如キ疑問ニ注意セシムルヲ善シトス、然ルキハ  
 自ラ講習スル課業ニ對シテ歎喜ノ情ヲ發スル | 一層深カ、ルベシ。  
 ノルウエー國ノ西岸ヲ名狀シ、其構造ノ奇異ナルノ理由ヲ述ヘヨ。  
 佛蘭西國ノ砂堤ヲ名狀セヨ。海濱ニ打テ立ツ小丘アル、プス山ノメル  
 デ、グラーニス湖ヲ名狀セヨ。陸地ノ高低ニ漸次變動アルノ証據如何。  
 珊瑚島ヲ名狀シ、其構成ノ次第ナリト臆測スル所ヲ述ヘヨ。



西班牙人ノ侵入ニ際シテノ墨西哥府ノ景情ヲ叙紀セヨ。土着ノイ  
ンデヤン人ノ生活ノ情態ヲ述ヘヨ。シヨン、スミスノ略傳ヲ記セヨ。  
〔清淨教徒〕ノ最初マサチユセツトニ殖民セシ後數年間ノ日々ノ生活  
ノ情態ヲ述ヘヨ。バンクロフト氏及ヒロングフエルロー氏ノ叙事  
ニ見エタルアケデイマン人ノ情態ヲ略記セヨ。イロコハ人ノ〔聯邦〕  
即チ之ヲ組成セル諸國民及ヒ其政体宗教等ヲ叙紀セヨ。  
右ノ如キ問題ハ素ヨリ其數ニ限アルヲ無シ、既ニ枚舉スル所ハ、以テ  
此ニ主張スル事業ノ性質ヲ知ルニ足ルヘシ。要點ハ日々文章ヲ作  
ラシメ、傍ラ生徒ヲシテ自ラ搜索討尋スルノ氣習ヲ獲得セシムルニ  
在リ。

文法〇〇 思想ヲ以テ基本トスル言語ノ分解。節。節ノ元素。本元元  
素即チ主位及ヒ賓位―倍貳元素、即チ目的格元素、形樣格元素、複詞格

原素。節ノ解剖、構造ノ理法。此等ノ理法ニ依據スル構造ノ習練。

### 數學科

算術〇〇 比例―單比例及ヒ重比例。比例ノ作用及ヒ結果ヲ分解ノ作  
用及ヒ結果ト比較ス。

### 第二學期即チ冬期

#### 理學及ヒ哲學科

自然地誌〇〇 大洋即チ大小―波濤―潮汐―流通。大氣、即チ氣候―風  
―熱帶常風―風靜ノ帶―風變ノ帶―モンズウン時風熱サイムウン熱風熱シ  
ロツコ風。大氣ノ潤濕、即チ本源―散布―凝結―無雨地方。植物生  
育、即チ諸帶及ヒ大陸ノ植物錄―配布ノ理法。動物生育、即チ諸帶及  
ヒ大陸ノ動物錄―配布ノ理法。氣候及ヒ產物ニ對スル係屬ノ次第



人種一般ノ配布。人類ノ有形造化氣候地形產物ニ對スル關係。  
歷史——合衆國ノ歴史ヲ繼續ス——革命、即チ其原因、事變、結果——合衆國  
政府ノ結構——憲法——政黨、即チ其根元及ヒ變遷——行政部——新屬地ノ  
領取——諸新州ノ行政部——外國國民トノ紛議及ヒ戰爭——內國ノ政治  
上ノ疑問、紛議——內亂、即チ其根源、經過、結果。

語學科

讀方——文詞學上ノ演習ヲ繼續ス。エドガトル、アレレ、ポー、ゼ、ケイ、ポ  
ール、ゼン、グ、ウ、イン、プル、及ヒ、カー、チ、ス、ノ、拔、萃、ヲ、誦、讀、シ、略、傳、并ニ、著、書  
ノ、目、録、ヲ、製、ス。

作文——當學期ノ諸學科ニ關係スル事目ヲ題トシテ日々作文ヲ書寫  
セシム。例件。暴風、砂漠、及ヒ龍上水チ名狀シ、其相關係スル  
次第ヲ示セ。アマゾン川邊地方ノ植物錄ヲ叙紀セヨ。澳大利亞ノ

動物類ヲ叙事セヨ。ベンジャミン、フランク、リンノ略傳——トーマス  
ゼツフェルソンノ略傳——パトリック、ヘンリーノ略傳ヲ示セ。バルゴ  
インノ遠征ヲ叙紀セヨ。グライインノ南邦ノ役ヲ叙紀セヨ。殖民地  
及ヒ大陸ノ會議并ニ其結果ヲ叙事セヨ。獨立宣告ノ舉ヲ細述セヨ。  
合衆國憲法編成ノ次第ヲ細述セヨ。  
文法——「エテモロデー」詞類——詞類——變詞法——節體學——節ノ構造——一  
般ノ習慣ニ基ツク構造ノ理法——構造ノ習練ニ依テ批評ノ規則ヲ設  
ク。

學數科

算術——開平開立。面積。智算ニ着手ス。  
前ノ諸學期ニ於テモ書寫演習ト共ニ必ス多少ノ智算ノ演習ヲ爲サ  
シメタルモノトス、然レドモ高等科ノ末期ニ至ルニ及テハ、進テ中學



科ニ入ルノ豫備トシテ、別ニ智算ノ一課ヲ設ケ、以テ一方ニ於テハ推理力ヲ教練シテ思想及ヒ脩述ヲ精密ニシ、又一方ニ於テハ算術一般ヲ温習スル爲メニスルヲ善トス。按スルニ智算トハ智力ヲ運用サシテ解答ノ路ヲ探求セザルヲ得サシ  
授ル類ノヲ例題ヲ

### 第三學期即チ春期

#### 理學及ヒ哲學科

天文地誌——地球ノ形樣及ヒ之ヲ究定スル法ノ如何。大小、即チ一周圍——兩極直徑——赤道直徑——中心ノ斜傾——兩極。運動、即チ一晝夜運動——一週年運動——結果——晝夜ノ交迭——春分秋分——冬至夏至——春夏秋冬——熱帶線——兩極線——諸帶——晝夜長短ノ不同——諸帶ノ溫度。位置及ヒ遠近ヲ究定スルノ諸法——緯度——經度——赤道——併行線——午子

線——本元午子線。

植物——每週二回ツ、植物學ノ課業ヲ授ク。花ノ解剖。解剖ニ基ツ

ク分類。十種ノ植物ヲ採集シ、稽查シ、分類シ、保存ス。

歷史——合衆國ノ歷史ヲ結了ス。測量遠征及ヒ其結果。農業ノ進歩——商業ノ進歩——内地改良ノ進歩。發明ノ歷史。學校、即チ其設置及ヒ進歩。理學、美術、文事、及ヒ定期刊行物一般ノ進歩。今日人民ノ留心スル所ノ問題ハ何ソ。合衆國ハ他ノ國民ニ對シテ如何ナル關係ニ立ツヤ。國家ニ關スル紛議ハ如何シテ之ヲ結定スルヤ。

#### 語學科

讀方——亞米利加ノ著述家ノ一般ノ拔萃并ニ略傳。著書ノ性質ニ從ヒ著述ヲ分類ス。同部門ニ屬スル相異ナル著述家ノ著書ノ對比。  
作文——當學期ノ諸學科ニ關係スル所ノ事目ヲ題トシテ日々作文ヲ



書寫セシム。日々復誦ニ從事スル時ニ此等ノ事目ヲ選定シテ生徒ニ配布シ、又參考書ヲ指名シテ搜索セシム。此學期中ノ題目ハ主トシテ内國ノ歴史及ヒ文詞學ノ一般ニ關係スル者ニ取ル。此等ノ事項ニ留意セシムルキハ、爲メニ生徒ノ智力ノ範圍ヲ強メ、搜索ヲ盡シ、且ツ之ヲ喜フノ氣習ヲ生シ、高尚ナル事物ヲ喜ブノ故ニ陋劣ナル事物ヲ忌ムニ至ルノ効アリ。

文法〇〇文章學ノ原理ヲ提出シテ實例ヲ示ス。詞類學及ヒ節體學ノエチモロヂー温習。文法ノ原理ヲ解剖ニ應用ス。シメタス

### 數學科

算術〇〇算術連數及ヒ幾何連數。雜例。温習。智算ヲ結了ス。

## 中學科

一般ノ説明 〇〇中學科ニ於テノ課程ハ主トシテ卒業ノ後直チニ商法又ハ工業ニ從事セントスル者ノ利益ヲ計リテ選定シタルモノナリ。何レノ聯合學校ニ於テモ、苟モ科級ノ違アル上ハ、生徒中此科ノ授業ヲ志願スル者甚タ多數ニ居ラザル無シ。

中學科ニ於テ講究セシムル諸學科ハ、啻ニ諸ノ工業ニ從事シテ成功ニ至ルノ關鍵ヲ呈スルノミナラズ、又明智以テ各自ノ職業ヲ選定スルニ必要ナル智識ノ全体ニ關シテ遠大ナル見解ヲ得ルニ缺クベカラザルモノナリ、加之各自ヲシテ人世ノ文化ノ現時ノ情態如何ヲ了知セシムルノ功アリ。



中學科ニ於テ施行スル授業法ハ、漸々分解及ヒ評究ヲ密ニスル者ニシテ、其關係スル所ハ、勢力ト原因ト理法トニ在リ。先ツ外界物体ノ形狀及ヒ資質ヲ憶度シ、之ニ依テ心意ヲ導テ虛形ノ原理及ヒ神靈ノ理法ヲ思觀スルニ至ラシム、而シテ時ヲ竣テ之ヲ以テ人事ニ影響スル各般ノ所業ニ應用セシメントス。

授講スル學科中其全体ヲ詳悉スル者ハ一モ無シ、然リト雖モ亦生徒ヲシテ各科ノ元素ヲ十分ニ習得セシメ、且ツ各科ニ於テ論究スル事目ノ範圍及ヒ本性ニ曉通セシムルニ足ラシムヲ計ル、且ツ向後尙ホ研究ヲ積テ各科ニ熟達スルノ方法ヲ指示スルノ効アルヘシ。

此科ノ各級ニ於テモ諸、ノ形而下理學ヲ繼續セサルニ非ズ、然リト雖モ諸、ノ人文學ヲ漸々深ク修習スル所アラシメントス。第十級ニ至ルマテハ語學ノ演習ヲ以テ特別ノ一科トスルヲ繼續スト雖モ、第十一級

及ヒ第十二級ニ至ルニ及テハ、語學上ノ課業ヲシテ一般ノ課業ニ埋沒セシム、其故ハ此等ノ學科ノ性質タル、思想ヲ鍛練スルガ爲メニ十分ノ範圍ヲ開ク者ナルヲ以テ、從テ或ハ口ニ説キ、書ニ寫シテ、思想ヲ脩述スルガ爲メニ十分ノ範圍ヲ開ク者タレバナリ。此等ノ級ニ於テハ又臨時演習ヲ授クルモ可ナリ、其目的ハ生徒既ニ講究セシ事目ニ關シテ有スル知識ノ深淺ト、種々ノ學科ニ於テ開示セシ原理ヲ配合参照スルノ能力ノ虛弱ト、新奇ノ事物ニ會テ之ヲ辨知スル才能ノ高下トヲ檢討スルニ在リ。最後ニ言フ一事ニ對スル能力ハ、教育上ノ宿習ノ最モ緊要ナル者トス、何トナレハ、是レ即チ生徒ヲシテ其在學ノ間ニ習ヒ得シ智心上ノ勢力ノ全体ヲ轉シテ其一生中ニ遭遇スル各科ノ事目ノ分解又ハ各般ノ事業ノ成功ニ施用スルヲ得シムル所以ノ者ナレバナリ。

大學ニ入ルノ準備ヲ爲サントスル者、又ハ古典科ノ初步ヲ修メント欲



スル者ノ爲メニハ、羅旬語學ヲ以テ構造語學ニ換へ、修辭學ヲ以テ第十級ノ英吉利文辭及ヒ第十二級ノ言詞ノ分解ニ換へ、第十二級ノ美術ノ歴史ニ換フルニ、哲學ノ歴史及ヒ一般ノ文學ヲ以テスベシ。  
書學ハ中學科ノ各級ニ於テ繼續シテ日々之ヲ授クベシ。初級即チ第十級ニ於テハ、書學中ニ遠近經營法、明晦法并ニ自然及ヒ人工ノ物体ヲ摸寫スルコノ練習ヲ包括セシム。第十一、十二ノ兩級ニ於テハ、此學科ヲ繼續シテ或ハ本眞美術ヲ教示シ、或ハ工業ノ一科ニ於テ用弁ベキ者ヲ教示スヘシ、但シ生徒各自ノ嗜好及ヒ事情ヲ酌量シテ其孰レニ付カシムベキヤヲ決スベキナリ、下等ノ諸級ニ於テ授クル所ノ豫備演習ハ、其孰レニ付クニ於テモ最モ善シトスルノ初步ナリ。  
此科ニ於テ授クル音樂ハ清淨且ツ高尚ニシテ精神ヲ感動スルニ適シタル曲調ヨリ成リ立ツベシ。又音樂ノ理學ヲモ其中ニ包括セシメ樂

譜ノ誦讀法ヨリ順チ進テ進ミテ旋ノ結合法ニ至ル迄ノ事ヲ教フベシ。

### 第十級

#### 第一學期即チ秋期

##### 理學及ヒ哲學科

物理〇〥 物体ノ性質ヲ温習ス。重學上ノ勢力、槓杆、斜面、鐵槓、滑車、螺旋。引力、即チ運動、加速動及ヒ減速動、摩擦力、墜體ノ理法、合力動等。水靜論、即チ水壓、機械上ノ利益、實例。水力學。氣學、即チ氣重、唧筒、晴雨計、漏卮、間歇泉等。音學、即チ空氣ノ波動、音聲、音聲ノ傳達、音聲ノ反射等。  
國政〥 政府一般ノ性質、進化、血族ノ長ノ督制、即チ族長政治、最



強者即チ酋長ノ督制—權力ヲ世襲シテ帝王アルニ至ル次第—貴族政治—寡頭政治—祭司政治—人民政治—共和政治。政府三重ノ性質—立法權—行政權—裁判權—合衆國憲法ノ分解。權力ノ本源所主 政府ノ各部ノ權力及ヒ制限。市府政廳郡政廳州政廳及ヒ國政廳ノ章程。

### 語學科

讀方〇〇 || ギツケンズ、サツカレイ及ヒシヨルシ、エリヨット、ノ拔萃及ヒ略傳。三氏ノ著書ノ精神、論題、文態ヲ比較ス。

作文〇〇 || 現時ノ歴史ヲ以テ日々作文ノ基本トス。事實ハ教師之ヲ示シ、或ハ生徒ヲシテ書籍、雜誌、新聞ニ就テ搜索セシム。村内、若シクハ郡内、若シクハ州内、若シクハ國內ニ於テ現ニ公衆一般ノ留心スル所ノ問題ハ何ソ。英吉利政黨—首倡—政治上ノ疑問—教育—文辭—

理學—工業等。佛蘭西、伊太利、日耳曼、露西亞等チ一々稽查シテ現時留心スル所ノ疑問ヲ究定シ、以テ新聞ノ報スル所チ十分ニ理會スルノ資トス。

### 數學科

代數〇〇 || 一次方程式ヲ結了ス。

### 第二學期即チ冬期

### 理學及ヒ哲學科

物理學〇〇 || 熱理論—本源—勢力—蒸氣機關。電氣性質—之ヲ起スノ法如何—「ボルテイク」ベック「拔帝理」—「ガルバニツク」ベック「拔帝理」—電氣機械—電氣性磁氣—天然磁石—電信機。光明—波動說—色—日光分析色—



光明ノ速力—玻璃鏡分析—光明ノ傳達—透鏡—光線屈折—光線反  
射—平面鏡凹形鏡凸形鏡。眼—眼ノ機制及ヒ官能—視力。  
万国史—古代詩文ニ見エタル鬼神誌。アリヤン人種及ヒ其根原  
并ニ傳播。開明ノ初步及ヒ始メテ開明ノ域ニ進ムニ最モ便利ナル  
事情。印度埃及亞細利亞。信憑スヘキ歴史ノ端緒。バビロンニ、  
—亞細利亞。—彌度及ヒ波斯帝國。希臘其編年紀其鬼神誌其文辭其  
美術。羅馬其建國其進步其滅亡羅馬ノ美術文辭及ヒ法律。羅馬ノ  
滅亡ニ尋テ起リシ數世代ノ變動。

語學科

讀方—マコウレ、シヨ、スチウアルト、ミル、カアライル、及ヒ、ラスキ  
ノノ拔萃。其著書ヲ比較シ分類ス。  
作文—此學期中ノ書寫作文ハ歴史課ニ於テ研究スル時代ノ事變ニ

關スル史論及ヒ修辭學ノ研究ヲ十分ニスルニ必用ナル演習ノミニ  
限ルヘシ。

修辭學—文章著述ノ体裁。字畫及ヒ其使用ノ理法。字畫ノ用法ヲ  
示スニ足ル實例ノ文章中ヨリ搜索ス。字畫ヲ使用スル構造課業徒

習ヲシテ文章ノ構造ヲ練

羅句語—生徒ノ隨意ニ修辭學ニ替ヘテ之ヲ修メシム。

數學科

代數—二次方程式ニ至ル。

第三學期即チ春期

理學及ヒ哲學科

植物學—花ノ解剖及ヒ植物ノ分類。顯微鏡ヲ以テスル植物ノ研究。



二十種ノ植物ヲ采集シ、稽查シ、分類シ、保存ス。  
萬國史 || 中古ノ紛亂中ヨリ近代ノ國民ノ漸ク成リ出テシ次第。西  
班牙ニ起リシ「モスレム」帝國ノ權力。教法上ノ信仰ノ影響。「宗教改  
革」印刷術ノ發明。亞米利加ノ發見。英吉利ニ於テノ立憲政府ノ  
起源。西班牙ノ權力ノ衰微。近代ノ佛蘭西、一專制政府、一宗教戰爭  
ノ革命變動、一尙武精神。伊太利及ヒ日耳曼ノ國民ノ團結。都兒格  
ノ權力、其起源、進步、滅亡。露西亞、其進步、及ヒ遺訓ニ係ル國是。

語學科

讀方 || ウタルタル、スコット、コレリツヂ、ウオルズウオルス、ホウード、ラ  
ム、テニソンノ拔萃。其著書ヲ比較シ、分類ス。

作文 || 日々作文ハ史論及ヒ修辭學ニ關係スル演習ヨリ成リ立ツヘ  
シ。史論ハ須ラク左ノ如キ題ニ依ルヘシ、トーマス、ア、ベツケット、ガ

リ、チ、ギユーテンベルグ、コルチリヤス、アグリッパ、ロベルド、ブルース  
クリストフアル、コロンバス、ナポレオン、ボナバルト、フレデリック、ゼ、グ  
レイト、ヒュンボルト等ノ略傳。ローデス島、コンスタンチノッブル、モ  
ルタ、グラナダ、和蘭陀、タクスホルド大學校、ケヤムブリッヂ大學校、ボロ  
グナ大學校等ノ略歷。西班牙ノ「マルマダ」艦隊中古ノ通商組合、僧侶  
ノ會同等ノ紀事。

修辭學 || 文態ノ解剖。文体ニ關スル善良ナル好尚ノ法則。思想及  
ヒ修述ノ性質ニ基ツク批評ノ元素。思想ノ種々ノ部門ニ適シタル  
文態ノ優劣ヲ示スニ足ル實例。

羅旬語 || 生徒ノ意ニ任シ修辭學ニ換ヘテ修メシム。

數學科

代數 || 代數ノ初步ヲ結了シ、溫習ス。代數ト算術トニ於テ用弁ル方



法及ヒ原理ノ比較。

### 第十一級

#### 第一學期即テ秋期

##### 理學及ヒ哲學科

化○學 || 普通金屬ノ形質ヲ温習ス。稍、普通ナル金基鹽類ヲ稽查ス。

實檢ニ依テ化學上ノ結合ノ理ヲ教示ス、但シ生徒ヲシテ試驗ヲ實行セシムベシ。「アルカリ」性物、及ヒ酸性物、單純結合物。酸素及ヒ其結合。水及ヒ空氣、其成分及ヒ結合ノ如何。熱ノ化學上ノ結果生徒ヲ

シテ自ラ施サシムル試驗ニ依テ限定比例ノ實例ヲ示ス。

心○理○哲○學 || 心意ノ諸能力ノ分解、各能力ノ特殊ノ官能及ヒ諸能力ノ

發育ノ順序。正當ナル順序ニ從テ此等ノ發育ヲ確保スルノ最善良法。心意ノ身軀ニ對スル關係、及ヒ他人ノ神經ニ對スル關係。知識ノ心意ノ發育ニ對スル關係。

##### 語學及ヒ文辭科

英○文○辭○課 || 英語ノ歷史上ノ觀測。ケルト語ノ元素、羅馬人侵入ノ時ニ入り來リシ羅匈語ノ元素、撒遜語ノ元素、噠馬語ノ元素、諾曼語ノ元素、及ヒ其他種々近代ノ本源ニ出ツル元素。古代文辭ヲ簡略ニ觀測シ、特ニチャウサルノ詩篇ニ注意ス。女王以利沙伯時代ノ文辭ヲ觀測シセクスピアヲ以テ中心ノ大家トス。セクスピアノ戯曲ノ二三篇ヲ教場ニ於テ朗讀セシメ、之ヲ情緒、思想ノ畫一、及ヒ修述法ニ關シテ分解ス。バイコンノ著書、及ヒ其理學ト、文辭トニ及ボセシ影響。

作○文 || 古代ノ英文辭並ニ心理哲學及ヒ化學上ノ演習ニ關係スル種



々ノ事目ヲ題トシテ文ヲ作ラシム。  
羅○句○語○ || 生徒ノ隨意ニ英文辭ニ換ヘテ修メシム。

數學科

幾○何○ || 幾何ヲ因物的ニ提出ス、而シテ當學期中ニ初メノ三卷ヲ結了シ、生徒ヲ導テ種々ノ命題ノ原造微理テ自身ニ已ルニ方ヲ云フヲ以テ爲スニ至ラシム。

第二學期即チ冬期

理學及ヒ哲學科

化○學○ || 分子論。限定比例ノ理法ノ實例ヲ十分ニ示ス。化學上ノ新名目ヲ教示シ應用ス。試驗ヲ以テ親和力ノ理法ヲ設定ス。化學上ノ反動抱合。光明、電氣ノ化學上ノ結果。地味ノ化學。生活ノ化學

又上ノ抱合ニ及ボス結果。有機化學—生長—、醱酵—產物—腐敗。  
必○理○哲○學○ || 教育ノ諸學科ヲ其各科ニ依テ發動セシメ得ヘキ心意ノ能力ニ關シテ殘ラズ稽查ス。種々ノ職業及ヒ專門ヲ同様ニ稽查ス。此等ノ稽查ニ依テ一切ノ有爲思想ノ引指ト成ルベキ普關理法ヲ設定ス。智心鍛鍊ノ全途ニ於テ諸學科ヲシテ占メシムヘキ地位ヲ教示ス。

語學及ヒ文辭科

英○文○辭○ || 「清淨教徒」ノ起源。ミルトン、其著述及ヒ之ニ依テ將來ノ思想ノ上ニ及ホセシ結果。女王安時代ノ文辭アヤソン—スチール—スウヰフト—スペクター—トール雜誌。ポーブ其著書及ヒ著書ノ影響。ザミユエル、ジョンソン、其著作、文体、及ヒ文辭ノ上ニ及ボセシ影響。ウチタル、スコット公—エジソン—ブラ評論者—パイロン。歴史家—



ヒユームーキツボンーロバートソフーハラムーマコウレール  
イド。日耳曼文辭ノ英人ノ思想ニ及ボセシ影響。今日ノ英文辭。  
作文。文辭ヲ題トスルノ論文、及ヒ化學並ニ心理哲學ノ論文。  
羅旬語。生徒ノ意ニ任シテ英文辭ニ換ヘテ修メシム

數學科

幾何。第四、第五、及ヒ第六ノ卷ノ課業ヲ結了シ、生徒ヲシテ教科書ニ  
載スル微理法ニ拘泥セズシテ、自ラ之ヲ原造セシム。

第三學期即チ春期

理學及ヒ哲學科

比較生理學。動物ノ劣等ナル者ヲ稽查ス。空中水中等ニ生活スル  
極微動物。消化統系、呼吸統系、循環統系、神經統系、等ノ漸次分化スル

次第。動物ノ元型ニ射型動物、關節動物、輕体動物、有脊動物等ノ差別  
アルニ從テ種々ノ統系ノ備フル所ノ形ニ差同アル。植物類ト動  
物類トノ活体ノ運營ノ比較。

植物學。每週二回ツ、授ク。十種ノ植物ヲ采集シ、分類シ、保存ス。  
無花植物ノ特別研究。

道德哲學。道德ノ範圍ハ一人ヨリ他ノ人ニ對スル一切ノ關係ヲ  
包含スルモノナル事。道德上ノ行爲ノ基礎。人類ノ存在ニ依テ生  
スル人類ノ所須。義務ノ權利ニ因テ生スル。權利ノ所須ニ根原  
スル。反面本分及ヒ正面本分ノ由來。勞力ノ必須、及ヒ人タル者  
ノ各、盡スベキ勞力ノ分量。清潔、秩序、節檢、明智ノ道德。勉強、保養、遊  
戯、勞働、舞踏、抽鬮、賭博、投機、亞耳箇兒性ノ酒類ヲ販賣シ飲用スルコト  
ニ關係スル道德ノ原理ノ分解。通商、政治、及ヒ一般ノ社會ノ交際ノ



上ノ道德。道德上ノ原理ヲ人生一切ノ事物ニ應用スルコト。

語學科

言詞ノ分解。アリアン種ニ屬スル國語ノ歷史上ノ觀測。言詞ノ根元及ヒ其變轉。字母及ヒ音便ノ相通變交ノ普關理法。語頭及ヒ語尾。其變化及ヒ應用。結合及ヒ分派ノ理法ヲ解明スルニ足ル言詞ヲ列記ス。英語ノ成長、其規則及ヒ理法。常語ノ來歷、即チ其根源及ヒ變轉ヲ實例ニ因テ明示ス。

作文。生理學及ヒ道德哲學ノ論文、及ヒ言詞分解ノ演習。

羅旬語。生徒ノ隨意ニ言語ノ分解ニ換ヘテ修メシム。

數學科

幾何。初歩幾何學ノ十卷ヲ結了シ、生徒ヲシテ前ノ二學期ニ於テノ如ク必要ノ圖形ヲ工夫シ、原造ノ課業ヲ窮究セシム。

第十二級

第一學期即チ秋期

理學及ヒ哲學科

地質學。主要ナル石屬ヲ溫習シ比較ス。石屬ノ措置及ヒ次序。火成石屬及ヒ水成石屬。地質上ノ勢力、即チ霜、暑、雨、雪、風、冰原、電氣、火山、地震、等ニ因テ地球ノ表面ニ變化ヲ生スルノ作用。

論理學。歸納推論法及ヒ演繹推論法。二法ニ關スル心意ノ作用。推論ノ理法ヲ開示シテ討究、工業、及ヒ百般ノ人事ニ應用ス。

語學及ヒ文辭科

美術史。古代ノ國民、即チ埃及、印度、亞細利亞、及ヒ希臘ノ美術ノ建築



形狀、裝飾、並ニ彫像ニ現ハル、所ヲ示ス。自然ノ美術ハ自然ノ形狀及ヒ境遇ノ事情ノ結果ナルヲ自然ナチユラルハ國民則チナシヨナヲ誤植建築ニ現ハル、羅馬美術ゴシック美術サラセン美術及ヒ東洋美術。詩歌ニ現ハル、埃及、エトルリヤ、希臘、支那、佛蘭西及ヒ英吉利ノ美術。繪畫。中古ノ大ナル畫流、伊太利派、フレイミング派、西班牙派及ヒ和蘭佗派。佛蘭西及ヒ英吉利ノ畫家。音樂、其進化及ヒ數多ノ部門。伊太利及ヒ日耳曼ノ音樂。演說堂及ヒ奏樂堂。

數學科

三角術 || 平面三角術ノ原理ヲ提出シ、實例ヲ舉示シ、實際ニ應用ス。

作文 || 地質學及ヒ論理學ノ演習並ニ美術ノ論文。

羅旬語 || 生徒ノ隨意ニ美術史ニ換ヘテ修メシム。

學二學期即十冬期

理學及ヒ哲學科

地質學 || 石屬ヲ建造スル珊瑚蟲ノ諸種ノ成績。地質上ノ變化ト有機的ノ活物トノ相互ニ及ボス結果。古生物學、即チ石屬中ニ見エタル古代ノ生物ニ關シテノ證據。地質上ノ變化ノ人類ノ歴史及ヒ情態ニ對スル關係。

星學 || 星宿ノ位置及ヒ其相互ノ關係ノ觀察。他人ノ作セシ觀察ニ依テ位置及ヒ變化ニ關スル事實ヲ得ルヲ。星宿及ヒ主要ナル星ノ名稱。直昇、斜傾、及ヒ變位。

經濟學 || 種々ノ工業ノ進化。開明ノ進歩ニ關スル漸次ノ進化。開明ノ歴史ノ事實ノ研究ニ因テ進歩ノ方向ニ關スル普關理法ヲ開示ス。工業ノ境遇ニ依テ異ナルノ度如何。種々ノ工業ヲ窮究スルニ



從ヒ分業及ヒ產物ノ改良アルニ至ル事。經濟及ヒ教育ノ點ヨリ定ムル分勞ノ制限。貿易ハ事情ノ差同ト分勞トノ必然ノ結果ナルヲ。固有ノ富資及ヒ交易上ノ富資并ニ之ヲ生スル法如何。

語學及ヒ文辭科

哲學史〇〇 古代國民ノ鬼神誌。鬼神誌漸ク轉シテ釋思上ノ信仰ト成ルヲ。希臘人ノ哲學統系—ソクレチース—プラトニー—アリストートル。古代ノ哲學ノ學派—エピキュリアン派—ストアイツク派。近代ノ哲學ノ再興。佛國哲學士—デガルト—コムト—クウザン—マールブランシ。獨逸哲學士—スピノザ—カント—セルリング—ヘイゲル—フヒテ等。英吉利哲學士—ベイコン—ロツク—スチユアルト—ハミルトン—ミル—スペンセル等。近代理學ノ起源及ヒ其哲學ニ及ボセシ影響。

作文〇〇 經濟學及ヒ哲學ノ論文。地質學及ヒ星學上ノ演習。  
羅旬語〇〇 生徒ノ隨意ニ哲學史ニ換ヘテ修メシム。

數學科

三角術〇〇 圓形三角術其原理及ヒ應用。

第三學期即チ春期

理學及ヒ哲學科

星學〇〇 太陽統系ニ關シテ觀察シタル事實ニ因ル推度。地中論及ヒ天中論。太陽其位置其大小及ヒ其運動。惑星其大小相對ノ位置及ヒ運動。望遠鏡種々ノ惑星ノ表相及ヒ其說明。光線ノ速力。彗星—其特異ノ形狀及ヒ離中軌道。恒星ノ距離。星雲。其位置及ヒ表相、世界ノ成長ニ關スル星雲思想タル凝聚トシテ世界ヲ成リ恒星ノ運



動及ヒ衆天体ノ結合ニ關シテ稜三角玻璃鏡ノ分解ニ依テ得タル結果。

經濟學〇〇〇 商業ノ漸次進化。商業運營ノ方策並ニ其成功ヲ致スノ要狀。商業ニ從事スルヲニ關スル道德ノ原理。交易ノ媒介ノ必須、此クノ加キ媒介物ノ必ス備フヘキ資質。貨幣其發行及ヒ融通。銀行事業ノ進化。爲替銀行―貯蓄銀行―割引銀行。紙幣其必須及ヒ價格ノ準度。貨幣ノ商業ニ對スル關係。資本及ヒ勞力、二者ノ間ノ似有ノ敵對。傭主及ヒ被傭者。政權ニ依テ起業ヲ督制スルヲ。株式會社。資本ノ結合。商賈一致。職人一揆。其倫理及ヒ結果。此敵對ヲ調停スル者知識ノ傳播ト公衆一般ニ經濟及ヒ道德ノ原理ヲ認識スル事トノ外ニ無キヲ。協同事業―其性質、歴史、及ヒ結果。

語學及ヒ文辭科

萬國文辭學〇〇〇 古代國民即チ埃及、希臘、羅馬、波斯、印度及ヒ支那ノ文辭ノ簡單ナル觀測。近世文辭ノ漸次興起及ヒ進歩。理學上ノ研究及ヒ有形上ノ改良ノ文辭ニ及ホセシ影響。世界ノ貴要ナル國々ノ文辭ノ現狀。

作文〇〇〇 星學ノ演習及ヒ經濟ト萬國文辭學トニ屬スル事目ヲ題トスル作文。

數學科

測量〇〇〇 幾何學及ヒ三角術ノ原理ヲ測量ニ應用ス。



第十五章

地方學校及其編制

◎地位ノ對比 || 市府ニ在テモ、地方ニ在テモ、教育ノ目的トスル所ハ一ナリ、然リト雖モ其事情ニ至リテハ相同シカラザル者アルガ故ニ、學校ノ如キモ多少編制及ヒ全体ノ規模ヲ異ニセザル可カラザルコト必然ノ理ナリ。市府ニ於テハ數多ノ生徒一地ニ集合スルヲ以テ、科級ヲ編成シ、教師ノ勞力ヲ分割スルコト極メテ易シト雖モ、地方ニ在テハ、到底之ニ及フヲ難シ、且ツ資金ノ如キモ、地方ニ在テハ大ニ散亂セルニ反シテ、市府ニ在テハ輻湊セルヲ以テ、校舍ノ建築及ヒ其他一切ノ教育上ノ器用ニ關シテ利益地方ニ勝ルモノアリ。サリトテ又地方ニ於テ

モ得ル所無キニ非ス、若シ地方ノ學校ニシテ措置善ク明智ニ稱ヘルキハ結果ノ優等ナルヲ市府ノ學校ニ比スレバ却テ一層ノ高點ニ近キヲ意想ノ外ニ出ツル者アリ。

米國ノ數多ノ部分ニ於テノ地方學校ノ形狀ノ陋劣ナル所以ノ者、一部ハ固有ノ缺點ニ因リ、一部ハ偶發ノ原因ニ由ルモノトス。其固有ノ缺點ハ、大ニ之ヲ改良スルヲ得ベク、其偶發ノ原因ニ出ツル者ハ、特ニ地方ニ屬スル一切ノ利益ヲ十分ニ弘張スルコト、其所須ヲ十分ニ酌量スル聰明ナル管理法トニ依テ除クヲ得ヘシ。

利益 || 地方ノ學校ノ教育上占ムル所ノ地位ニ屬スル利益ノ輕少ナラサルコトハ、教授ノ方法漸次進歩シテ正理ニ合ヘルニ至ルニ從ヒ、世人ノ益、明瞭ニ理解スル所ト爲ルヘシ。地方ニ於テハ、材料ニ資金ヲ費サスシテ一切ノ初等教育ノ基本タル博物學上ノ課業ヲ授クルヲ得



ベシ、而シテ生徒日々直チニ造化ニ接スルガ故ニ、此課業ヲシテ興アリ  
 利アラシメ得ヘキヲ、市府ニ二倍スヘシ。心意成長ノ作用ハ遅々タル  
 者ニシテ、發動ノ時ト靜息ノ時ト相次テ出テ、ノヲ要セリ。然ルニ市  
 府ニ在テハ、轟々擾攘絶エズ、動搖斷エザルニ因リ、只タ心意ノ發動ヲ誘  
 促スルノミ、之ヲシテ靜息ノ機會アラシメズ、此機會ハ獨リ地方ニ於テ  
 求ムルノ外無シトス。心意ノ能力ヲ醒起スルノ方策ヲシテ正當ナラ  
 シムルノ準備ニ缺乏無クンバ、心意ヲシテ健全ニ成長セシムルニ必要  
 ナル事情ハ却テ地方ノ學校ニ於テ多ク存スルモノナリ。然リト雖モ  
 亦教師タル者ハ宜ク注意シテ生徒ノ思想ヲ活潑ナラシメ、以テ或ハ知  
 覺ノ習練不足スルヨリ心意ノ停滯ヲ來シ、或ハ經驗不足スルヨリ偏狹  
 ニ流ル、等ノヲ豫防セザル可カラズ。  
 田舎ノ生活ニ屬スル今一ノ利益ニシテ、學者ヲ養成スルノ効アル者ハ

實業學術相共ニ授ク得ヘキ事コレナリ。田舎ニ於テハ、男兒ノ爲メニ  
 モ女兒ノ爲メニモ、學フヘキ物アルト同時ニ又爲スヘキ事アラザルハ  
 無シ、是ヲ以テ若シ正當ナル制限ヲ守テ實業ヲ授ケ、之ヲ過度ニシテ疲  
 勞ヲ招クカ如キヲ無キトキハ、必ス以テ智心上ノ活潑ヲ添フル原因ノ  
 一ト爲スヲ得ヘシ。市府并ニ地方ノ學校ノ教育ノ事ヲ經驗セシ教  
 師ハ、皆舉テ市府ノ生徒ニ比スレバ地方ノ生徒コソ課業ニ熱心シ且ツ  
 一定ノ歲月ノ間ニ進歩スルヲ一層較著ナルヲ保證セリ。此事タル必  
 ス一部ハ地方ノ學校ニ於テ授クル實業ノ、銳意ト克壯トヲ起スニ適シ  
 タルト、一部ハ其學期ノ、市府ノ學校ノ學期ニ比スレバ短キトニ因ルヲ  
 ナラサルヲ得ズ。

有名ノ生理家タリ、醫士タル「ドクトル」セグイン氏ノ主持スル所ニ依レ  
 バ、戶外ノ勉強コソ身體ノ健康、心意ノ活潑ヲ促進スルニ最モ大功アル



モノナリ。氏以爲ク、生徒ヲシテ尙ホ甚タ幼少ナル時ヨリ、直チニ「造化」ニ接セシムヘク、苟モ戶外ニ於テ授ケ難キニ非サル課業ハ、必ス之ヲ戸内ニ於テ授クヘカラスト、而シテ此企圖ヲ實行セシガ爲メニ、市府ニ於テハ公園ヲ轉シテ教育上ノ一大興作ト爲シ、此ニ於テ生徒ヲシテ直チニ「造化」ニ當テ講究セシムルノ策ヲ主張セリ。此策タル、假令現時ニ實行セシ難キモノナラシムルモ、到底教育上甚タ必要ナル改革ノ方向ヲ指示スル者ナルヤ疑ヲ容レズ。然ルニ地方ハ初ヨリ斯クノ如キ改良教育法ニ緊要ナル事情ヲ備フルコト市府ニ比スレバ遙ニ大ナリサレバ先ツ地方ノ學校ヨリ着手シテ斯ル考案ヲ實地ニ施行セント計ルコト至當ノ義ナレト信ズ。

**缺點** 地方ノ學校ニ本來附着スル不利中ノ最モ著大ナル者ハ他無シ、生徒ノ員數僅少ナルガ爲メニ、正當ナル科級偏成法ヲ施スニ由シ

無キコトコレナリ。年齢及ヒ學力ノ種々相異ナル生徒同一ノ教場ニ來集シテ、互ニ進歩ノ機會ヲ妨碍シ、初學ノ授業モ、高等ノ授業モ同時ニ施行スルガ故ニ、互ニ相支障シ、又教師タル者モ、其力ヲ用非ルノ範圍甚タ汎濫ナルカ爲メニ、何レノ一科ニ於テモ熟練ニ至ルコト無ク、孰レノ級ニ對シテモ十分ノ効績ヲ見ルコト能ハザルナリ。凡ソ斯クノ如キ弊害ハ、地方ノ學校ノ性質ニ於テ到底避ケ難シトスル所ナリト雖モ、其之ニ因テ生スル不良ナル結果ニ至リテハ、編成法及ヒ管理法ヲシテ宜シキヲ得シムルニ因テ之ヲ減省セシコト亦難キニ非サルナリ。

**監督委員** 地方學校ノ編成タル種々ナリト雖モ、其成功特ニ顯著ナル者ハ、例ヘバ一郡ノ内ニ在ル數ヶ所ノ學校ヲシテ、一箇ノ監督委員ノ指揮スル所ヲラシムルノ法コレナリ。此法ノ各地方ニ委員ヲ置クノ法ニ勝レル所以ノ者多シ、一ニ處置更ニ善ク明智ニ合ヘル事、二ニ一



層適當ナル教師ヲ用非ル事、三ニ一層善良ナル校舍ヲ建築スル事、四ニ學校ノ器具ノ保存一層周密ナル事、五ニ監督一層聰明ナル事、及ヒ六ニ税金ノ配當一層衡平ナル事コレナリ。又斯クスルトキハ委員宜シキヲ計リテ學校ニ依テ科級ヲ分別シ、中央便宜ノ地ニ在ル學校ヲ以テ高等ナル科級ノミヲ教授スル處ト爲スコトヲ得ベシ。此權力ノ運用ニシテ果シテ正當ニ出ツルトキハ、地方學校ノ編成ニ固着スル最大缺點ヲ過半ハ醫治シ、之ヲシテ殆ト市府ノ學校ニ讓ラザルノ効力アラシムルコトヲ得ベシ。此法ヲ採ルトキハ教師タル者モ亦雜級學校ノ弊害ヲ著シク減少スルコトヲ得ベシ、何トナレバ級數ヲ最モ少ナクシ、全校ノ演習ヲ一層多クシ、合理ノ方法ヲ自在ニ採用シ、書寫ノ課業ヲ益、弘ク提出シテ實施スルコトヲ得ベケレバナリ。地方學校ニ附着スル此餘ノ缺點ノ如キハ州廳ト郡廳ト教師トノ盡力ニ依テ悉ク修補スルコト

ヲ得ヘシ。

**校舍** 國中多クノ地方ニ於テハ校舍及ヒ其周圍ノ附屬物ノ鄙陋ナル、實ニ郷社ノ爲メニ恥ツヘキモノアリ。校舍ハ其地方ノ衆兒童ノ幼年ヲ經過スルノ處ニシテ、而モ一生ノ最モ永久ナル銘心ヲ受クル處ナリ、然ルニ建築ノ費用ヲ吝ムノ餘リ形狀醜惡ヲ極メ、雨風ヲダニモ十分ニ防禦スルニ足ラズ、内ハ尋常ノ豫樂ヲ缺キ、外ハ禮節ノ要スル所ノ便利ヲモ亡ヘリ。余輩此事ヲ憶フ毎ニ慨歎セザルハ無シト雖モ、稍、心ヲ慰ムルニ足ルコト、云フハ、現今改良ニ着手スル處アリテ、斯ク當局ノ諸人ノ耻辱トナルヘキ形狀漸々醇化セントスル是レナリ。

校舍ハ便利且ツ愉快ナル地位ニ在リテ、建築善良ナラントヲ要ス。十分ニ風雨寒暑ヲ防禦スルニ足り、房室ノ排置生徒ノ豫樂安易ニ適當セサルヘカラズ。就中採光ト、採温通氣ノ事トニ深ク注意シ、温度ノ一様



ヲ保維シテ新鮮空氣ノ給支ヲ十分ニスベシ。今日ト成リテハ、衛生ノ理法モ明瞭ニシテ器用モ不足無キコトナレバ、汚氣ヲシテ生徒ヲ毒害セシムルアルキハ全ク教師ノ不注意ニ歸セザルヲ得ズ。此外ノ諸事ニ關シテ校舍ニ必要トスル事ヲ概シテ言ヘバ、之ヲシテ相當ノ住居ニ缺クヘカラズト認ムル所ノ者ヲ悉ク具備セシム可キナリ。

裝置及ヒ書籍

地方學校一般ノ今一ノ缺點ハ授業ノ奏功ニ必要ナル裝置及ヒ書籍不足スル事コレナリ。誰レシモ農作ノ器具ヲ支給セズシテ農夫ヲ雇使セントスル者無カルヘシ、而シテ裝置ヲ備ヘスシテ教師ニ其業ヲ全クセシコトヲ望ムノ愚ナルハ、猶ホ農夫ニ鋤及ヒ其他ノ農具ヲ貸サスシテ收穫ノ豐澤ナルヲ望ムノ愚ナルガゴトシ。此事ニ關スル緩慢ハ、一部ハ裝置ノ要用ノ如何ニ關スル總念ノ誤マテルニ因リ、一部ハ成ル可ク費用ヲ減省セント欲スルニ因ルナリ。然リト

雖モ真正ノ節儉ハ費用ヲ減省スルヨリモ、寧ロ之ヲ聰明且ツ正當ニスルニ在ルコト、理ノ見易キ者ナリ、何トナレバ、後ノ場合ニ於テハ、學校ノ實益莫大ニ増加スレバナリ。

大抵ノ地方學校ニ於テハ、高價ナル裝置ヲ要セザルモノトス。授業ヲ解明センガタメ須非ベキ者ハ、教師及ヒ生徒ノ些少ナル金錢ヲ以テ自ラ採集スルニ堪ユヘキ所ニ非サルハ無シ。最モ完全ナル結果ヲ保セシムガ爲メニ缺ク可カラサル者ハ、地球儀ト、數面ノ輪廓地圖彩色ヲ施サ廉、價ナト、數面ノ郡區ノ繪圖ト、數多ノ上等ノ塗板ト、博物學ノ種々ノ部門及ヒ各般ノ製造ヲ解明スルニ用井ル標品ヲ入レ置ク棚トナリ。必要ナル書籍ハ、大全字書一部、合衆國通史一部、人名字書一部、及ヒ簡明ナル理學ノ百學節府一部トス。生徒ヲシテ百科節用ノ如キ者ヲ自在ニ使用セシムルキハ、大ニ教育一般ノ結果ヲ增益シ、年々ニ其代價ヲ償フノ